

2022年度 大学院政策創造研究科 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

【発行日：2022/5/2】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

(修士課程) 基本科目_必修 【XW001】 政策分析の基礎 [石山 恒貴、柿野 成美、橋本 正洋、高尾 真紀子、増淵 敏之、井上 善海、小方 信幸、須藤 廣] 春学期後半/Spring(2nd half)	1
(修士課程) 基本科目_必修 【XW002】 政策ワークショップ [柿野 成美、石山 恒貴、橋本 正洋、増淵 敏之、高尾 真紀子、井上 善海、小方 信幸、上山 肇、須藤 廣] 春学期前半/Spring(1st half)	2
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW003】 調査法 [高尾 真紀子] 秋学期前半/Fall(1st half)	3
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW004】 研究法 [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	4
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW005】 研究法 [上山 肇] 秋学期前半/Fall(1st half)	4
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW006】 研究法 (中国語) [鳥丸 知子] 春学期前半/Spring(1st half)	5
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW007】 質的研究法 [齊藤 弘通] 春学期後半/Spring(2nd half)	5
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW008】 人的資源管理論 [石山 恒貴] 秋学期前半/Fall(1st half)	6
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW009】 地域活性化システム論 [高尾 真紀子] 秋学期前半/Fall(1st half)	7
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW010】 文化地理学 [増淵 敏之] 秋学期前半/Fall(1st half)	8
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW011】 都市空間論 [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	9
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW012】 観光社会学 [須藤 廣] 秋学期前半/Fall(1st half)	10
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW013】 地域産業論 [橋本 正洋] 秋学期前半/Fall(1st half)	11
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW014】 中小企業論 [井上 善海] 秋学期前半/Fall(1st half)	12
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW015】 CSR 論 [小方 信幸] 春学期前半/Spring(1st half)	13
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW101】 少子高齢化と社会保障 [高尾 真紀子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	14
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW102】 ウェルビーイング論 [高尾 真紀子] 春学期前半/Spring(1st half)	15
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW103】 実証分析入門 [柿野 成美] 秋学期後半/Fall(2nd half)	16
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW104】 雇用政策研究 (マクロ) [石山 恒貴] 春学期前半/Spring(1st half)	17
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW105】 キャリア理論と統計分析 [片岡 亜紀子] 春学期後半/Spring(2nd half)	18
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW106】 キャリア政策研究 [岸田 泰則] 秋学期前半/Fall(1st half)	19
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW107】 地域雇用政策事例研究 [石山 恒貴] 秋学期後半/Fall(2nd half)	20
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW108】 人材育成論 [石山 恒貴] 春学期後半/Spring(2nd half)	21
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW109】 地域コミュニティ論 [中島 由紀] 秋学期後半/Fall(2nd half)	22
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW110】 消費者政策論 [柿野 成美] 春学期後半/Spring(2nd half)	23
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW111】 生活政策論 [柿野 成美] 秋学期前半/Fall(1st half)	24
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW112】 男女共同参画政策論 [池永 肇恵] 春学期後半/Spring(2nd half)	25
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW113】 実践地方行政論 [池永 肇恵] 秋学期後半/Fall(2nd half)	26
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群 【XW114】 地域社会論 [上山 肇] 秋学期後半/Fall(2nd half)	27
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW115】 比較都市事例研究 [上山 肇] 春学期後半/Spring(2nd half)	28
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW116】 文化基盤形成論 [増淵 敏之] 秋学期後半/Fall(2nd half)	28
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW117】 コミュニティメディア論 [北郷 裕美] 秋学期後半/Fall(2nd half)	29
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW118】 都市文化論 [増淵 敏之] 春学期前半/Spring(1st half)	30
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW119】 ニューツーリズム論 [須藤 廣] 秋学期後半/Fall(2nd half)	31
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW120】 文化社会学 [宮入 恭平] 春学期後半/Spring(2nd half)	32
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW121】 地域ブランド論 [金子 和夫] 秋学期前半/Fall(1st half)	33

(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW122】 コンテンツツーリズム論 [増淵 敏之] 春学期後半/Spring(2nd half)	34
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW123】 フィールドワーク論 [須藤 廣] 春学期後半/Spring(2nd half)	35
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW124】 フィールドワーク演習	35
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW125】 メディア産業論 [増田 弘道] 春学期前半/Spring(1st half)	36
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW126】 イベント・フェスティバル論 [山中 聡] 秋学期前半/Fall(1st half)	37
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW127】 観光マーケティング論 [青木 洋高] 春学期集中/Intensive(Spring)	38
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW128】 観光とメディア [松本 健太郎] 春学期前半/Spring(1st half)	39
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW129】 地域経営戦略論 [橋本 正洋] 春学期後半/Spring(2nd half)	40
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW130】 地域イノベーション論 [橋本 正洋] 春学期前半/Spring(1st half)	41
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW131】 非営利組織特論 [今瀬 政司] 春学期集中/Intensive(Spring)	42
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW132】 商店街活性化論 [井上 善海] 秋学期後半/Fall(2nd half)	43
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW133】 新産業創出論 [井上 善海] 春学期後半/Spring(2nd half)	44
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW134】 イノベーション・マネジメント論 [田中 克昌] 秋学期前半/Fall(1st half)	45
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW135】 経営戦略論 [井上 善海] 春学期前半/Spring(1st half)	46
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW136】 ESG 投資と企業経営 [小方 信幸] 秋学期前半/Fall(1st half)	47
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW137】 SDGs と企業経営 [小方 信幸] 秋学期後半/Fall(2nd half)	48
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW138】 ダイバーシティ経営 [斎藤 悦子] 秋学期前半/Fall(1st half)	49
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW139】 コーポレートガバナンス [林 順一] 秋学期後半/Fall(2nd half)	50
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW140】 企業活動と社会 I [小方 信幸] 春学期後半/Spring(2nd half)	50
(修士課程) 関連科目 【XW141】 経済学 [梅溪 健児] 春学期後半/Spring(2nd half)	51
(修士課程) 関連科目 【XW142】 社会学 [須藤 廣] 春学期前半/Spring(1st half)	52
(修士課程) 関連科目 【XW143】 レポートライティング [菅野 雅子] 春学期後半/Spring(2nd half)	53
(修士課程) 関連科目 【XW144】 英語論文文献講読 [橋本 正洋] 秋学期後半/Fall(2nd half)	54
(修士課程) 演習科目 【XW201】 プログラム演習 [柿野 成美] 春学期授業/Spring	55
(修士課程) 演習科目 【XW202】 プログラム演習 [柿野 成美] 秋学期授業/Fall	56
(修士課程) 演習科目 【XW203】 プログラム演習 [石山 恒貴] 春学期授業/Spring	57
(修士課程) 演習科目 【XW204】 プログラム演習 [石山 恒貴] 秋学期授業/Fall	58
(修士課程) 演習科目 【XW205】 プログラム演習 [高尾 真紀子] 春学期授業/Spring	59
(修士課程) 演習科目 【XW206】 プログラム演習 [高尾 真紀子] 秋学期授業/Fall	60
(修士課程) 演習科目 【XW207】 プログラム演習 [増淵 敏之] 春学期授業/Spring	61
(修士課程) 演習科目 【XW208】 プログラム演習 [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	61
(修士課程) 演習科目 【XW209】 プログラム演習 [上山 肇] 春学期授業/Spring	62
(修士課程) 演習科目 【XW210】 プログラム演習 [上山 肇] 秋学期授業/Fall	63
(修士課程) 演習科目 【XW211】 プログラム演習 [須藤 廣] 春学期授業/Spring	64
(修士課程) 演習科目 【XW212】 プログラム演習 [須藤 廣] 秋学期授業/Fall	65
(修士課程) 演習科目 【XW213】 プログラム演習 [橋本 正洋] 春学期授業/Spring	65
(修士課程) 演習科目 【XW214】 プログラム演習 [橋本 正洋] 秋学期授業/Fall	66
(修士課程) 演習科目 【XW215】 プログラム演習 [井上 善海] 春学期授業/Spring	67
(修士課程) 演習科目 【XW216】 プログラム演習 [井上 善海] 秋学期授業/Fall	68
(修士課程) 演習科目 【XW217】 プログラム演習 [小方 信幸] 春学期授業/Spring	69
(修士課程) 演習科目 【XW218】 プログラム演習 [小方 信幸] 秋学期授業/Fall	70

(博士後期課程) 基本科目 【XW301】 研究法 [石山 恒貴、増淵 敏之、須藤 廣、上山 肇、井上 善海、高尾 真紀子、小方 信幸、橋本 正洋] 春学期前半/Spring(1st half)	71
(博士後期課程) 基本科目 【XW302】 外国語文献講読 [橋本 正洋] 秋学期後半/Fall(2nd half)	72
(博士後期課程) 基本科目 【XW303】 合同ゼミ [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	73
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW311】 経済政策特殊研究Ⅰ 集中・その他/intensive・other courses	73
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW312】 経済政策特殊研究Ⅱ 集中・その他/intensive・other courses	74
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW313】 経済政策特殊研究Ⅲ 集中・その他/intensive・other courses	74
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW314】 雇用政策特殊研究Ⅰ [石山 恒貴] 集中・その他/intensive・other courses	75
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW315】 雇用政策特殊研究Ⅱ [石山 恒貴] 集中・その他/intensive・other courses	75
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW316】 雇用政策特殊研究Ⅲ [石山 恒貴] 集中・その他/intensive・other courses	76
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW317】 文化政策特殊研究Ⅰ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses	76
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW318】 文化政策特殊研究Ⅱ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses	77
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW319】 文化政策特殊研究Ⅲ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses	77
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW320】 都市政策特殊研究Ⅰ [上山 肇] 集中・その他/intensive・other courses	78
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW321】 都市政策特殊研究Ⅱ [上山 肇] 集中・その他/intensive・other courses	78
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW322】 都市政策特殊研究Ⅲ [上山 肇] 集中・その他/intensive・other courses	79
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW323】 産業政策特殊研究Ⅰ 集中・その他/intensive・other courses	79
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW324】 産業政策特殊研究Ⅱ 集中・その他/intensive・other courses	80
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW325】 産業政策特殊研究Ⅲ 集中・その他/intensive・other courses	81
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW326】 企業経営特殊研究Ⅰ [井上 善海] 集中・その他/intensive・other courses	82
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW327】 企業経営特殊研究Ⅱ [井上 善海] 集中・その他/intensive・other courses	83
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW328】 企業経営特殊研究Ⅲ [井上 善海] 集中・その他/intensive・other courses	84
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW329】 CSR 特殊研究Ⅰ [小方 信幸] 集中・その他/intensive・other courses	85
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW330】 CSR 特殊研究Ⅱ [小方 信幸] 集中・その他/intensive・other courses	86
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW331】 CSR 特殊研究Ⅲ [小方 信幸] 集中・その他/intensive・other courses	86
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW332】 地域社会政策特殊研究Ⅰ [高尾 真紀子] 集中・その他/intensive・other courses	87
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW333】 地域社会政策特殊研究Ⅱ [高尾 真紀子] 集中・その他/intensive・other courses	88
(博士後期課程) 研究指導科目 【XW334】 地域社会政策特殊研究Ⅲ [高尾 真紀子] 集中・その他/intensive・other courses	89
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW351】 経済政策特殊講義 (実証分析入門) [柿野 成美] 秋学期後半/Fall(2nd half)	90
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW352】 経済政策特殊講義 (消費者政策論) [柿野 成美] 春学期後半/Spring(2nd half)	91
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW353】 経済政策特殊講義 (生活政策論) [柿野 成美] 秋学期前半/Fall(1st half)	92
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW354】 雇用政策特殊講義 (雇用政策研究 (マクロ)) [石山 恒貴] 春学期前半/Spring(1st half)	93
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW355】 雇用政策特殊講義 (人的資源管理論) [石山 恒貴] 秋学期前半/Fall(1st half)	94
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW356】 雇用政策特殊講義 (人材育成論) [石山 恒貴] 春学期後半/Spring(2nd half)	95
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW357】 雇用政策特殊講義 (地域雇用政策事例研究) [石山 恒貴] 秋学期後半/Fall(2nd half)	96
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW358】 地域社会政策特殊講義 (ウェルビーイング論) [高尾 真紀子] 春学期前半/Spring(1st half)	97
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW359】 地域社会政策特殊講義 (少子高齢化と社会保障) [高尾 真紀子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	98
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW360】 地域社会政策特殊講義 (地域活性化システム論) [高尾 真紀子] 秋学期前半/Fall(1st half)	99
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW361】 都市政策特殊講義 (地域社会論) [上山 肇] 秋学期後半/Fall(2nd half)	100
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW362】 都市政策特殊講義 (都市空間論) [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	101
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW363】 都市政策特殊講義 (比較都市事例研究) [上山 肇] 春学期後半/Spring(2nd half)	101
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW364】 文化政策特殊講義 (都市文化論) [増淵 敏之] 春学期前半/Spring(1st half)	102
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW365】 文化政策特殊講義 (コンテンツツーリズム論) [増淵 敏之] 春学期後半/Spring(2nd half)	103
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW366】 文化政策特殊講義 (文化地理学) [増淵 敏之] 秋学期前半/Fall(1st half)	104
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW367】 文化政策特殊講義 (文化基盤形成論) [増淵 敏之] 秋学期後半/Fall(2nd half)	105
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW368】 観光政策特殊講義 (観光社会学) [須藤 廣] 秋学期前半/Fall(1st half)	106

(博士後期課程) 専門領域科目 【XW369】 観光政策特殊講義 (フィールドワーク論) [須藤 廣] 春学期後半/Spring(2nd half)	107
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW370】 観光政策特殊講義 (ニューツーリズム論) [須藤 廣] 秋学期後半/Fall(2nd half)	107
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW371】 産業政策特殊講義 (地域産業論) [橋本 正洋] 秋学期前半/Fall(1st half)	108
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW372】 産業政策特殊講義 (地域経営戦略論) [橋本 正洋] 春学期後半/Spring(2nd half)	109
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW373】 産業政策特殊講義 (地域イノベーション論) [橋本 正洋] 春学期前半/Spring(1st half)	110
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW374】 企業経営特殊講義 (中小企業論) [井上 善海] 秋学期前半/Fall(1st half)	111
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW375】 企業経営特殊講義 (経営戦略論) [井上 善海] 春学期前半/Spring(1st half)	112
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW376】 企業経営特殊講義 (新産業創出論) [井上 善海] 春学期後半/Spring(2nd half)	113
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW377】 企業経営特殊講義 (商店街活性化論) [井上 善海] 秋学期後半/Fall(2nd half)	114
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW378】 CSR 特殊講義 (CSR 論) [小方 信幸] 春学期前半/Spring(1st half)	115
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW379】 CSR 特殊講義 (企業活動と社会 I) [小方 信幸] 春学期後半/Spring(2nd half)	116
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW380】 CSR 特殊講義 (ESG 投資と企業経営) [小方 信幸] 秋学期前半/Fall(1st half)	117
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW381】 CSR 特殊講義 (SDGs と企業経営) [小方 信幸] 秋学期後半/Fall(2nd half)	118

BSP500R1

政策分析の基礎

石山 恒貴、柿野 成美、橋本 正洋、高尾 真紀子、増淵 敏之、井上 善海、小方 信幸、須藤 廣

科目分類：基本科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策の分析や研究論文作成に必要な分析スキルの身に付け、自身の論文に適切な手法を選択し、活用できるようにする。

【到達目標】

修士論文の作成に必要な分析スキルを身に付け、自身の論文に適切な手法を選択し、活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の担当教員がテーマに沿って講義、グループディスカッション、レポート、プレゼンなどを交えた授業を行う。毎回何らかの課題（小レポート等）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	質的調査の方法と分析（石山）	質的調査の背景にある学術的根拠を理解したうえで、データを収集し、その分析を行う手法について学ぶ。さらに、分析結果を政策分析に反映する考え方について学ぶ。
2	6 政策プロセス科学（橋本）	国家政策のプロセスについて概観し基礎的認識を得る。
3	フィールドワーク（増淵）	地理学的なアプローチでのフィールドワークについて論じる。事例を挙げてわかり易く説明することを念頭に置く。
4	量的調査の方法と分析（高尾）	量的調査の質問票の作成方法と基本的な分析手法について学び、目的に応じ、どのような分析手法を選択すべきかを検討する。
5	企業事例研究（井上） CSR・SRI 定量分析（小方）	事例研究（ケース・スタディ）は、単一ないし少数の事例を対象に深く多面的な分析を行う研究アプローチで、「だれが」「なぜ」「どのように」といった質問に答える際に役立つ。本講義では、企業を対象とした事例研究の方法と分析手法について学ぶ。CSR・SRI 定量分析では、事前に配布する2つの定量分析の論文を読みつつ、論文の構成と重回帰分析の使い方について学ぶ。
6	統計データと政策分析（柿野）	政府統計データや個票データの扱いについて学び、分析結果の記述方法とそれを踏まえた政策分析について検討する。

- 7 フィールドワークにおける主観と客観（須藤）
- 人間は誰も世界の「意味」を解釈しながら生きている。フィールドワークにおいて、研究対象によって思われた「意味」を研究者がどのように解釈すべきなのか。フィールドワークにおける「二重の解釈」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ごとにテーマに対応した課題（小レポート等）を課す。新聞やその他のメディアで、今起きていることを各自が把握して授業に参加するようにしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』2017 年、ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

各回のレポート及び平常点（授業への貢献等）の総合点を合計して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の学びやすさを考慮し順序を変更した。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master methods and methodologies necessary for policy analysis and preparing master's thesis. Students learn about analysis of statistical data, collection and analysis of quantitative / qualitative data in social surveys, field work, case study.

BSP500R1

政策ワークショップ

柿野 成美、石山 恒貴、橋本 正洋、増淵 敏之、高尾 真紀子、井上 善海、小方 信幸、上山 肇、須藤 廣

科目分類：基本科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目では、受講生がワークショップを通じて、政策提言の疑似体験を行うことを目的とする。

【到達目標】

毎回講師が提示する政策提言に関するテーマ・論点に応じたワークショップ（共同作業）を運営することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

当授業は、当研究科の教員が毎回交代で担当する。授業前半は教員が専門とするテーマで講義を行う。後半は、教員からのテーマに沿って、グループに分かれて討議を行い、討議内容を発表する。毎回の授業運営は受講生中心に行う。受講生は、全員が各回のファシリテーション・グループに割り振られ、授業の準備、当日の進行、授業後の報告書作成など担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス及びワークショップ準備	当科目の主旨及び内容説明。グループ分け。グループ毎に次週以降担当する回のワークショップ準備。
2	ワークショップ①	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
3	ワークショップ②	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
4	ワークショップ③	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
5	ワークショップ④	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
6	ワークショップ⑤	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
7	ワークショップ⑥	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する回のワークショップの準備、ならびに担当したワークショップに関する報告書の作成に相当の時間が必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

【参考書】

「政策創造のすすめ」（政策創造研究科同窓会編）。前年度の「政策ワークショップ報告書」。その他、担当教員の講義内容に応じて適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 %、討議への参加 30 %、担当したワークショップ報告書 10 %。

【学生の意見等からの気づき】

限られた時間内で、一層効率的な議論・討論ができるようにするため、ファシリテーターの知識を共有するなどの工夫をすること。

【Outline (in English)】

This course provides students with an opportunity to simulate policy proposals through workshops.

BSP510R1

調査法

高尾 真紀子

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策立案、政策創造の前提となる現状把握には客観的な数量分析が不可欠であり、修士論文においても、客観的なデータの分析を加えることによって、より説得性を増す。本講義では、統計データ及び質問紙調査を使った実証分析の方法を理解、習得し、修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【到達目標】

統計データの解析等の実証分析の方法を理解し、各自の修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に統計データを使用して計算ソフト（EXCEL）の分析方法を実習し、統計学を用いてその分析結果を正しく解釈するための能力を身につける。エクセルを使ったアンケート集計の方法についても解説する。統計学、数学的知識は必要としない。内容は以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ 経済統計の基礎ダクショ ン	講義の進め方、さまざまな調査手法と本講義で取り扱う範囲について学ぶ。経済統計データの基礎知識を学び、統計データを加工する
第 2 回	社会調査の方法：質問票の作成 調査結果の集計・分析	社会調査、特に質問紙調査の設計から実施までの方法と留意点を学び、質問票を作成する。調査結果の集計、分析の手法を学び、エクセルを使った単純集計、クロス集計の方法を習得する。
第 3 回	統計の基礎	平均と分散、標準偏差、正規分布等の統計の基礎について学ぶ。カイニ乗検定、t 検定、F 検定など仮説検定の手法について、どのような場合に使うかを学び、実習を行う。
第 4 回	相関分析・回帰分析	相関の概念について学び、散布図の作成や相関係数の求め方を実習する。単回帰分析の考え方を学び、分析手法を実習する
第 5 回	重回帰分析	多変量解析の中でも様々な場面で活用範囲の広い重回帰分析について学び、様々な重回帰分析を実際のデータを基に実習する。
第 6 回	多変量解析 統計分析演習	因子分析、主成分分析等の多変量解析の考え方とどのような場面で活用できるのかを学ぶ。学習した手法を用いたデータ分析演習を行う。
第 7 回	課題発表	各自の問題意識や研究テーマに基づき、学習した手法を用いてデータ分析を行った結果の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel の基本操作が出来るようにしておくこと。
授業中のデータを USB 等で保存し、授業中に出来なかったことは家で復習すること。

本講義で用いた手法等を用いて、各自の専門（修士論文）に関連したテーマを選び、現状分析を行い（データをさがし加工する）、レポートを作成（文章と図表で説明）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

○分析例

内閣府「経済財政白書」厚生労働省「労働経済白書」等

○統計データ

総務省統計局「国勢調査」「家計調査」「全国消費実態調査」「社会生活基本調査」「労働力調査」「経済センサス」等 <http://www.stat.go.jp/>

内閣府「国民経済計算（GDP 統計）」<http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>

財務省「貿易統計」<http://www.customs.go.jp/toukei/info/tsdl.htm>

日本銀行統計 <http://www.boj.or.jp/statistics/index.html/>

○その他

鮑戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社

伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書

中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』

森田果『実証分析入門』日本評論社

西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社

西内啓『統計学が日本を救う 少子高齢化、貧困、経済成長』中央公論新社

涌井良幸、涌井 貞美『Excel で学ぶ統計解析』

涌井良幸、涌井 貞美『図解 使える統計学』

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）、実習（30 %）、レポート（50 %）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のエクセル習熟度が異なるため、複数の演習課題を用意し、進捗の速い学生は、さらに進んだ演習に進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

各自が情報端末を使用（インターネットによるデータのダウンロードが行える）しながら受講できる教室を使用。

【その他の重要事項】

基礎的な内容なので、出来る限り早期（1 年目）に履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course aims to understand and acquire the method of empirical analysis of data using statistical data and questionnaire survey and make it practically applicable for preparation of master thesis.

BSP510R1		
研究法		
上山 肇		
科目分類：基本科目（選択必修） 単位：2 単位		
実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 修士論文作成手法の習得		
【到達目標】 研究テーマの設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連		
【授業の進め方と方法】 毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義 ②研究の内容 ③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について説明します。また、「研究計画書とは何か」について説明するとともに、各自の論文テーマを設定します。
2	文献資料の検索	各自の論文テーマに関連する文献資料を収集します。
3	研究計画の立案	最終的な論文のイメージを明確にします。
4	研究計画書の書き方	研究計画書の作成にあたっての留意点について説明します。
5	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します。
6	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します。
7	研究計画書の発表	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 各自のテーマに即した先行研究の調査・分析。		
【テキスト（教科書）】 特に指定しません。		
【参考書】 「まちづくり研究法」（三恵社）。その他、講義の中で必要に応じて紹介します。		
【成績評価の方法と基準】 平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。		
【学生の意見等からの気づき】 特になし		
【Outline (in English)】 [Course Outline] This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course. [Learning Objectives] Setting research themes and creating research plans based on previous research. [Learning activities outside of classroom] Survey and analysis of previous research according to your theme [Grading Criteria / Policy] Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).		

BSP510R1		
研究法		
上山 肇		
科目分類：基本科目（選択必修） 単位：2 単位		
実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 修士論文作成手法の習得		
【到達目標】 研究テーマの設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連		
【授業の進め方と方法】 毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義 ②研究の内容 ③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について説明します。また、「研究計画書とは何か」について説明するとともに、各自の論文テーマを設定します。
2	文献資料の検索	各自の論文テーマに関連する文献資料を収集します。
3	研究計画の立案	最終的な論文のイメージを明確にします。
4	研究計画書の書き方	研究計画書の作成にあたっての留意点について説明します。
5	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します。
6	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します。
7	研究計画書の発表	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 各自のテーマに即した先行研究の調査・分析。		
【テキスト（教科書）】 特に指定しません。		
【参考書】 「まちづくり研究法」（三恵社）。その他、講義の中で必要に応じて紹介します。		
【成績評価の方法と基準】 平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。		
【学生の意見等からの気づき】 特になし		
【Outline (in English)】 [Course Outline] This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course. [Learning Objectives] Setting research themes and creating research plans based on previous research. [Learning activities outside of classroom] Survey and analysis of previous research according to your theme [Grading Criteria / Policy] Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).		

BSP510R1

研究法（中国語）

鳥丸 知子

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成手法の習得

碩士论文的写作方法

【到達目標】

研究テーマ設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成

选题与制定研究计划书

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義 ②研究の内容 ③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。

按单元展开研究计划书的内容讲授。写作包含有①研究目的与意义②研究内容③预期结论（假设）的研究计划书。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1, 2	ガイダンス 導入	自己紹介。その後、本授業の進め方について説明します。また、「研究計画書とは何か」について説明します。自我介绍。说明本课程的开展方法。并解释研究计划书。
3, 4	研究計画の見直し 研究計画的審査	現在の研究計画を発表し、問題点を検討します。 根据目前的研究计划，大家一起讨论其内容以及问题。
5, 6	研究計画の見直し 研究計画的審査	現在の研究計画を発表し、問題点を検討します。 根据目前的研究计划，大家一起讨论其内容以及问题。
7, 8	研究計画の立案と研究計画書の作成 研究計画的確定、研究計画書写作	最終的な論文のイメージを明確にし、研究計画書を作成します。 明确论文的内容，并写作研究计划书
9, 10	研究計画の立案と研究計画書の作成 研究計画的確定、研究計画書写作	最終的な論文のイメージを明確にし、研究計画書を作成します。 明确论文的内容，并写作研究计划书
11, 12	研究計画の立案と研究計画書の作成 研究計画的確定、研究計画書写作	最終的な論文のイメージを明確にし、研究計画書を作成します。 明确论文的内容，并写作研究计划书
13, 14	研究計画書の発表 阐述研究计划书	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。 口头阐述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに即した先行研究の調査・分析。

根据确定的选题展开的前期调查与分析

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

预习和复习的时间为约 4 小时

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

没有指定的课本。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

根据需要要在讲课时介绍。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート 50 %で行います。

上课神态 50%、作业（报告书等）50%

【学生の意見等からの気づき】

学生各自の研究の進展に合わせた指導を行うことに留意する。

指导以配合每位学生研究的进展情况。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to help students acquire of master's thesis creation method.

BSP510R1

質的研究法

齊藤 弘通

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的研究法とは、事象の性質や特徴といった数値化しにくいデータを扱い、事象を質的に理解、説明、解釈しようとする研究法であり、量的研究ではアプローチできない研究課題を解明する上で有用なものである。本科目ではこの質的研究法の特性や質的研究を行う際の流れを理解するとともに、質的研究で用いられる代表的な分析手法について理解、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ①質的研究法の特性、研究プロセスが説明できる。
- ②インタビュー法や観察法を用いて質的データを収集することができる。
- ③収集した質的データを適切に分析・解釈することができる。
- ④質的研究を活用した研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業は各回とも講義と演習を織り交ぜながら進めていく。
- ・演習は個人で行うものとチームで行うものがある。
- ・提出された課題については毎回いくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・第 6 回・第 7 回ではチームでインタビュー調査を実施し、データの分析と調査結果の発表を行う。（インタビュー調査については ZOOM などを活用したオンライン上での実施を想定）
- ・講義は質的研究法の初学者を念頭において行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	質的研究の特性と研究プロセス	量的研究との対比から、質的研究の持つ特性について詳しく理解する。また、質的研究の一般的な流れ（リサーチエスジョンの設定、調査対象の選定とデータの収集、テキストデータに対するコーディングとカテゴリ化、概念モデル・理論の生成）について理解する。
2	質的データ収集の技法① インタビュー法	質的データを収集するための技法であるインタビュー法の類型や特徴、インタビュー調査の際に準備すべきこと、インタビューの具体的な進め方について理解する。
3	質的データ収集の技法② 観察法	質的データを収集するための技法である観察法の類型や特徴、進め方について理解する。また、映像データを観察し、フィールドノーツを作成する手順を実際に体験する。
4	質的データの解釈・分析	収集した質的データに対して、コードを割り当て（コーディング）、カテゴリを生成していくプロセスについて理解する。また、カテゴリ間の関係性を図解し、分析結果をストーリーラインにまとめていく手順を把握する。
5	代表的な質的データ分析法	質的研究で用いられる代表的な分析法（GTA、M-GTA、SCAT、ドキュメント分析等）について理解する。また、M-GTA など、代表的な質的データ分析法を用いた研究論文を読み、分析手続きの仕方や結果のまとめ方を把握する。
6	質的データの収集・分析 演習	チームごとに、設定された調査課題に応じて実際にインタビュー調査を行い、質的データを収集するとともに、得られたデータを分析する演習を行う。
7	演習結果の発表・研究計画の検討	チームごとにインタビュー調査の結果を報告資料にまとめ、発表する。また、自身の研究において質的研究を用いる場合の研究計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①本授業の準備学習および復習のため、質的研究法に関する文献や論文を読み、要約をまとめる。（文献や論文は都度授業において配布する）

②授業内で行った演習に関する課題に取り組む。（課題の内容は随時指示する）

③チームで取り組むインタビュー調査演習において、授業外の時間を用いて、データの分析と調査報告資料の作成を行う。

④レポート課題に取り組む。(レポートのテーマは授業において指示する)
・本授業の準備学習および復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するレジュメ（パワーポイントにて作成）をテキストとして使用する。

【参考書】

ウヴェ・フリック著・小田博志監訳『新版 質的研究入門<人間の科学>のための方法論』春秋社,2011 年
太田裕子『はじめて「質的研究」を書くあなたへー研究計画から論文作成までー』東京図書,2019 年
大谷尚『質的研究の考え方 研究方法論から SCAT による分析まで』名古屋大学出版会,2019 年
佐藤郁哉『フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社,2002 年
佐藤郁哉『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社,2008 年
サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実編『質的研究法マッピング』新曜社,2019 年
須田敏子『マネジメント研究への招待 研究方法の種類と選択』中央経済社,2019 年
岡田昌毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTA によるキャリア研究』晃洋書房, 2017 年
その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の配分により、成績評価を行う。

- ①平常点（授業への参加、グループ演習への積極的参加） 20 %
- ②文献・論文の要約および課題への取り組み 20 %
- ③インタビュー調査報告資料の作成（チームにて作成） 20 %
- ④レポート課題への取り組み 40 %

【学生の意見等からの気づき】

・質的研究のイメージをより深めてもらえるよう、オープンコーディングや M-GTA、SCAT など、様々な質的分析法が用いられた論文を昨年度より多く紹介する。
・質的データの分析過程についてより体験的に理解してもらえるよう、授業で使った演習用の題材を改良する。
・質的データ分析におけるオープンコーディングの手続きについて時間をかけて体験していただくようにする。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

・少人数チームでのインタビュー調査演習（インタビュー調査の実施、データの分析、調査報告資料の作成）がある点にご留意いただきたい。また当該演習において授業外の時間を活用する場合がある点もお含みおきいただきたい。
・なお、授業外でインタビュー調査を行う際には、ZOOM などのオンラインミーティングツールを活用する場合があることもお含みおきいただきたい。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course introduces the qualitative research methods to students taking this course.

The aim of this course is to help students acquire an understanding the characteristics and process of qualitative research methods.

【Goal】

The goals of this course are to

- be able to explain the characteristics and process of qualitative research methods,
- be able to collect qualitative data using interview survey and observation method,
- be able to analyze and interpret the collected qualitative data properly,
- be able to make a research plan using qualitative research.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- Read and summarize the literature and articles on qualitative research methods.

- Work on assignments related to the exercises in the class.

- Analyze qualitative data and prepare research report materials for the interview research exercise in teams, using time outside of class.

- Work on the report assignment.

【Grading criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Ordinary points (class attendance, active participation in group exercises) :20%
- Summarization of documents and articles and work on assignments: 20%
- Preparation of interview survey report materials (prepared by team): 20%
- Efforts and quality of the report assignment: 40%

MAN510R1

人的資源管理論

石山 恒貴

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本の雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本の雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
第 2 回	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
第 3 回	日本的雇用と職務	変化しつつある日本の雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する
第 4 回	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。
第 5 回	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
第 6 回	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
第 7 回	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけでなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的に読んでいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】

石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社、2020 年
 石山恒貴『組織内専門人材のキャリアと学習』生産性労働情報センター
 2013 年
 石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018 年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回あたり 5 点満点
 で計 35 点満点）、②受講者による事例発表の得点（65 点満点）で、両者を足
 した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
 Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class
 contribution: 35%

【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にしていただくべく、豊富な事例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなど PC を使うことがある。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire
 an understanding of Human Resource Management. At the end of the
 course, participants are expected to explain the essential concepts of
 Human Resource Management.

ARSI510R1

地域活性化システム論

高尾 真紀子

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の
 下に、学外講師（内閣府をはじめとした関係省庁の政策担当者、民間専門家）
 が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化
 の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学外講師（関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家）とディスカッショ
 ンを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、
 地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
 を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
 成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」
 に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は Zoom によるオンラインと対面を併用して実施する。毎回、学外
 講師による講義の後、受講者とディスカッションを行う。また、受講者は毎回
 の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。
 最終日には地域経済分析システム（RESAS）を利用し、データに基づく
 地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。

地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマ
 を決めて、講義内容や講師を検討している（2017 年度：多様な人材の活躍、
 2018 年度：世界とつながる、2019 年度：人を育てる、2020 年度：都市と
 地方、2021 年度：地域のウェルビーイング）。2022 年度のテーマは直近の社
 会経済情勢を踏まえて決定する予定。

参考までに、以下に 2021 年度の内容を記す（講師の肩書きは講義時のもの）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義 受講生によるディスカ ッション 1 担当教員によるまとめ	「地方創生の推進について」 内閣府地方創生推進室 参事官補佐 野村雅之氏
2	講義 受講生によるディスカ ッション 2 担当教員によるまとめ	「地方創生と RESAS（地域経済分析 システム）」株式会社価値総合研究所 執行役員 バブリックコンサルティン グ第一事業部部長 主席研究員 鴨志田武史氏
3	講義 受講生によるディスカ ッション 3 担当教員によるまとめ	特定非営利法人 土佐山アカデミー事 務局長 吉富慎作氏 「遊びと学びの境界をなくす 地域資 源を活かした学び」
4	講義 受講生によるディスカ ッション 4 担当教員によるまとめ	叡啓大学 ソーシャルシステムデザイ ン学部学部長 教授 保井俊之氏 「地域の幸せ（ウェルビーイング）と ソーシャルデザイン」
5	講義 受講生によるディスカ ッション 5 担当教員によるまとめ	明治大学客員教授 農業ジャーナリス ト 樺田みどり氏 「農村と都市のウェルビーイングにむ けて」
6	講義及び対談 受講生によるディスカ ッション 6 担当教員によるまとめ	「日本ワインと地域の力」 信州大学特任教授 フード＆ワインジャーナリスト 鹿取みゆき氏 明治大学客員教授 農業ジャーナリスト 樺田みどり氏 「コロナ禍から考える日本の農業の現 状とこれから」
7	受講生による発表 担当教員によるまとめ	各自が対象地域を設定し、分析に基 づく地域活性化の方策について発表を行 う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策
 に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

前野隆司編著『システム × デザイン思考で世界を変える』日経 BP 社
木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (1/3)、授業への貢献 (1/3)、発表の内容 (1/3) を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

Zoom のブレイクアウト・セッションの利用による講師とのディスカッションが好評だったため、地方在住の講師を招いてディスカッションできるよう、オンラインと対面を併用した講義とする。

【学生が準備すべき機器他】

P C を接続して画面をスクリーンに表示できる設備
D V D の動画番組をスクリーンに表示できる設備

【その他の重要事項】

※オンライン授業の受講方法は学習支援システムに表示します。
※講義概要は講師の都合等により変更がある場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

GEO510R1

文化地理学

増淵 敏之

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行っていく。

【到達目標】

到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際になっている現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効用をもたらしているのかを理解し、説明することができるまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主にして進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	人文地理学と現代社会・人文地理学と地域/ Human Geography and Modern Society・Human Geography and Region	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について/About the position of geography in modern society and the concept of region
3,4	文化地理学入門/Introduction to Cultural Geography	文化地理学のこれまでの流れを説明/Explaining the history of cultural geography
5,6	食文化の地理学/Geography of food culture	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、パウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る/See cultural differences through food culture such as rice balls, Inari sushi, Taiyaki, and Baumkuchen
7,8	文化的地域差についての議論/Discussion of cultural regional differences1	テーマを設定し、学生間での議論を行う/Set a theme and have discussions among students
9,10	言語の地域性と景観の地域性/Regionality of language and regionality of landscape	言語地理学について学び、その後、景観論に言及する/Learn about linguistic geography and then mention landscape theory
11,12	習慣の文化的差異と文化的差異を形成する要因/Cultural differences in customs and the factors that form them	儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について/Cultural differences due to differences in rituals, customs, and customs, and factors that influence cultural differences
13,14	ポピュラーカルチャーの地理学/Geography of popular culture	これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介/Introducing research on popular culture in the field of geography so far

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

「文化地理学ガイド」中川 正、神田 孝治、森 正人、ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことを心がける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】

オフィスパワー：金 16 - 18 時

【Outline (in English)】

When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARSx510R1

都市空間論

上山 肇

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市空間の成立条件（構成要素、計画、ルール、プロセス等）について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

【到達目標】

都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践（実務）の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	(1) 地域社会における都市空間 (2) 都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1) 「まちづくり」とは (2) 都市化と都市問題
2	(1) 都市空間の構成要素 (2) 都市空間を実現するための手段	(1) 建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2) 計画、ルール、事業 等
3	(1) 都市空間の形成プロセス (2) 都市空間の規制手法 1	(1) 市民参加と合意形成 等 (2) ゾーニングの歴史と理論
4	(1) 都市空間の規制手法 2 (2) 都市空間における景観	(1) ゾーニングと地区まちづくり (2) 景観コントロール
5	(1) 都市空間の開発手法 (2) 都市空間の再生	(1) 都市再開発の仕組み 等 (2) 中心市街地の活性化
6	(1) 都市空間の評価手法 (2) 事例研究 1（事業）	(1) 評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2) 土地区画整理事業、再開発事業、密集事業 等
7	(1) 事例研究 2（制度） (2) 事例研究 3（テーマ型）	(1) 地域地区、地区計画 等 (2) 水辺空間の再生（国内・海外事例）等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料を読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、事例紹介が学生にとって有効であるため、今年度もできるだけ多くの事例（現地視察を含む）を授業に取り入れたいと考えています。

【その他の重要事項】

受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In this course, you will learn about the conditions for establishing urban space (components, plans, rules, processes, etc.) and develop the ability to form urban space.

[Learning Objectives]

This course will help you understand the basics of urban space needed for urban policymaking.

[Learning activities outside of classroom]

Please read the materials to be distributed.

[Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

TR510R1 観光社会学 須藤 廣	
科目分類：基本科目（選択必修） 単位：2 単位 実務教員：	
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 現代社会における観光のあり方、及び現代社会がいかに「観光的なるもの」によって成立しているのかを探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、観光が元来持っている文化の特徴と消費社会における現代文化の特徴の両者を把握しつつ、現代の「観光」について理解することを本講義では目的とする。	第 6 回 ポストモダン社会における観光と参加する観光地住民 1990 年以降、観光による社会的アイデンティティづくりを重要な手段とするまちづくり運動が各地で行われるようになった。このような運動は 1987 年に施行された「リゾート法」以降の日本の観光のあり方への批判とセットとなっている。こういった「観光まちづくり運動」とは何だったのかを問う。由布院の例を解説する。また、まんがアニメツーリズム、アートツーリズム、ダークツーリズムと観光地の表象について考える。 第 7 回 観光は人々を統合するのか、それとも分断するのか？ 現代観光の両義的側面についてー観光における文化創造、観光と権力、政治の両義性 これまでの講義の結論部分である。受講生と共に社会における観光の「可能性」や「限界」について議論する。最後には、アフターコロナ時代の観光について考える。
【到達目標】 現代社会における観光のあり方を、現代社会の特徴との関係において、学生が分析できる力を養う。現代社会において観光はサービス商品であるとともに現代政治の重要な手段である。しかし、観光は、商品や手段からはみ出す「余剰」としての創造性、「社会構築（連帯）的」部分を持っている。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者を養うことがこの授業の到達目標である。 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 観光地、観光的なるものについて、観光しているときに、あるいは街を歩いているときに観光で発見するものと隠蔽されるものについて、批判的（批評的）に考える習慣を身につけて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。 【テキスト（教科書）】 須藤 廣、遠藤英樹、高岡文章、松本健太郎（編著）『よくわかる観光コミュニケーション論』ミネルヴァ書房,ISBN978-4623091874,2022 年。 【参考書】 須藤廣・遠藤英樹『観光社会学 2.0』福村出版、2018 年 須藤廣『ツーリズムとポスト・モダン社会』明石書店、2012 年 D. マッキヤーネル (安村克己、須藤廣他訳)『ツーリスト高度近代社会の構造分析』学文社、2012 年 木村至誠、森久聡（編著）『社会学で読み解く文化遺産ー新しい研究の視点とフィールド』新曜社、2020 年 その他、授業にて提示する。 【成績評価の方法と基準】 平常点 30 点、レポート 70 点。 【学生の意見等からの気づき】 アンケート内容をよく見て改善する。 【Outline (in English)】 Tourism is an important resource of modern society. Sociology of Tourism is a part of sociology which considers the formation of modern society by investigating the role of tourism in modern society. This lecture depicts both the positive and the negative sides of tourism culture in modern or postmodern societies
【授業の進め方と方法】 内容に区切りを設け、その都度学生に質問や意見を求め議論をする。 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No	
【授業計画】 授業形態：対面/face to face	
回 テーマ 第 1 回 オリエンテーション、観光の基本構造ー観光とは何か	内容 先ず、授業を概説し、その後で観光社会学の基本理論について概説する。近代社会と観光的なるものの変容について、ダニエル・ブーアスティン、ディーン・マッキヤーネル、ジョン・アーリ、ジョージ・リッツァーの理論を紹介し議論する。
第 2 回 起源としての巡礼と観光の近代化	最初に宗教的側面について、事例として、伊勢参りを取り上げる。日本以外の巡礼についてもビデオ等を見ながらその特徴を考える。また、ヨーロッパのグランツァーについても解説し議論する。
第 3 回 戦後の日本の観光（戦後から 1970 年代まで）ー産業化する観光	戦後、特に東京オリンピック以降、日本人の観光のあり方がどのように変わったかを見てゆく。観光は視覚化され、イメージ化され、さらに次第に人工的なものになってゆく。1970 年代の「ディスカバー・ジャパン」キャンペーンまでの日本の観光についても考える。
第 4 回 メディア消費化する観光（1980 年代以降）	1970 年代から急激に成長した日本人のハワイ観光について考える。また、1980 年代以降の日本人の観光客の個人化と観光消費の記号消費化について考える。特に 1983 年の東京ディズニーランドの開園は日本の観光のあり方を大きく変えた。ディズニーランドの意味についても議論する。
第 5 回 記号消費とポストモダニズム、ーアイデンティティと結びつく観光消費	ポストモダニズムの文化と観光消費の親和性について考える。成長と平等という「大きな物語」が消失した後、観光地住民にとっても、観光者にとっても、観光がアイデンティティ創出の重要な手段となってきた。下町散策等、生活圏の観光化も一つの潮流になりつつある。ノスタルジーやエキゾティシズムも含めた、日本の記号消費と観光のあり方について考える。

MAN510R1

地域産業論

橋本 正洋

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを旨とするために、どのような政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深めることを目指す。具体的には、ケーススタディなどのプレゼンテーションやグループディスカッションなどを通して、あるべき地域産業政策の内容などを議論する。

【到達目標】

わが国地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゲスト講師のほか、受講者からのプレゼンテーション報告を行う。報告内容を基に、グループディスカッションを行い、討議から得られた内容を発表する。講義に関しては、受講者の能動的かつ積極的な参加を求める。取り上げるテーマは、受講生の希望、ゲスト講師の選定などにより柔軟に検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	受講者の関心、問題意識などを確認し、講義の進め方などを確認する。
第 2 回	日本経済の状況	受講者からのプレゼンテーションを基に、マクロの観点からわが国経済、産業動向などがどうなっているか、どのような政策が重視されているかを理解する。
第 3 回	地域経済の状況①	受講者からのプレゼンテーションを基に、各地域の経済動向、産業上の強みなどを理解する。その上で、政策の効果などを評価する。
第 4 回	地域経済の状況②	第 3 回の講義内容を基に、地域における産業育成、その強化に必要な取り組みに関するプレゼンテーション、およびグループディスカッションを行う。
第 5 回	地域産業に関する政策	受講者からのプレゼンテーションにより、政府、地方自治体が進める政策内容を確認する。どのような政策が必要と考えられるか、グループディスカッションを行う。
第 6 回	地域産業の動向	受講者からのプレゼンテーションにより、地域での企業の経営状況、業績動向などを把握する。地域における企業の育成、競争力向上などのためにどのような取り組みが必要か、グループディスカッションを行う。

第 7 回 まとめ

これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントを抑える。また、受講者からの発表などを通して、疑問点などを確認し、更なる理解を深める機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発表・ディスカッションへの参加等）（おおむね 50 %）、プレゼンテーション（おおむね 50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【Outline (in English)】

"Lectures on Regional Industry" is designed to understand business activities in regions of Japan. Based on the discussions in the class (mainly, group discussion), students will be required to present policy proposals to economic development in the region.

MAN510R1

中小企業論

井上 善海

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

【到達目標】

- ①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
- ②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため授業に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。
4	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。
5	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や他地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上善海編著（2022）『中小企業経営入門』中央経済社（2,300 円）

【参考書】

井上善海編（2009）『中小企業の戦略』同友館（2,800 円）

中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）

その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（40%）、講義内で課す課題レポート（60%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

MAN520R1

CSR 論

小方 信幸

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、CSR を本業を通じ社会的価値と経済的価値を創造する CSV（Creating Shared Value, 共通価値の創造）と定義する。授業の前半では講義を行い、後半はグループディスカッションを行う。講義とグループ討議および全体討議を通じ、企業が CSV を実現する経路を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

受講生は、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造する「共通価値の創造」について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」に授業資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。

原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループ及び全体討議を行う。CSV を実践している企業のケースを通じて、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造する経路を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	（１）授業の進め方（２）歴史から学ぶ CSR 概念の形成と変遷
2	共通価値の創造（CSV）	（１）M. ポーター他「共通価値の創造」戦略 （２）ケース：ネスレの CSV 戦略
3	サステナビリティ経営	ケース：ユニリーバのサステナビリティ経営
4	クレド経営	ケース：ジョンソン・エンド・ジョンソンの我が信条（Our Credo）
5	長期志向経営	ケース：ノボ・ノルディスク
6	日本の中小企業におけるサステナビリティ経営	ケース：サラヤ株式会社
7	日本の中小企業における CSV 戦略	ケース：石坂産業株式会社ア社

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（１）配布資料を事前に読んで、グループ討議で発言できるように準備する。

（２）授業を振り返り論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加・授業貢献（40%）、期末レポート（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

（１）学生から評価されたグループ討議を今年度も継続し、学生間で議論し考える時間を適切に確保する。また、教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。

（２）企業のサステナビリティ・CSR 部門の責任者をゲストスピーカーとして招聘したところ、受講生全員から CSR および CSV についての理解が深まったとの感想が寄せられた。2022 年度も授業の目的に合った方をゲストスピーカーとして招聘する考えである。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカーを招く場合は、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

In this class, CSR is defined as creating shared value (CSV), which is the realization of social and economic value through the core business. The first half of the class will consist of lectures and the second half will consist of group discussions. The purpose of the lecture and group discussion is to learn the pathway for companies to realize CSV.

ECN520R1

少子高齢化と社会保障

高尾 真紀子

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の人口減少、少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっている。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の背景と経済、社会、地域への影響、財政悪化の最大の要因となっている社会保障費の増加にどのように対応すればよいのか等について議論し、政策提言に必要な知識及び視点を得る。

【到達目標】

日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解するとともに、社会保障の基本的な考え方と年金、医療、介護等の現状について基礎的な知識を習得し、政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本及び各国の少子高齢化と社会保障の現状と課題について、できるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、課題解決の方法について討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人口構造の変化と将来展望	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。アジア地域の少子高齢化についても議論する。
第 2 回	少子化の背景と子育て支援策	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
第 3 回	人口構造の変化と社会保障	日本の高齢化の現状と経済への影響及び社会保障の基本的な考え方について議論する。生活保護、ベーシックインカムについても議論する。
第 4 回	人口構造の変化と年金制度	日本の年金制度創設の背景、制度改革の内容、各国の年金制度の比較等を提示し、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
第 5 回	高齢化と医療政策	日本の医療の特徴、制度改革の内容、各国の医療の比較等を提示し、どのような医療政策が望ましいのか、議論する。
第 6 回	高齢化と介護政策	公的介護保険創設の背景と介護の現状及び課題について提示し、どのような介護政策が望ましいか、議論する。
第 7 回	課題発表	各自の関心あるテーマについて発表と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少子高齢化、社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

○政府の白書等
内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」厚生労働省「厚生労働白書」
○その他
エスビーン・アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
阿部彩『子どもの貧困』岩波新書
池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫
大竹文雄・平井啓（編著）『医療現場の行動経済学 すれちがう医者と患者』東洋経済新報社
大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書
小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社
河野稠果『人口学への招待』中公新書
小峰隆夫『人口負荷社会』日経プレミアシリーズ
柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房

友原章典『移民の経済学』中公新書

永吉希久子『移民と日本社会』中公新書

山口慎太郎『子育て支援の経済学』日本評論社

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書

山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』中公新書

吉川洋『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加）（30 %）、各回の課題（20 %）、最終レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディベート形式のディスカッションを取り入れ、学生の多様な意見を授業に活かす。

【Outline (in English)】

This course deals with the problems of Japan's declining birthrate and aging population, population decline, we discuss its background and its impact on economy and society. Students will discuss what policies are desirable for social security such as pension, medical care, nursing care etc.

ECN520R1

ウェルビーイング論

高尾 真紀子

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングな状態で生活し、働くために地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

【到達目標】

ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、E B P M（根拠に基づく政策形成）に資する政策立案・遂行に必要な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、地域や企業における実践についてワークショップや討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
第 2 回	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング（幸福）に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
第 3 回	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策を学び、政策のあり方について議論する。
第 4 回	お金とウェルビーイング（ワークショップ）	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
第 5 回	企業におけるウェルビーイング	健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
第 6 回	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。
第 7 回	課題発表	各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策（方策）について発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ウェルビーイング（幸福、健康）は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

内田由紀子『これからの幸福について 文化的幸福観のすすめ』2020 年、新曜社
 大竹文雄、白石小百合、筒井義郎『日本の幸福度 格差・労働・家族』2010 年、日本評論社
 小塩隆士『「幸せ」の決まり方 主観的厚生経済学』2014 年、日本経済新聞社
 キャロル・グラハム（多田洋介訳）『幸福の経済学』2013 年、日本経済新聞出版社
 経済協力開発機構『OECD 幸福度白書 2—より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015 年、明石書店
 島井哲志『幸福の構造—持続する幸福感と幸せな社会づくり あなたの幸せは何に左右されているか？』2015 年、有斐閣
 橋本俊詔『「幸せ」の経済学』2013 年、岩波書店
 友原章典『会社ではネガティブな人を活かさない』2021 年、集英社新書
 ブルーノ・S・フライ（白石小百合訳）『幸福度をはかる経済学』2012 年、NTT出版

デレック・ボック（土屋 直樹、茶野 努、宮川 修子 訳）『幸福の研究—ハーバード元学長が教える幸福な社会』2011 年、東洋経済新報社
 前野隆司『幸せのメカニズム—実践・幸福学入門』2013 年、講談社現代新書
 矢野和男『文庫 データの見えざる手 ウェアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018 年、草思社文庫
 矢野和男『予測不能の時代 データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』2021 年、草思社
 山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019 年、光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加・貢献）（30 %）、各回の課題（20 %）、最終レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新設科目のため該当しない

【Outline (in English)】

In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being, taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

ECN520R1

実証分析入門

柿野 成美

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイントを把握するための読解力を養成することが目的である。

【到達目標】

1. 実証研究論文の構成と作法を理解すること、2. 先行研究の分析結果の読み方を習得すること、3. 各自が今後執筆する論文に関わる実証研究の先行研究を読み進められるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

実証分析を行っている査読論文を選び、グループで論文のポイントとなる分析手法や結論の読み方を紐解き、論点を明確にする。授業で扱う論文を事前に配布するので、受講者は目を通してから講義に臨むこと。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 実証分析の基礎	実証分析の基本的な考え方について理解する。
2	人材育成・教育に関する実証分析論文の検討	人材育成・教育に関する論文を用いて、分析手法及び内容の検討を行う。
3	福祉に関する実証分析論文の検討	福祉に関する論文を用いて、分析手法及び内容の検討を行う。
4	生活経済に関する実証分析論文の検討	生活経済に関する論文を用いて、分析手法及び内容の検討を行う。
5	消費生活に関する実証分析論文の検討	消費生活に関する論文を用いて、分析手法及び内容の検討を行う。
6	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。
7	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究分野に関する雑誌（査読論文が望ましい）にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧める。

【テキスト（教科書）】

教科書はなく、教材を毎回配布する。教材は優れた実証分析で構成された学術論文を予定している。

【参考書】

大湾秀雄（2017）『日本の人事を科学する』日本経済新聞出版社
中室牧子、津川友介（2017）『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社
森田果（2014）『実証分析入門』日本評論社

山口慎太郎（2019）『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書
山本勲（2015）『実証分析のための計量経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %
期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学術雑誌にアクセスし論文検索ができるパソコン。

【その他の重要事項】

教材で取り上げる論文は、回帰分析、個票分析、プロビット分析などの量的分析手法を用いる研究が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical research on human resources, education, welfare, living economy, and consumer life.

MAN520R1

雇用政策研究（マクロ）

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般（マクロ）について検討する。少子高齢化、グローバル化、知識基盤社会化のなかで、雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または、これらに興味のある人を念頭に、雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する。ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも、雇用に関心があがり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本の雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義を進めたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	雇用の定義、論点および雇用の歴史	ーそもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思込んでいる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探索する。
2	日本の雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本の雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか？
3	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？さらに、労働市場の基本構造を考える
4	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発とながら違うのか？環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える
5	非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍兼業・副業など柔軟な働き方	非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える
6	兼業・副業と雇用によらない働き方	兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。
7	ミドル・シニアの働き方とまとめ	日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。

1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しないが、以下に掲げる7冊から1冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）。このほか別途に挙げる主な参考書、授業でその都度、必要に応じて紹介する文献などを参照していただく。また、毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定。

1. ビーター・キャベリ（若山由美訳）『雇用の未来』日本経済新聞社, 2001 年
2. 清家篤『雇用再生—持続可能な働き方を考える』NHK 出版, 2013 年
3. 山田久『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会, 2016 年
4. 永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社, 2017 年
5. 玄田有史『30代の働く地図』岩波書店, 2018 年
6. 山田久『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社, 2020 年
7. 川上淳之『副業の研究』慶応義塾大学出版会, 2021 年

【参考書】

・労働経済白書
・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点）、②2500字以上の長さの科目レポートの得点（65点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する。ただし、これ以外に、必須の小レポートとして、書評レポートを課す。終了時に提出を求める科目レポートは、授業内容を自分なりに消化し、できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい。

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 65%, in class contribution: 35%

【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.

MAN520R1

キャリア理論と統計分析

片岡 亜紀子

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文やレポートを書く際には、先行研究を読む力が求められる。特に統計分析の手法を用いた論文を読み解くには、統計の知識が必要となる。キャリア理論をベースとした論文には、様々な統計手法を用いた調査・分析が存在し、豊かで深い知見を示している。

そこで本授業では、キャリア理論への知見を深めながら、統計手法を学び、先行研究を読み解く力（理解する力、批判する力）を習得することを目的とする。

【到達目標】

- ・統計分析の手法を用いた論文を理解することができる。
- ・統計分析の手法を用いた論文を批判することができる。
- ・統計分析の手法を通じ、キャリア理論に関連する様々な考え方を理解することができる。

At the end of the course, students are expected to be able to understand papers that use statistical analysis methods., To be able to critique papers that use statistical analysis methods., and To be able to understand various ideas related to career theory through the use of statistical analysis.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1 回目から 5 回目までは、講義とグループ討議を実施する。授業前半で行う講義では指定の論文を用いキャリア理論と統計手法を学び、授業後半で行うグループ討議では指定の論文について議論し各グループの代表者が発表する。グループ討議では論文の納得した箇所、疑問、長所、短所を意識し議論を重ねること。

6 回目と 7 回目では、本授業の学びの集大成として受講者自らが選んだキャリア理論と統計手法に関する論文を用い事例発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/ キャリアレジリエンスと 因子分析	オリエンテーションでは、授業の到達目標や成績評価、授業の進め方について簡単に説明する。 講義では、キャリアレジリエンスをテーマに据え、因子分析について学ぶ。
第 2 回	キャリア焦燥感と t 検定、分散分析	キャリア焦燥感をテーマに据え、t 検定、分散分析について学ぶ。
第 3 回	キャリアアダプタビリティとクラスター分析	キャリアアダプタビリティをテーマに据え、クラスター分析について学ぶ。
第 4 回	キャリアプラトールと重回帰分析	キャリアプラトールをテーマに据え、重回帰分析について学ぶ。
第 5 回	キャリア自律と共分散分析	キャリア自律をテーマに据え、共分散分析について学ぶ。
第 6 回	事例発表（1）	授業で学んだ分析手法を用いた論文を選択し、事例発表を行う。
第 7 回	事例発表（2）	授業で学んだ分析手法を用いた論文を選択し、事例発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から論文や書籍に触れることが望ましい。授業で配布した論文や参考書をはじめ、関連する論文や書籍を読んでおくこと。

本授業では、準備学習 1 時間、復習時間 1 時間を標準とする。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

なお、統計学の知識に不安がある場合は、以下の本を事前に読んでおくことを推奨する。

・小島寛之『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社、2006 年

【テキスト（教科書）】

必要に応じてテーマにあった論文を配布する。

【参考書】

・渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版、2018 年
・宮本聡介・宇井美代子『質問紙調査と心理測定尺度』サイエンス社、2014 年
・石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018 年
その他、必要があれば授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

①平常点（授業とグループ討議の参加状況）40 %

②事例発表 60 %

Your overall grade in the class will be decided based on the following: 40% for attitude toward the class and group discussions, and 60% for the case study presentation.

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではないが情報収集や発表時にパソコンがあれば望ましい。

【その他の重要事項】

・事例発表が必須であることを考慮し授業に臨むこと。

・質問は、授業開始前と授業終了後に受け付ける。

You are required to present a case study in the class.

I will take questions before and after the class.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn statistical methods and acquire the ability to read and understand (understand and criticize) previous research while deepening knowledge of career theory.

MAN520R1

キャリア政策研究

岸田 泰則

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

働き方改革や価値の多様化に伴い、個人のキャリア開発はますますその価値を高めている。本授業では、働く人、個人のキャリア開発を促す方策について理解を深めることを目的とする。授業では、一貫して働くことの意味を考えていく。

【到達目標】

本授業では、キャリアに関する課題への考察を通じて、働くことの意味を自ら考えることができるようにする。さらには、個人のキャリア開発を促す方策についての先行研究を自らのオリジナルな視点でレビューできることを最終的な到達目標とする。

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Think about the meaning of work by themselves through consideration of career-related issues.
- ・ Evaluate previous studies in terms of their methods, results, conclusions and implications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回とも学生が分担して、先行研究（論文）をレビューした結果を発表する。その後、講師が先行研究の基本的な概念と研究方法について説明を加える。毎回、授業の後半で、いくつかのグループに分かれグループディスカッションを行い、グループごとにその結果を発表することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	キャリア発達にかかわる学問領域の概要	キャリア発達にかかわる学問領域として組織行動論、キャリア心理学を検討するに際して対象の全体像を確認する。
2	ゲスト講演	キャリア政策の思想と事例について講演いただく。
3	若年者のキャリア発達	若年者のキャリア発達についての理解を深める。 質的研究を扱う。
4	ミドル・シニアのキャリア発達	ミドル・シニアのキャリア発達についての理解を深める。 質的研究を扱う。
5	女性のキャリア発達	女性のキャリア発達についての理解を深める。 量的研究を扱う。
6	フリーランスのキャリア発達	フリーランスのキャリア発達についての理解を深める。 質的研究を扱う。
7	外国人のキャリア発達とまとめ	外国人のキャリア発達についての理解を深める。 量的研究を扱う。 授業全体のふりかえりを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として事前に指定された先行研究（論文）を読み、自らのオリジナルな視点でレビューをし発表することを課題とする。なお、この課題は分担として、授業 7 回の中で 1 回は担当するようにしたい。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

Students will be expected to read the previous study, review them from your own original perspective, and present your findings. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業において、都度、授業資料（論文）を配布する。

【参考書】

武石恵美子『キャリア開発論』中央経済社 2016 年
 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版 2018 年
 渡部昌平『LIFE CAREER（ライフ・キャリア）』金子書房 2019 年

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

- ①平常点（授業への参加、グループ討議） 35 %
- ②各自が担当する発表（中間レポート） 30 %
- ③最終レポート 35 %

最終レポートとして、キャリア開発に関わる先行研究のレビューを 2000 字程度のレポートとして提出する。

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 35%, mid-term report 30 %, and 35% final report.

【学生の意見等からの気づき】

各回の授業については考察を深めるために内容量を抑制する。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、授業時に PC 等を利用することは構わない。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは、授業開始前と授業終了後とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of measures to encourage career development of workers. In this course, we will consider the meaning of work consistently.

MAN520R1

地域雇用政策事例研究

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJ ターンを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3	地域のサードプレイスと関係人口	ゲスト講師の可能性もある。地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 2）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 3） 地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1. いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べること（その成果を授業中に発表していただく）
2. 地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

1. 松永桂子 『創造的地域社会』 新評論 2012 年
2. 伊藤実ほか 『地域における雇用創造』 雇用開発センター 2008 年
3. 玉沖仁美 『地域をプロデュースする仕事』 英治出版 2012 年
4. 石山恒貴 『パラレルキャリアを始めよう』 ダイアモンド社 2015 年
5. 石山恒貴編 『地域とゆるくつながろう－サードプレイスと関係人口の時代』 静岡新聞社 2019 年

【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65 点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Regional Employment Policy.

MAN520R1

人材育成論

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ、日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4	実践共同体と越境の学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
6	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】

労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016 年
石山恒貴『越境の学習のメカニズム』福村出版、2018 年
石山恒貴『パラレルキャリアを始めよう』ダイヤモンド社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、②各自が担当する事例発表の得点（65 点満点）で、両者を足した総得点による。

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

ARSI520R1

地域コミュニティ論

中島 由紀

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：経済・社会・雇用／

群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域コミュニティは多様な方面で用いられる用語であり、その定義や理解も非常に多岐にわたる。本講義では、昨今使われている「地域コミュニティ」の本質を複数の観点から掘り下げていく。

前半はコミュニティの理論の古典的概念とその変遷を整理していき、それらが日本社会でどのように扱われ、それによって社会生活の中でどのような位置づけで語られてきたかをみていく。

後半は、今日の「地域コミュニティ」の課題に焦点を当て、具体的な事例や現象から「地域コミュニティ」の何が問題で、どう解決していくべきかを考えていく。特に、2020 年以降のコロナは私たちの生活や価値観に大きな影響を与えた。これらの変化は、コミュニティの在り方にも大きく影響を与えている。最終回の 2 回は、コロナ禍を経て、これからの社会に求められているコミュニティの在り方を考えて、グループ討議する。

【到達目標】

今日のコミュニティの問題について、自身の問いが明確になり調査研究の方向性が固まること。自身の論文で「地域コミュニティ」を扱う場合に、コミュニティの何にアプローチし、どの観点から論じるのか、論点が明確になること。以上の 2 点が到達できることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義形式を中心に、各回のテーマに沿った参考文献、資料、論文を読んだり、映像視聴や事例をみていき、適宜グループディスカッション形式も取り入れる。

・また、講義資料と参考論文から、社会科学でよくでてくるアンケート調査の統計処理方法を提示する。ここから、論文作成に必要な基礎的な統計データの読み方（主にクロス集計、多変量解析）について触れる時間も設けるので、各自論文作成に役立ててもらいたい。

・事前に読んでおいて欲しい資料は適宜提示する。その場合は、次の講義で同資料の輪読を中心にディスカッションを行うため必読である。

・毎回、講義終了時にコメントシートを配布するので、授業で得た気づきや疑問、論点整理などを記載して提出してもらうが、これが出席カードの代わりとなるので留意して記入いただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	○イントロダクション ○コミュニティとは何か？ ー理論の承襲ー ○近代から現代の変化	R.M. マッキーバー、F. テンニエス、ジメル、ワース、バージュスらの古典的コミュニティの概念を整理する。その上で、日本でいかに「コミュニティ」が捉えられ、議論されてきたか根幹を確認する。
第 2 回	○近代から現代 都市論からみたコミュニティ ○日本の共同体から都市化の変化	第 1 回に続き、コミュニティ論の変遷を都市論の観点でみていく。その上で、日本の共同体の概念から都市化を経た社会変化を背景に、現代的日本の課題は何かをディスカッションする。
第 3 回	○コミュニティ政策の変遷 ○自治体における地域コミュニティ活性化への取り組み	1970 年代から始まった旧自治省のコミュニティ政策の変遷をたどり、政府が意図していたコミュニティの活性化と現実がどのように乖離したのか、なぜ乖離したのかを考えていく。本回は特に、町内会・自治会といった機能組織の側面からの変遷を捉えていく。
第 4 回	○「個」とつながりのコミュニティ ○「かかわり」の意識と「共同性」「公共性」の問題	日本の NPO の現状を概観し、どのような政策が進められてきたかをみていく。ここから、日本人の「個」と「共同性」「公共性」の問題について考える。人々の公共性はいかに醸成されるのか、行動にうつすにはどうしたらいいのか。今日的、コミュニティへの「参加」の問題を扱う。

第 5 回 ○日本人の生活と価値観の変化
○「ウチ／ソト」「タテ／ヨコ」社会、「信頼と安心」、そして、、

日本の生活様式、価値観はどのように変化してきたのか。生活と価値観の変化は、そのまま「コミュニティの在り方の変化」と捉えることができる。旧来型の日本の地縁型コミュニティの特性は何か、その後の今日の地域コミュニティの変化の問題を考えていく。

第 6 回 ○「新しい地域コミュニティ」を考える
○アフターコロナ時代に、これから求められているコミュニティの在り方は？

2020 年以降のコロナ禍は、私たちの生活様式や価値観に大きな変化を与えた。さらに、ここ数年連続して起きている自然災害も、然りである。第 6 回は「新しいコミュニティ」を考えていく。グループに分かれてディスカッションし、各グループが描く「新しい地域コミュニティの在り方」をまとめていく。

第 7 回 ○コミュニティの行方
○令和時代のコミュニティ

第 6 回目でディスカッションしたグループの「新しい地域コミュニティの在り方」を発表。さらに、これからの日本社会における、新しい地域コミュニティの在り方を議論していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義で参考資料や論文を配布するので、それらを次回講義までに必ず読了しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。また、授業欠席者は資料を受取れるようにしておくため適宜キャッチアップして参加するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

以下の【参考書】の中で【●】は授業中に必ず使う。授業中に使う部分のみ一部をコピーして配布するが、全文を読了しておくことが望ましいです。

【参考書】

- 『安心社会から信頼社会へ』山岸俊男,1999（中公新書）
- 『共同体の基礎理論』内山節,2010 年（農山漁村文化協会）
- 『われらの子どもー米国における機会格差の拡大』ロバート・D・パットナム,2017（訳（創元社）
- 『都市コミュニティ論』倉田和四生,1985（法律文化社）
- 『タテ社会の人間関係』中根千枝,1967（講談社現代新書）
- 『都市的共同性の社会学』中道實、神谷国弘,1997（ナカニシヤ出版）
- 『都市コミュニティの社会学』中村八朗,1973（有斐閣双書）
- 『コミュニティを問いなおす』広井良典,2009（ちくま新書）
- 『集団と組織の社会学ー集合的アイデンティティのダイナミクス』山田真茂留,2017（世界思想社）
- 『生き心地の良い町』岡壇,2013（講談社）

【成績評価の方法と基準】

- ・授業の参加とコメントシートの提出（50%）
 - ・6 回目、7 回目のグループワーク（30%）
 - ・最終レポート提出（20%）
- ※グループワークへの参加が難しい場合は個別取組みでの対応も可、但し事前に要相談

【学生の意見等からの気づき】

- （1）統計的資料について
漠然とした議論になりがち「コミュニティ」というテーマであるが、それ故に統計資料やアンケート調査結果など、数値的根拠を示す資料を講義中に提示したが深く学ぶ時間はとれなかった。これらのデータの読み方や使い方に關して学ぶための時間の確保は難しいものの、今年度は数値を読み解くための資料を用意し、講義内でデータを見ながら議論を深めていく予定である。
- （2）今日的「コミュニティ問題」の扱い方について
コミュニティの変化は時代の変化に呼応している。本講義の後半は今日の「コミュニティの問題」を扱う訳であるが、本講義はシラバス公開後半年以上先の開講となるため、実際の講義は時代の変化に合わせた内容に適宜変更している。この時代感にマッチした内容の討議、事例の検討が学生からは非常に有益であったという意見があったため、今年度も継続して行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使う資料を都度、共有するため、各種資料を正確にダウンロードしー読した上で受講をお願いする。

【Outline (in English)】

The first half organizes the classic concept of community theory and its transition. From there, we will look at how it was treated in Japanese society. The second half will focus on today's "community" subject. With reference to concrete examples and phenomena, we will consider how to solve the "community". By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ The point of discussion of the "community" will be clarified when preparing the paper.
- ・ To be clear what you are focusing on in the ambiguous "community".
- ・ Learn the basic knowledge of statistics used in questionnaire surveys.

ECN520R1

消費者政策論

柿野 成美

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：経済・社会・雇用／

群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、公正で持続可能な社会に向けた今後の在り方について検討する。

【到達目標】

身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解できるようになる。また、残された課題について議論し、今後の在り方について検討することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義ではゲストスピーカーによる講義や現地調査を取り入れる。授業の後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2	消費者政策の基本的な法制度と消費生活相談	消費者政策の基本的な法制度と消費生活相談の具体事例を学ぶ。
3	地方消費者行政の実態	東京都消費生活総合センター（飯田橋）を訪れ、消費者行政の現状と課題について学ぶ。
4	消費者の自立支援	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
5	消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
6	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連する諸課題に関心を持つようにすること。

【テキスト（教科書）】

『日本の消費者政策—公正で健全な市場をめざして—』樋口一清・井内正敏、創成社、2020 年、2500 円

【参考書】

『くらしの豆知識 2021』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合

『消費者事件 歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015 年

『消費者教育の未来—分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019 年

【成績評価の方法と基準】

レポート課題：50 %、平常点：50 %

毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】**【Outline (in English)】**

This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

ARSI520R1

生活政策論

柿野 成美

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：経済・社会・雇用／

群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では消費者の立場から生活政策を捉え、公正で持続可能な社会の形成に向けた生活政策の実現に資する基本的な理論について学ぶと共に、具体事例を通じて地域政策の在り方について議論することを目的とする。

【到達目標】

消費者の視点から生活政策を捉え、連携・協働によって実現した地域政策について理解することができる。また、自らの足元から課題を捉え、それを解決するための道筋について検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義では具体的事例を紹介し、ゲストスピーカーによる講義も取り入れる。授業の後半では、各自で生活に関わる諸政策について課題を設定し、その解決の方向性について発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	公正で持続可能な社会の実現に向けた生活政策が求められる背景や、その課題について理解する。
第 2 回	課題の発見と解決策へのアプローチ	本講義の主要な概念として、連携・協働、コーディネーター、実践コミュニティ等の考え方等について理解する。
第 3 回	事例 1：企業と消費者の共創	地域企業と小学生の親子を対象としたプログラム「SDGs 調査隊」を事例として、企業と消費者の共創の在り方について検討する。
第 4 回	事例 2：子供や若者の自立支援（消費者教育）	教育行政との連携を目的とした「消費者教育コーディネーター」を事例として、分断を乗り越える方策について議論する。
第 5 回	事例 3：市民協働によるエシカル・サステナブルな地域づくり	地域でエシカル・サステナブルに取り組むゲストスピーカーの講義を聞き、課題解決の方法について議論する。
第 6 回	発表・討議	生活政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
第 7 回	発表・討議・まとめ	生活政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。「生活に関する政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し発表する。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

○政府の白書

内閣府「高齢社会白書」「少子社会対策白書」「子供・若者白書」「障害者白書」「経済財政白書」

厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」

環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」

消費者庁「消費者白書」等

○『消費者教育の未来—分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019 年

【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加度（50 %）、最終レポート（50 %）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the basic concepts that contribute to the realization of livelihood policies for the formation of a fair and sustainable society and to discuss the state of regional policies through specific examples.

ARSI520R1

男女共同参画政策論

池永 肇恵

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

性別に関わりなく能力が発揮できる男女共同参画社会は、誰にとっても暮らしやすい社会である。海外に比べて日本は男女共同参画で大きく後れをとっている。当授業では、様々な分野における男女共同参画の現状と課題、関連施策について学び、政策提言に必要な視点や知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

男女共同参画に関するデータから日本の経済社会に潜むジェンダー（社会的・文化的な性別）のバイアスに気づき、ジェンダーへの感度を高める。家庭・職場・地域などで、多様な個人を尊重し性別にかかわらず能力が発揮できる、いわゆるダイバーシティ&インクルージョンに向けた環境づくりに資する知識や視点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

男女共同参画に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。

各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。

最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。

受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義と対面講義双方を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入/経済分野	ジェンダーの概念、ジェンダーギャップ指数、男女の就業状況、女性活躍の経済への影響、関連法制度などを学ぶ。
2	政治分野/ハラスメント	女性議員の状況、政治分野に関する国内外の関連法制度、セクハラ、マタハラ・パタハラ、DV や性暴力など男女間の暴力の実態と対応策を学ぶ。
3	ワークライフバランス/法制度の中立性	家事・子育て・介護等と仕事のバランス、社会保障・税制・家族法制等が男女の行動に及ぼす影響を学ぶ。
4	健康・スポーツ/教育・科学技術	男女の健康・疾病状況、医療分野、教育・科学技術における女性の参画状況、多様性とイノベーションなどを学ぶ。
5	地域社会/防災	地域社会の様々な分野での担い手、意思決定過程、防災・被災現場・復興など各過程における女性参画の状況と意義を学ぶ。
6	国際動向と残された課題/最近のトピック	SDGs を含む国際的な関心の高まり、「意識」の問題、AI やコロナ禍の影響など新たな課題を学ぶ。
7	まとめ、レポート発表・ディスカッション	これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持ったジェンダー課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどに接し、どのようなジェンダー課題があるか、必要な対応はどのようなものかに関して、自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】

内閣府「男女共同参画白書」

内閣府男女共同参画局 HP <https://www.gender.go.jp/>

イリス・ボネット『ワークデザイン』NTT 出版 2018 年

キャロライン・クリアド=ベレス『存在しない女たち』河出書房新社 2020 年

ハーバード・ビジネス・レビュー『女性の力』ダイヤモンド社 2020 年 4

月号

前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書 2019 年

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書 2019 年

【成績評価の方法と基準】

レポート（70 %）、平常点（30 %）

毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。

受講生自身が関心を持ったジェンダー課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoom が利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary perspectives and knowledge needed for policy making through learning the current situation, challenges and related policy measures with respect to gender equality.

ARSI520R1

実践地方行政論

池永 肇恵

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住民の暮らしに身近な存在である自治体は、国が決定した法制度の下で、地域の実情を踏まえて施策を推進する現場であり、日本が直面する人口減少、少子・超高齢化などの課題に対して、最前線で取組みを進めている。当授業では、地方行政が直面する課題を採り上げ、国の施策や先進事例に触れながら、自治体の様々な取組を学ぶ。

【到達目標】

生活者の目線で地方行政の課題と対応する取組を考察することで、自身が居住する、あるいは関心ある地域の課題を発見し、持続可能な地域づくりに主体的に関わる視点や知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地方行政に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。

各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。

最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。

受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義と対面講義双方を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入/人口減少の影響	地方公共団体の種類、国と地方公共団体の役割分担、人口減少のなかでの自治体運営の方向性を学ぶ。
2	財政/健康医療福祉	地方公共団体の財政の特徴や課題、介護・高齢化対応や健康増進、地域医療の課題を学ぶ。
3	商工・労働/農林水産業	産業振興としての企業誘致、就労支援策の特徴、農林水産業のスマート化など担い手不足への対応の動きを学ぶ。
4	インフラ/防災・防犯	老朽化や人口減少に対応したインフラの再構成、災害時、防災・防犯における行政の役割や取組を学ぶ。
5	環境問題/文化・スポーツ・多様性への対応	ごみ行政、再生可能エネルギー、地域の特性を生かした文化・スポーツ、国籍・性別・障害などの多様性に配慮した取組を学ぶ。
6	住民参加/デジタル化	住民参加の意義や形態、地方議会の状況、行政手続や業務面などにおける自治体のデジタル化の動きを学ぶ。
7	まとめ、レポート発表・ディスカッション	これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持った地域の課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュース、自治体の広報などに接し、どのような地域の課題があり、自治体はどのような取組をしているか、課題と対応に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】

総務省「地方財政白書」
大森欄・大杉寛「これからの地方自治の教科書」第一法規 2019 年

【成績評価の方法と基準】

レポート（70 %）、平常点（30 %）

毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。

受講生自身の居住地あるいは関心のある地域における課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoom が利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

This course introduces challenges faced by local governments and their policy choices while referring to national government policies and examples of advanced cases.

ARSx520R1

地域社会論

上山 肇

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：経済・社会・雇用／

群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会とまちづくり：地域まちづくりの観点から地域社会を考えます。

【到達目標】

地域社会を形成している諸要素（計画、ルール、コミュニティ、住民参加等）を認識しつつ、良好な地域社会が具体的にできあがるまでのシステムとプロセスを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地域社会学のポイントを押さえながら、特に「まちづくり」の観点から具体的な事例を通して実践的な視点を養います。授業の一部に替えて視察を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	はじめに	本授業で取り扱う範囲及び地域社会学の概論（理論と方法）について話します。
2.	都市と農村	「都市と農村」の分野の中から、特に「都市」における「混住地域」などをテーマに授業を進めます。事例研究 (1)
3.	空間と場所	人が「都市」という場・空間でどのように生きているのかということについて、「サステナブル・シティ」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (2)
4.	リージョンとコミュニティ	地域社会学における基本理念である「リージョンとコミュニティ」の分野の中から「地域社会とまちづくり」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (3)
5.	分権と自治	地域社会形成を考える上で重要なテーマである「分権と自治」について、自治体研究を行い、同時に「地方分権権」や「参加」「ルール」等について考えます。事例研究 (4)
6.	開発と福祉	「開発と福祉」というテーマは、地域社会学の研究の中でも応用的な研究になりますが、特に「再開発」や「福祉のまちづくり」といったことに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (5)
7.	土地と環境	論点幅広い「土地と環境」の中でも、特に「都市計画」や「景観」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (6)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、発言 20%、レポート 30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が一層活発に議論が展開できるような内容の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

皆さんがこれから進めていく研究や論文を書くためのヒントを少しでも多く与えられればと考えています。受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces local community and community development to students taking this course.

[Learning Objectives]

1. Recognize the elements that make up the community (plans, rule communities, community participation, etc.).

2. Understand the systems and processes that lead to the concrete formation of a good community.

[Learning activities outside of classroom]

Please read the materials to be distributed.

[Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process:

Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSk520R1

比較都市事例研究

上山 肇

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の都市（地域、地区）を取り上げ、相互比較しながら都市の現状と都市が抱えるさまざまな課題等について考察します。

【到達目標】

都市分析の多角的な視点を獲得すると同時に、比較研究の基本を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回事例研究を行うとともに、学生による発表を行います。その後、特定テーマに関してディカッションを全員で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと講義	都市比較の要点
第 2 回	事例研究 1：事例紹介と作業（対象地域に関する資料収集）	事例紹介、質疑応答とディスカッション、対象地域に関する資料収集
第 3 回	事例研究 2：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）作成
第 4 回	中間発表	作成途中の作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）について学生による中間発表、質疑応答、ディスカッション
第 5 回	事例研究 3：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）作成
第 6 回	事例研究 4：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）の説明（発表）、質疑応答、ディスカッション、講評
第 7 回	最終発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査対象地に関する資料収集とフィールドワーク

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、発言 20%、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター製作） 30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生が作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）製作に時間がさけるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the present condition and issues of cities by comparing cities (regions and districts).

[Learning Objectives]

At the same time as acquiring a multifaceted perspective on urban analysis, you will acquire the basics of comparative research.

[Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Work production(30%).

ARSI520R1

文化基盤形成論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域にはそれぞれに文化を育てる基盤がある。それは歴史が作ってきたものであり、また他からの文化の流入に注目する必要もあるだろう。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。本授業でとくに注目するのはひとつひとつのネットワークである。毎回、事例を用いることによって、各地域の文化基盤形成のメカニズムを明らかにしていきたい。

【到達目標】

学習到達点としては現在、地域の文化基盤形成のプロセス、また文化基盤活用の実践の事例についても理解を促進し、また文化のアーカイブ化の重要性についても言及していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ハードパワーからソフトパワーへの転換が注目され、文化の重要性の認識が高まっている。また地域創生の観点からすれば、地域個々の文化が住民のアイデンティティ創出や集客事業においても注目されている。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。具体的には絵画、映画、小説、マンガ、音楽などのコンテンツに注目し、それらを文化資源と捉え、その萌芽の基盤となるネットワーク形成やコミュニティ形成に注目していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1/2	文化基盤についての歴史地理学的なアプローチの検討/Examining a historical geographic approach to cultural infrastructure	文化基盤の説明と時間と空間の組み合わせでみる文化基盤形成/Explanation of cultural infrastructure and formation of cultural infrastructure by combining time and space
3/4	文士村、芸術家村、学者村/Scholar Village, Yunshujia Village, Scholar Village	田端、馬込、阿佐ヶ谷等、作家の集住による文化基盤形成 to 池袋モンパルナス、法政大学村などの集住による文化基盤形成について/With the formation of a cultural foundation by the settlement of Tabata, Magome, Asagaya, and writers
5/6	サロンという場とストリートという場/A place called a salon and a place called a street	サロンの形成、その事例紹介/ストリートにおけるコミュニケーション/Salon formation, case studies / street communication
7/8	札幌における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Sapporo	札幌農学校を軸にした文化基盤形成/産業創出への展開/Development of cultural infrastructure formation / industry creation centered on Sapporo Agricultural College
10/11	福岡における文化基盤形成のプロセスと大連における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Fukuoka and the process of forming a cultural foundation in Dalian	ポップミュージックを軸にした文化基盤形成/戦前期大連における日本人の文化ネットワーク/Forming a cultural foundation centered on pop music / Japanese cultural network in prewar Dalian
11/12	海外での文化基盤形成の事例/Examples of cultural infrastructure formation overseas	ロンドン・チェルシー、ニューヨーク・グリニッジビレッジ、ミュンヘン・シュワビング等の紹介/Introducing London Chelsea, New York Greenwich Village, Munich Schwabing, etc.

13/14 履修学生の出身地における文化基盤形成の事例の発表/Presentation of examples of cultural foundation formation in the hometown of students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。13/14 回目に履修学生の発表を行ってもらう。その発表をもとに各自レポート作成、提出のこと。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

今橋映子『異都憧憬 日本人のバリ』平凡社
増淵敏之『湘南の誕生 音楽とポップ・カルチャーが果たした役割』リットーミュージック

【成績評価の方法と基準】

平常点（発表含む）30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

より具体例を挙げ、実務的な視点からも興味の持てる内容にする。適宜、タイムリーな話題提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

新しいアプローチの領域なので、履修学生とともに知見を共有、蓄積していきたい。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 - 18 時。

【Outline (in English)】

Each region has its own culture-growing base. It is a history that has been created, and it will be necessary to pay attention to the influx of culture from others. Of particular interest in this class is the network of people. I would like to clarify the mechanism of cultural base formation in each region by using examples every time.

ARSI520R1

コミュニティメディア論

北郷 裕美

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会を含む様々なコミュニティに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する機会・環境も生まれてきた。そこで市民社会（特に地域社会）の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティメディア、市民のメディアを捉えるべきか、を考える。

【到達目標】

本講義は毎回テーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル（規範モデル）を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義は対面、オンラインどちらの場合も、パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材を使った形式を取る。必要に応じて音声や画像、You tube、DVD 動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したQ & Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在（失われた空間の意味するところ）	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する
第 2 回	マス・メディアの発展と限界	高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
第 3 回	市民メディアの種類と歴史	多様なコミュニティメディアの役割を時系列で総論的に扱う
第 4 回	パブリックアクセスを学ぶ	市民メディアのキーワードである『パブリックアクセス』について考える
第 5 回	映画視聴①	米国映画 (Public Access) を視聴する
第 6 回	ディスカッションと解説	米国映画 (Public Access) についての意見交換と解説
第 7 回	映画視聴②	邦画（コミュニティ放送前夜の時代を描いた作品）を視聴する
第 8 回	ディスカッションと解説	日本のコミュニティ・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説
第 9 回	動画視聴講義 コミュニティ放送を観る	日本のコミュニティ FM 放送を取材した NHK ドキュメンタリーほか動画視聴 意見交換と解説
第 10 回	コミュニティ放送の概要と機能 公共性指標	北海道のコミュニティ FM 放送調査を事例に解説
第 11 回	コミュニティ放送の運営課題	日本のコミュニティ FM 放送の組織経営の在り方と課題について
第 12 回	コミュニティ放送と防災	様々な事例より、コミュニティメディアの防災側面 リスク最大値からの教訓を考える
第 13 回	動画視聴講義 テロ事件をテーマとしたメディアリテラシー	映像をまじえて『メディアリテラシー』全般について考える
第 14 回	ネット社会とコミュニティメディア	コミュニティメディアのインターネット空間への広がりにおける可能性と将来的な課題を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧願う。

【テキスト（教科書）】

・『コミュニティ FM の可能性: 公共性・地域・コミュニケーション
ー』（北郷裕美著 青弓社）

【参考書】

・『日本のコミュニティ放送－理想と現実の間で－』（共著 晃洋書房）
・『新・公共経営論』（共著 ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、授業中の討議参加 20 %、レポート試験 60 % を原則的な配分として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講生のコメントや質問を参考にしながらその内容を具体的な事例を中心に講義内で扱っていく。

【学生が準備すべき機器他】

講義は原則として、毎回 PC 機器、視聴覚機器（DVD 等）を使ったプレゼンテーション型の講義を PPT で行う。受講生が PC を用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

【その他の重要事項】

授業後に質問等を受け付けるが、時間の関係で大学の学習支援システムを使って毎回の課題スペースに記していただくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local,regional community).

ARSI520R1

都市文化論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

【到達目標】

都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では 1960 年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に上げていく。文化面が強調されていくのは 1980 年以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテキスト分析型の都市論、そして 1990 年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置（劇場、映画館、カフェなど）にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	ガイダンスと都市論の系譜/Genealogy of guidance and urban studies	都市文化に関する基礎知識/Basic knowledge about urban culture
3,4	近代における都市形成と博覧会の果たした役割/The role played by urban formation and expositions in modern times	都市形成とイベント/City formation and events
5,6	「考現学入門」解説とカフェ論/Deciphering "Introduction to Thinking and Learning" and Cafe Theory	フィールドワークの事例紹介と都市文化装置としてのカフェ/Case study of fieldwork and cafe as an urban cultural device
7,8	百貨店論、東京への文化的装置の集中/Department store theory, concentration of cultural equipment in Tokyo	都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程/Department store as an urban cultural device, the process of concentrating cultural devices in Tokyo
9,10	東京への文化的装置の集中、映画や小説の中の東京/Concentration of cultural equipment in Tokyo, Tokyo in movies and novels	文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容/The process of concentration of cultural equipment in Tokyo, the transformation of Tokyo seen in movies and novels
11,12	アジアの諸都市/Asian cities	アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ/Look at the cultural transformations of Asian cities, eg Bangkok, Manila
13,14	都市と異文化受容、都市というメディア/The media of cities, cross-cultural acceptance, and cities	異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ/Transformation of urban culture by accepting different cultures, approach to seeing cities as media

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用

【参考書】

授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】

PC.DVD の使用もある。

【その他の重要事項】

多少、内容等が変わる可能性もある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 - 18 時。

【Outline (in English)】

Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinarily, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

TRS520R1

ニューツーリズム論

須藤 廣

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における観光の様態、変動の方向について確かな視点を持つことを先ずこの授業の目標とする。そこから観光のあり方の変容の背後に存在する、国家のレジャー政策、観光産業、文化産業の戦略等を多方面から学修する。観光におけるマスツーリズムからニューツーリズムへの道筋を批判的に捉える力を身につける。

【到達目標】

先進国における観光のあり方はマスツーリズムからニューツーリズム（ポスト・マスツーリズム）へと変化したのであるが、戦後の歴史を見れば、このことはフォーディズム型観光からポストフォーディズム型観光への変化として捉えることができる。そのなかで現代観光の特徴は観光対象が「名所」「旧跡」「名勝」といった固定的なものから、観光客や地元住民が「参加」しつつ、創作するものへと変化してきたことである。また、現代における観光資源の創造は、近代化遺産のような歴史や文化の保護・保全といったものと、テーマパークやコンテンツ・ツーリズム等人工的なものの創造（捏造）の2つのタイプに分けられる。しかし、この2つは融合しつつ様々なパターンを形成しつつある。これらがどのような意味を持つものなのかを、現代における観光の様々な形態から解き明かしてゆく。また学生には、現代における国内外の「観光政策」の文脈を捉えつつ、それらが正負の価値を持つものとして「両義的」なものとして見る視座を創り上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各授業は1回目は講義のみ、2回目からは各講義の前半部分は講義型を中心に、後半においては学生の発表も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション マスツーリズムから ニューツーリズム（ポスト・マスツーリズム）へ の変化の背景	授業の全容の紹介及び、 フォーディズム体制における国家とレジャーについて、そしてポストフォーディズム体制における観光の変容について講義。
第 2 回	英国の近代とレジャーの 発生、及び観光政策、観 光産業発展史	観光のフォーディズムとポストフォーディズム、前半：マスツーリズム、 ニューツーリズムの発生についての講義 後半：老川慶喜『鉄道と観光の近現代史』を読む。
第 3 回	戦前の日本における近代 観光の発展と国家の観光 政策	前半：明治から第2次大戦までの観光政策と観光産業の歴史を講義。 後半：平山昇『鉄道が変えた社寺参詣―初詣は鉄道とともに生まれ育った』を読む。
第 4 回	戦後の日本における大衆 消費型マスツーリズムの 形成	前半：東京オリンピック、大阪万博以降、特に「デイズカバージャパン」政策について講義 後半：森彰英『デイズカバージャパンの時代―新しい旅を創造した、史上最大のキャンペーン』を読む。
第 5 回	リゾート（総合保養地域 整備）法と観光バブル 観光における虚構の進展	前半：1980年代～1990年代までリゾート法が作った観光バブルとその反省について、及び全国総合開発計画（全総）と観光との関係について講義。 後半：佐藤誠『リゾート列島』、能登路雅子『デイズニerlandという聖地』を読む。
第 6 回	ポストモダン社会におけ る観光が向かう方向につ いて	アートツーリズム、ダークツーリズム、リアリティツーリズム、まんがアニメツーリズムの可能性と限界について考える
第 7 回	ポスト・マスツーリズム 時代における、観光文化 の可能性とその限界につ いて考える	映画「僕たちは世界を変えることができない」「ザ・ビーチ」等から、観光がどの程度コスモポリタンな連帯や自己変革に寄与できるのか、できないのかについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず講義後半で扱う書籍、論文を読んで参加すること

【テキスト（教科書）】

イントロダクションで、受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

須藤廣（2012）『ツーリズムとポストモダン社会—後期近代における観光の両義性』明石書店
その他、授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・ディスカッション等平常点（50%）、レポート（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとした。

【その他の重要事項】

講座の進め方等について初回授業で解説すると同時に、履修者の希望等をヒアリングする。そのため、初回授業は要出席。講義内容は、受講者の関心等に沿って変更することも可能とする。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is for the students to have a clear view point to the changing mode of contemporary tourism. Then students investigate the policies of leisure, tourism, and culture made by national and regional government. This lecture depicts the critical or alternative ways of the tourism which changes from mass-tourism to new-tourism or post mass-tourism.

SOC520R1

文化社会学

宮入 恭平

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化社会学は、経済学、哲学や政治学からメディア研究やカルチュラル・スタディーズにいたるまで、さまざまな領域を横断する学問分野です。したがって、学際的な視座が必要になります。この授業では、基本的な理論を理解しながら、社会科学の文脈から文化を分析するための方法を学びます。

【到達目標】

修士論文を書くために必須となる、論理的かつ批判的な視座からの思考を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン授業になった場合には ZOOM でおこないます。「学習支援システム」を確認してください。授業は配布資料と教科書を使って進めます。1 回につき 2 コマ分の授業をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	イントロダクション／「コロナ後の世界と「フルシット・エコノミー」」	この授業について／配布資料
3-4	「結合と分離」、「アイデンティティ」	教科書 Part 1
5-6	「コロナ前のスピート社会に戻るべきではない」、「楽しみと退屈」	配布資料、教科書 Part 2
7-8	「病と死」、「コミュニケーション」	教科書 Part 2、Part 3
9-10	「異文化コミュニケーション」、「コロナ後の世界に警告」	教科書 Part 3、配布資料
11-12	「メディア」、「音楽と場」	教科書 Part 4
13-14	「ステレオタイプ」／まとめ	教科書 Part 4／全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、配布資料やノートを使って、授業内容の確認をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺潤（監修）『新版 コミュニケーション・スタディーズ』世界思想社、2021 年

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

質問など学生からの声に耳をかたむけ、建設的に反映させます。

【その他の重要事項】

・教科書が必須になるので必ず用意してください。
・資料の配布、およびリアクションとレポートの提出は「学習支援システム」を利用します。

【Outline (in English)】

Sociology of culture is a discipline which includes many different fields from economics, philosophy and politics to media studies and cultural studies. Therefore, an interdisciplinary perspective will be needed. In this course, we will discuss about the relationship between culture and society while understanding the basic theories. The aim of this course is to help students acquire how to analyze “culture” in the context of social science.

ARSI520R1

地域ブランド論

金子 和夫

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域ブランドとは、経済のグローバル化が進展して、世界がひとつの市場に統合されていく中で、地域が自らの個性や強みなどローカル特性に徹底的にこだわり、地域でしかできないことを明確にして、世界に対して発信していく取り組みと考える。具体的には、農林水産業、食品産業、伝統工芸産業、観光サービス業、商業などの分野で幅広い展開が行われている。地域再生の取り組みにおいて、地域のイメージと商品・サービスのブランド化を行い、国内外の市場において、競合する地域との競争優位を確保する手法が地域ブランドである。本授業では地域ブランドの理論、手法、実践例、活用方法を学ぶ。

【到達目標】

自己の取り上げた地域資源をもとに、地域ブランディング手法を活用した地域ブランド事業計画を作成して、国や自治体の公的な各種支援制度に申請して採択されるレベルを目指す。そのため、地域課題の発見、解決策の検討、ブランディング手法を用いた事業計画の策定、計画を実行できる推進体制づくりまでのスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、地域ブランドを実践しているコンサルタントが講師を担当し、理論編、手法編、実践事例の討議、事業計画書の作成の4部で構成する。また、校外実習として、講師が実践した事例（江東区亀戸のまちづくり）の現地調査を実施する。授業成果のまとめとして、各自がテーマを設定して、地域ブランド手法を用いた事業計画書を授業で討議するとともに、作成して提出する。また、毎回の事後課題レポートで提出された学生の質問等に対して、授業内で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	理論編「マーケティングの基礎」と「地域ブランドとは何か」	ブランディングを検討する前提となるマーケティングの理論について学ぶ。マーケティング・コンセプト、マーケティング・ミックス、競争戦略などを概観する。また地域ブランドの定義、構成要素、取組手順、課題などを検討する。
第2回	手法編①「地域ブランドのプロデュース手法」	地域資源の発掘と再評価から、現状評価、ブランド戦略策定、地域商社などの推進体制づくりまで検討する。またブランドのコンセプト、ロゴマークデザイン、キャラクターの制作などのブランド化の手法を紹介する。
第3回	手法編②「地域ブランドのプロデュース手法」	商品の開発について、既存商品の改良、新規商品の開発など、さまざまな手法を紹介するとともに、販路開拓の手法を検討する。
第4回	実践編①「農水産物と食品の地域ブランディング」	農水産物の地域ブランド化の要素として、ものの価値、地域の物語、マーケティング、ブランド管理の4つの要素から検討する。また売れる加工食品の商品企画について検討する。事例として、愛知県の祖父江ぎんなん、山口県の長州黒かしわ、愛媛県の日本酒を取り上げる。
第5回	実践編②「伝統工芸の地域ブランディング」	地域の伝統産業に新たなデザインの魅力を加えて、世界に輸出する取り組みを紹介しながら、デザイン、物語など、ブランド価値の向上策について検討する。事例として、JAPAN ブランドの事例、高知県馬路村の monacca などを取り上げる。
第6回	実践編③「商店街の地域ブランディング」	商店街の活性化方向としてブランディングを取り上げて、観光客をターゲットに設定し、物語、シンボル、ネーミング、特色ある商品、サービスなどを企画する。事例として江東区の亀戸香取勝運商店街と亀戸梅屋敷を取り上げる。

第7回 実践編④「都市のブランディング」

持続可能な都市づくりを推進するために、観光客や移住者をターゲットと想定して、都市の物語、ブランド、キャッチフレーズ、キャラクター、戦略プロジェクトをつくり、行政と市民が協力して都市のプロモーションに取り組む。事例として宮城県大崎市を取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業資料と事後課題レポートを事前に配布するので、事前に通読して、課題に対する回答を用意して、授業にのぞむ。また、授業全体を通して、特定地域の地域資源を取り上げて、現状を分析し、地域ブランド化の事業計画を作成して最終レポートとして取り纏めるので、自分の関心のある地域または商品を選んで授業にのぞむ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、講師が作成した教材および実践事例（PDF）を教科書として使用する。また、事例の商品やリーフレットなどを紹介する。

【参考書】

講師のサイト、<http://kanekok.com/>に掲載されたレポート、記事などを参考文献として活用する。その他、参考となる文献は授業中に適宜、紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の事後課題レポートおよび授業内の発言内容と、最終レポートの合計で実施する。授業毎の事後課題レポートは、授業の理解度を把握するために授業の終了時に記入して提出する。授業の発言内容は、授業中の討議において、発言の回数および内容を評価する。授業毎の事後課題レポートが全体の21%（3点×7回）、授業における発言内容が21%（3点×7回）で合計42%である。最終レポートの事業計画の評価は58%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業内における学生の意見を引き出して、学生と教員による活発な議論を可能にするために、事前に資料と検討課題を配布して、学生が予習をして授業にのぞむこととし、授業においては、学生参加型のディスカッション時間を導入する。

【学生が準備すべき機器他】

当日、機器を準備する必要はない。毎回の教材と課題を事前に大学のサイトに掲示するので、ダウンロードして、学習しておくこと。オンライン授業の場合は、パソコンとwifiを必要とする。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、E-mailで受け付ける。アドレスは kanekok@ja2.sonet.ne.jp である。オフィスアワーは毎回の授業後に設ける。

【Outline (in English)】

While the globalization has been integrating the world economy into one huge market, what does “local brand” really mean? It would be regarded as a series of efforts to define what the uniqueness of a specific region is and to communicate it to the world, thoroughly valuing its regional characteristics and strengths. In fact, there have been a variety of branding activities in the industries such as agriculture, forestry, fishery, food, traditional craft, trade and tourism. Through the branding process, the image of the region, as well as its products and services, could be raised, bringing differentiation and competitiveness to the local brand in both domestic and overseas markets. This course provides an overview of theories, methods and best practices relating to the establishment of local brand.

TRS520R1

コンテンツツーリズム論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来のといえば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンがコンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方でもできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特にコンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、クールジャパンの政策枠組の理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

観光文脈でのコンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。またコンテンツ作品そのものの紹介も行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	ガイダンス、コンテンツ・ツーリズム概要/Guidance and Content Tourism Overview	ガイダンス、コンテンツツーリズムの定義/Guidance, Content-Definition of Rhythm
3,4	コンテンツ・ツーリズムの歴史、『北の国から』の魅力/History of content tourism, the charm of "From the North Country"	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯、テレビドラマによる観光創出の事例紹介/Introducing the history of content tourism and examples of tourism creation through TV dramas
5,6	大河ドラマの魅力、韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/The charm of the taiga drama, the charm of the Korean drama "Winter Sonata"	テレビドラマによる観光創出の事例紹介、韓流ブーム/Introducing examples of tourism creation through TV dramas, Korean cultural boom
7,8	「水木しげるロード」ができた理由、『らき☆すた』現象/The reason why "Mizuki Shigeru Road" was created, the "LuckiStar" phenomenon	マンガ、アニメによる観光創出、アニメツーリズム/Tourism creation through manga and anime, anime tourism
9,10	司馬遼太郎と藤沢周平、コンテンツがつくるイメージ/Ryotaro Shiba and Shuhei Fujisawa, the image created by the content	歴史小説及びその映像化による観光創出の事例紹介、イメージの形成について/Introducing examples of tourism creation through historical novels and their visualization, and forming images
11,12	ご当地ソング考、「鬼滅の刃」を巡る/Around the local song, "Kimetsu no Yaiba"	ご当地ソングによる観光創出、小説のツーリズム具体例/Tourism creation by local songs, concrete examples of novel tourism
13,14	新海誠作品を巡る、長井龍雪作品を巡る/Makoto Shinkai's work, Ryusetsu Nagai's work	現在のアニメツーリズムの動向、インバウンド観光への影響/Current trends in anime tourism, impact on inbound tourism

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社
「物語を旅するひとびと 2」増淵敏之, 彩流社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心に学生の発表も交えていく。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】

多少、内容が変わることもある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 - 18 時。

【Outline (in English)】

Currently, content tourism is attracting attention. Conventionally speaking, "pilgrimage to the Holy Land" will be to be understood, but fans are interested in content works and go through the stage. In this way it will be possible to think that it is not a novelty, but it is important that current content tourism is not only related to the tourism context but also to the revitalization and revitalization of the region. In this lecture, we focus on domestic cases and discuss the development process, the way of capturing the future of the country and the creation of new schemes in the range.

BSP520R1

フィールドワーク論

須藤 廣

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、フィールドワーク（現地調査）の考え方と基本技術を身に付けることを目的とする。基本的に質的調査に軸足を置く。

【到達目標】

フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれをどう生かすかについて学んでもらう。前半は講師のこれまでの研究実績を基にして、座学にて行い、後半は各自の研究テーマに沿った形で実際にフィールドワークを行ってもらい報告してもらい。また、新型コロナ感染の状況次第であるが、合同でフィールドワークも実践する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンスフィールドワークの基本	授業の目的 フィールドワークを資料を用いて理解してもらい理解
2 回目	質的調査と量的調査の考え方と方法	社会調査の事例をみながら、質的と量的調査の基礎的な考え方と位置づけ、それぞれの分析手法を理解する。その上で、調査の全体構成の中で、量的と質的をどのように位置づけていくかについて学ぶ
3 回目	質的調査の実際	質的調査の手順と手法
4 回目	参与観察とは何か 調査の事前準備	参与観察の実例から学ぶ 各自調査の事前準備状況を報告
5 回目	調査論文の実例から学ぶ (学外のゲストスピーカーを呼ぶ予定)	調査論文、報告書の書き方を身につける 特に、観光関係の書籍、論文から、調査の実際について学ぶ
6 回目	各自調査の発表	それぞれが調査結果についてプレゼンテーションを行う
7 回目	まとめー質的調査とは何か	調査の困難な点、問題点について討議をし、解決法を見いだす

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者に座学及び実践を通じてフィールドワークの考え方及び技術を習得してもらうことを目的にするため、事前準備の重要性が極めて重要であることから、授業時間以外に様々な知識や情報を得る努力をしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠藤英樹（編著）（須藤廣が一部著）『フィールドワークの現代思想』ナカニシヤ出版、2022 年。

【参考書】

佐藤郁也（2008）『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社
須藤廣（2008）『観光化する社会—観光社会学の理論と応用』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、レポート 70%

【学生の意見等からの気づき】

学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim to acquire the concept and basic skills of field work (field survey). Basically we focus on qualitative research.

BSP520R1

フィールドワーク演習

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フィールドワークの体験をとおして現代の文化・都市・観光とは何かを学ぶ。観光施設のあり方、その業務について調査し、その問題点について考える。

【到達目標】

消費の特徴と関係創造的な特徴の両面から文化・都市・観光を捉え、それらをよりサステナブルにして行く方法について議論を深める。また、基本的な知的態度を養うためフィールドワークの技法を実践的に学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

8 月に集中して校外授業を行い、その前後に事前準備とまとめを学内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方に関する説明
2	事前準備	学外実習先についての事前調査
3	フィールドワーク	校外学習
4	フィールドワーク	校外学習
5	フィールドワーク	校外学習
6	振り返り	フィールドワーク結果の検討
7	まとめ	結果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【Outline (in English)】

Students will learn about modern culture, cities and tourism through fieldwork experiences and make resuraches at facilities for tourists. Poblems will be made clear in the fieldwork.

ARSI520R1

メディア産業論

増田 弘道

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本を代表するポップカルチャーとなったアニメとはどのようなものであるのかについて正確な認識を持つ。アニメが古くから絵画、物語など日本の伝統文化と深く関わっていることを把握し、国際化する社会の中で日本の産業・文化としてどのように位置づけられるのかについて考える。また未来産業としてのアニメについても言及する。

【到達目標】

アニメについての正確に語れるようになること。日本のみならず、アメリカやその他の諸国、また近年存在感を増している中国などで、アニメがどのような状況になっているのかについて正確に知り、伝えられるようになる。世界の共通言語となりつつあるアニメをコミュニケーションツールとして使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1）映像等を見ながら国内外のアニメーションの歴史やその文化的位置付けを把握する
- 2）アニメ産業の基礎知識（産業構造、収益手段（ウィンドウ）、ディズニーやピクサー他日米主要スタジオ、人材育成、著作権）を得る
- 3）アニメがどのようにつくられていくのかを知る（企画から制作、回収、分配までの工程。プロデューサーの役割など）
- 4）アニメを考える上で有効と思われるその時々トピックを取り上げて解説する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	アニメ概論 introduction ～アニメ概論/アニメーション・アニメの定義	自己紹介、推薦図書、推薦映画とアニメーション・アニメの定義について
2	アニメーションの歴史① before Walt ～	ミッキー・マウス以前のアニメーション、ハリウッドの成り立ちについてなど
3	アニメーションの歴史② ～ after Walt ～アメリカンアニメーションの黄金時代	ミッキー・マウス登場以降出現したアニメーションの黄金時代について述べる
4	アニメーションの歴史③ ～ディズニーの復活、そして CG アニメーションの時代とピクサー	アメリカン・アニメーションの復活、企業としてのディズニー・ピクサーについて
5	アニメーションの歴史④ 日本におけるアニメの成り立ち～そしてアニメの黄金時代	日本のマンガ・アニメ文化が持つ 1,000 年の歴史について研究する。そして、戦後日本のアニメが大発展した理由について
6	マンガ・アニメの大義 イメージパワーが未来を創る/アニメはどのようにして 創られるのか？ 誰が何のために創るのか？ 2 〈ビジネスの視点から見たアニメ〉	日本のマンガ・アニメが持つイメージパワーについて/アニメの生態系 製作と制作と流通・映像は誰のものなのか？ ・製作委員会について・アニメーターは低賃金なのか？
7	アニメをつくる アニメ製作フロー	アニメ制作ではなく製作における企画開発から、制作、流通、分配までのシステムを研究する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像をテーマとした場合、まず対象となる作品を見るのが求められます。同時に付随する関連図書を読むことも非常に有効です。授業でも推薦する映像、図書についての解説を行います、以下の作品、図書を事前、あるいは授業と同時進行でこれらを鑑賞、あるいは読書することが必要です。

[予習・復習映画]

- 1) 『機動警察パトレイバー 2 the Movie』(1993 年 113 分日本)
- ・日本の危機管理を問う押井守の最高傑作
- 2) 『東京ゴッドファーザーズ』(2004 年 92 分日本)
- ・奇才今敏のハート・ウォーミング・クリスマス・ストーリー
- 3) 『ベルセポリス』(2007 年 95 分フランス) ＊アカデミー賞候補
- ・イラン革命の内実を鋭く語る社会派アニメーション
- 4) 『時をかける少女』(2007 年 98 分日本)
- ・女子高生の内面描写に思わず萌える細田守の最高傑作

- 5) 『ブレンダンとケルズの秘密』(2009 年 75 分アイルランド) ＊アカデミー賞候補
- ・アイルランドでつくられたケルト三部作 (Cartoon Saloon 制作)、世界で最も美しい福音本『ケルズの書』を巡る神秘的ストーリー。ジブリが「漫画映画」に見えてしまう芸術性の高い作品
- 6) 『チコとリタ』(2010 年 94 分スペイン/イギリス) ＊アカデミー賞候補
- ・かつて音楽の宝庫だったキューバ革命以前のハバナと NY で繰り広げられるジャズ・ミュージカル。『ブエナビスタソシアルクラブ』という実写映画も併せてみるとよく理解できる。
- 7) 『ソング・オブ・ザ・シー 海のうた』(2014 年アイルランド) ＊アカデミー賞候補
- ・ケルト三部作、羽衣伝説など日本の縄文文化にも通じるケルト的ファンタジー
- 8) 『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』(2016 年 93 分フランス/デンマーク)
- ・行方不明の祖父を捜すため北極点を目指す旅に出た少女の冒険
- 9) 『この世界の片隅に』(2016 年 129 分日本) ＊アカデミー賞候補
- ・『火垂るの墓』と並ぶ不朽の戦争名作アニメーション
- 10) 『KUBO/クボ 二本の弦の秘密』(2016 年 102 分アメリカ) ＊アカデミー賞候補
- ・日本びいきの NIKE 創業者の息子が監督する超絶ハイテク人形アニメーション
- 11) 『生きのびるために』(2017 年 94 分アイルランド) ＊アカデミー賞候補
- ・女性一人の外出が許されないタリバン支配下における惨状を描いた問題作品
- 12) 『幸福路のチー』(2018 年 111 分台湾)
- ・一見ちびまる子風のホームドラマのようにも見える、実は国民党から民進党へと政権移行する台湾現代政治史が実にリアルに描かれている必見作品、実は台湾では李登輝がそれほど評価されていないことが分かる
- 13) 『若おかみは小学生』(2018 年 94 分日本)
- ・小学6年生にして旅館の跡取りとなった少女おっこが、亡くなった両親の霊に見守られながら成長する感動作
- 14) 『犬ヶ島』(2018 年 105 分アメリカ) ＊アカデミー賞候補
- ・ハリウッドに居ながら自分の好きなテーマで映画を撮れる鬼オウエス・アンダーソン、本作では驚くなかれオノ・ヨーコが自身の役柄で声優を務めている
- 15) 『スパイダーマン:スパイダーバース』(2018 年 117 分アメリカ) ＊アカデミー賞受賞
- ・ガンダムの富野由悠季監督をして「ハリウッドで初めての大人向け商業作品」と言わしめたアニメーション。アカデミー賞以下、ピクサーとディズニーが占めていた映画祭のアニメーション賞を独占した
- 16) 『ウルフウォーカー』(2020 年 103 分アイルランド) ＊アカデミー賞候補
- ・ケルト三部作最終章、ジブリ作品が「漫画映画」に見えてしまう深い精神性を持つファンタジー傑作
- 17) 『ソウルフルワールド』(2020 年 101 分アメリカ) ＊アカデミー賞グランプリ
- ・生まれ変わりの霊的な世界観が示されたピクサー最高傑作
- 18) 『漁港の肉子ちゃん』(2021 年 97 分日本)
- ・明石家さんまの企画・プロデュースが作品に対する否定的な要素となった部分があるが、非常に面白い作品。先入観にとらわれず鑑賞して欲しい。
- 19) 『地球外少年少女』(2022 年全編 99 分後編 91 分日本)
- ・『脳筋コイル』で衝撃的な監督デビューを果たした磯光雄の最新作。ジュブナイル作品ではあるが、その奥行きは非常に深いものがある。

[予習・復習映画]

- ①『ディズニー CEO が実践する 10 の原則』(早川書房)
- ②『ウォルト・ディズニー 創造と冒険の生涯 完全復刻版』(講談社)
- ③『ディズニーアニメーション生命を吹き込む魔法 The Illusion of Life』(徳間書店)
- ④『ディズニー・ミュージック～ディズニー映画 音楽の秘密』
- ⑤『スタン・リー:マーベル・ヒーローを創った男』
- ⑥『ジャニーズは努力が 9 割 (新潮新書)』
- ⑦『アニメーターの仕事がわかる本』
- ⑧『漫画映画漂流記 おしどりアニメーター 奥山玲子と小田部羊一』
- ⑨『増補 アニメーターズサバイバルキット』
- ⑩『天才の思考 高畑勲と宮崎駿 (文春新書)』
- ⑪『コンテンツの秘密—はくがジブリで考えたこと』
- ⑫『あの旗を撃て!—『アニメージュ』血風録』
- ⑬『出発点—1979～1996』宮崎駿
- ⑭『大塚康生 作画汗まみれ 改訂最新版』
- ⑮『誰も語らなかったジブリを語ろう』
- ⑯『ピクサー流 創造するちから—小さな可能性から、大きな価値を生み出す方法』
- ⑰『アニメを3D (サンジゲン) 』
- ⑱『映像の原則—ビギナーからプロまでコンテ主義 (キネ旬ムック) 』
- ⑲『アニメを仕事に! トリガー流アニメ制作進行読本』
- ⑳『アニメプロデューサーになろう! アニメ「製作 (ビジネス)」の仕組み (星海社新書) 』
- ㉑『すごい! アニメの音づくりの現場』
- ㉒『アニメーションの色職人』
- ㉓『作曲家・渡辺岳夫の肖像 ハイジ、ガンダムの音楽を作った男』
- ㉔『大塚明夫/「声優魂」 「声優塾」』
- ㉕『関智一 声優に死す 後悔しない声優の目指し方』
- ㉖『2.5 次元舞台—ようこそミュージカル『テニスの王子様』から『刀剣乱舞』へ (星海社新書) 』
- ㉗『「ゴールをぶっ壊せ - 夢の向こう側までたどり着く技術 (中公新書ラクレ) 』
- ㉘『前田建設ファンタジー営業部』
- ㉙『「機動戦士ガンダム」の巨大基地をつくる! 』
- ㉚『TYPE-MOON の軌跡 (星海社新書) 』

- 31『小説家になって億を稼ごう』
32『作家の収支(幻冬舎新書)』
33『小池一夫のキャラクター進化論(1) 漫画原作マル秘の書き方 << まんげん・ビ!>>』
34『山本七平の日本資本主義の精神』

【テキスト(教科書)】

- 全て Amazon の kindle で発売。
1)『アニメビジネス叢書①アニメ産業論～定義と歴史 2021』Kindle 版
2)『アニメビジネス叢書② 2021 アニメ産業 生態系論 製作と制作と流通/アニメ製作論/制作工程論/デジタル化論/製作委員会論/労働環境論/アニメに携わる仕事』Kindle 版
3)『アニメビジネス叢書③ 2021 アニメ産業論 アニメ産業統計による産業構造把握/テレビアニメ/劇場アニメ/ビデオ/商品化/遊興/音楽/ライブエンタテインメント/海外/日本のアニメは空洞化しているのか/日本のアニメが海外で売れた三つの理由』Kindle 版
4)『アニメビジネス叢書④手塚治虫論評集「手塚治虫世界遺産論」「マンガ・アニメの“神様” 手塚治虫はどのようにして生まれたのか」』Kindle 版

【参考書】

- ①『ディズニー CEO が実践する 10 の原則』(早川書房)
②『ウォルト・ディズニー 創造と冒険の生涯 完全復刻版』(講談社)
③『ディズニーアニメーション生命を吹き込む魔法 The Illusion of Life』(徳間書店)
④『ディズニー・ミュージック～ディズニー映画 音楽の秘密』
⑤『スタン・リー:マーベル・ヒーローを創った男』
⑥『ジャーニーズは努力が 9 割 (新潮新書)』
⑦『アニメーターの仕事がわかる本』
⑧『漫画映画漂流記 おしどりアニメーター 奥山玲子と小田部羊一』
⑨『増補 アニメーターズサバイバルキット』
⑩『天才の思考 高畑勲と宮崎駿(文春新書)』
⑪『コンテンツの秘密—はくがジブリで考えたこと』
⑫『あの旗を撃て!—『アニメージュ』血風録』
⑬『出発点—1979～1996』宮崎駿
⑭『大塚康生 作画汗まみれ 改訂最新版』
⑮『誰も語らなかったジブリを語ろう』
⑯『ピクサー流 創造するちから—小さな可能性から、大きな価値を生み出す方法』
⑰『アニメを 3 D (サンジゲン) に』
⑱『映像の原則—ピグナーからプロまでコンテ主義(キネ旬ムック)』
⑲『アニメを仕事に! トリガー流アニメ制作進行読本』
⑳『アニメプロデューサーになろう! アニメ「製作(ビジネス)」の仕組み(星海社新書)』
㉑『すごい!アニメの音づくりの現場』
㉒『アニメーションの色職人』
㉓『作曲家・渡辺岳夫の肖像 ハイジ、ガンダムの音楽を作った男』
㉔『大塚明夫「声優魂」「声優塾』
㉕『関智一 声優に死す 後悔しない声優の目指し方』
㉖『2.5 次元舞台へようこそミュージカル『テニスの王子様』から『刀剣乱舞』へ(星海社新書)』
㉗『ゴールをぶっ壊せ-夢の向こう側までたどり着く技術(中公新書ラクレ)』
㉘『前田建設ファンタジー営業部』
㉙『「機動戦士ガンダム」の巨大基地をつくる!』
㉚『TYPE-MOON の軌跡(星海社新書)』
31『小説家になって億を稼ごう』
32『作家の収支(幻冬舎新書)』
33『小池一夫のキャラクター進化論(1) 漫画原作マル秘の書き方 << まんげん・ビ!>>』
34『山本七平の日本資本主義の精神』

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート(3～4 回を想定) 50 %

【学生の意見等からの気づき】

1 年毎の講座のため前回は一昨年になりますが、初のオンライン授業で操作などにも慣れていなかったため予習がなかったようで、受講生との対話も少なかった。今回は受講生の話や意見を授業に組み入れるよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要な機器 (PC 等)、環境 (wifi 等)。

【Outline (in English)】

Anime has become Japan's leading pop culture, so we have an accurate understanding of it in this class. We have to understand that anime has been deeply related to Japanese traditional culture such as paintings and stories since ancient times, and to consider how it is positioned as a Japanese industry and culture in an internationalized society. We also mentions animation as a future industry.

ARSI520R1

イベント・フェスティバル論

山中 聡

科目分類：プログラム科目(選択) | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

音楽や映画などポップ・カルチャー・コンテンツを使ったイベント・フェスティバルを時間軸を追って学び、それらを使った企画で少子化、地域活性化など SDGs をテーマとした独自性のあるイベント・フェスティバルをプランニングしマネジメントを学ぶ。
パンデミックで一気に発展したオンデマンドやサブスクリプション・ビジネスなど新たなマーケットとメディアの現状と今後を考え、集客目的のプロモーションやイベント関連の収益事業を考え、行政や企業との関わりなども視野に入れて具体的な提案を試みる。また、パンデミックの収束後も踏まえつつ、インバウンド・ビジネスも視野に入れ、海外観光客向けの日本の文化コンテンツを使った街作りや持続可能な集客イベントをプランニングする。

【到達目標】

授業の到達目標は自らイベント、フェスティバルを企画、運営するためのマネジメントにおける基礎知識を習得する事です。また、事例を持って日本や世界のポップ・カルチャー史を学ぶことから世代を超えたグローバルなポップ・カルチャー・マーケットを把握し、彼らを集客するイベント・フェスティバル創りへつなげます。
創造的な企画力と実行へのマネジメントを学ぶことでスキルアップをはかります。
パンデミックで加速したオンデマンド、サブスクリプションが世界を凌駕したエンタメ界を認識し、今後の世界と日本のマーケットを分析することでマーケティングに生かす。進化する SNS など新たなコミュニケーション・ツールを含めたメディア・プロモーションを知り、有効なメディア・ミックスを模索する。コロナ禍での現状も踏まえて、リアルとバーチャル、新たな時代のイベント・フェスティバル企画を作るノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業毎にテキストを用意し、授業内で共有しながら進めます。個々の質問や全員での意見交換も大切にします。各授業内に簡易な課題もあり、最終的には課題レポートを課し評価します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	音楽、その時代背景と昨今ロックフェスや映画祭など多様化した様々な文化系イベントを学ぶ。	ウッドストックからフジロックなど時代とともに進化していく、自然共存型や都市型の様々なフェスや文化コンテンツによるイベントを検証する。
2	マーケティングとプロモーション。	メディアの現在、過去、未来を俯瞰しつつ、イベント・フェスティバルでの有効なメディアの使い方を考察する。
3	イベントにおけるマネジメントを俯瞰する。	イベント目的に応じた企画、制作と著作権やマーチャンダイジングなど具体的な現場でのマネジメントを学ぶ。
4	少子高齢化や過疎化など SDGs を念頭にこれからのイベントを考える。	少子化と高齢化、過疎化の進む日本での今後のイベントのあり方とテーマ。海外観光客によるインバウンドによる地域創生、活性化させる具体論を検証し考える。
5	音楽、映画、文学、ファッションなどポップ・カルチャーをテーマにしたイベント考察。	1970 年代、1980 年代など世代共有による横軸と音楽や映画などポップ・カルチャーの共有による縦軸をテーマにイベントを創る。
6	パブリックな意図を持った行政との連携による公園や街中でのイベント、フェスティバル考察。	地球温暖化や防災などを視野に入れた、代々木公園や上野公園、街中などでの都市型野外イベント・フェスティバルを企画する。
7	イベント、フェスティバル論総括。	様々の目的を明確にした、イベント、フェスティバルを自らプロデュースしたら。講義で得たノウハウを具体化し、プランニングする。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各授業に用意するテキストを復習しながら、課題があった場合は提出を指示します。

【テキスト（教科書）】

毎回のテキストは授業内で配布します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

各授業内での課題内容：40%

授業終了時に課すレポートの内容：60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

We learn about events and festivals using pop culture content such as music and movies on a time-by-time track, and plan and manage unique events and festivals on the theme of SDGs such as declining birthrate and regional revitalization through planning using them. Considering the current and future of new markets and media such as on-demand and subscription businesses that have developed rapidly due to the pandemic, we will consider promotions for attracting customers and event-related profit businesses, and try to make concrete proposals with a view to relationships with the government and companies. In addition, taking into account the conclusion of the pandemic, we will plan urban development and sustainable customer attraction events using Japanese cultural content for overseas tourists with a view to inbound business.

TRS520R1

観光マーケティング論

青木 洋高

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「観光」は不況、人口減少、高齢化など厳しい環境下におかれた我が国にとっての救世主として注目されている領域である。とりわけ疲弊した地方都市の「活性化」という側面ではその期待も大きい。

一方で、旅行者のニーズは多様化し、さらにインターネットの普及で旅行者個人による情報収集や手配が可能になり旧来の旅行代理店の優位性が崩れつつあるほか、地域の実態に即した「持続可能な観光」形態が求められてきたことなど、時代の変化による様々な要因を背景にその観光スタイルも変化しつつある。これら多種多様な旅行者のニーズを的確に捉え、旅行者の満足最大化し、「持続可能な観光」を維持、発展させるためには「マーケティング」の発想が欠かせない。この授業では、「マーケティング」についての基礎的な理論を把握したうえで、観光産業における具体的な事例を交えながら、そのプロセスを学習していく。

成長産業と位置付けられていた「観光」も、このコロナ禍において、そのポジショニングがあらためて見直されている。「新たな日常」のなかで「観光」がどのように変容をしていくのか、という視点を織り交ぜていきたい。

【到達目標】

観光マーケティングの基礎的な理論を習得し、その役割や重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

観光マーケティングの理論を考察する。観光産業における具体的な事例を積極的に紹介し、ケーススタディを交えながら進めていく。共通テーマでのディスカッションなどを取り入れた双方向な授業を目指す。

講義のなかで複数回、実務者のゲスト講師を迎えて講義・討議を行う（詳細は初回講義時に説明。そのため授業計画の順序は変更になる場合がある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	ガイダンス、授業の進め方	観光マーケティングとは何か、観光の「いま」を知る。
3-4	デスティネーションにおけるマーケティング戦略①	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。
5-6	航空会社におけるマーケティング戦略	激動の航空業界の現況を理解する。LCCとFSA、プライシング戦略など。
7-8	鉄道会社におけるマーケティング戦略	観光需要の創造、地域振興に対する鉄道会社の取り組みを把握する。
9-10	旅行会社におけるマーケティング戦略	旅行会社のプロモーション戦略、旅行商品の流通、これからの旅行業界の姿などを学ぶ。
11-12	宿泊施設におけるマーケティング戦略	多様化するホテル、旅館業界について学ぶ。宿泊施設の収益モデル、外資系ホテルの参入など。
13-14	デスティネーションにおけるマーケティング戦略②	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り扱った内容を各自の研究テーマとリンクさせながら復習し、次の講義に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

講義の中で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%。

【学生の意見等からの気づき】

各回の冒頭で理解の確認を図るための振り返りの時間を確保したい。

【Outline (in English)】

“Tourism” is a field currently gaining a significant attention as a savior of Japan in the tough environments such as economic depression, population decline, and aging. In particular, it has particularly large expectations for the aspect of “Revitalization” in exhausted local cities. On the other hand, needs of tourists become diversified and traditional travel agencies have been losing their advantageous grounds due to information collection and travel arrangement by each individual tourist himself through the wide spread of the Internet while the tourism style itself has also been changing on the background of various factors with the change of the times such as requiring a form of “Sustainable tourism” in harmony with actual local conditions. It will absolutely need a concept or idea of “Marketing” when accurately comprehending a large variety of tourist needs, maximizing the tourist satisfaction, and then developing “Sustainable tourism”. In this class, on the basis of understanding the basic theory of “Marketing”, you will learn the process of tourism industry by examining particular cases in the industry. “Tourism” once positioned as a growing industry, has been re-positioned in the current Covid-19 epidemic. I like to incorporate how “sightseeing” will shift in the “new daily routines”.

TRS520R2

観光とメディア

松本 健太郎

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目標は、デジタル革命によって観光とメディアの関係性をめぐる文脈がいかに変わりつつあるのかを理解することにある。

【到達目標】

デジタル革命によって、観光をとりまく社会的環境は変わりつつある。本講義ではコミュニケーション研究やメディア研究の基礎的な考え方を理解したうえで、モバイルメディア、広告、テーマパーク、デジタルゲームなどを題材に、観光とメディアをめぐる現代的な関係性を理解していくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	観光における「メディア」と「コミュニケーション」	星野道夫の『旅をする木』を題材に
第2回	観光メディア論①	「バックミラー」のなかのバーチャル観光
第3回	観光メディア論②	アテンションエコノミー時代の広告
第4回	観光メディア論③	位置情報ゲームから考えるリアルとバーチャルのあわい
第5回	観光コミュニケーション論①	監視資本主義におけるビジネスモデル
第6回	観光コミュニケーション論②	文化とコンテンツのトランスナショナルコミュニケーション
第7回	観光コミュニケーション論③	サンリオピューロランドと都市空間のテーマパーク化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業の復習

【テキスト（教科書）】

『よくわかる観光コミュニケーション論』須藤廣・遠藤英樹・高岡文章・松本健太郎編、ミネルヴァ書房、2022年

【参考書】

『デジタル記号論』松本健太郎、新曜社、2019年

『メディアコミュニケーション学講義』松本健太郎・塙幸枝、ナカニシヤ出版、2019年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The goal of this class is to understand how the digital revolution is changing the context of the relationship between tourism and media.

MAN520R1

地域経営戦略論

橋本 正洋

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方経済再生に必要な取り組みを経済産業政策、企業経営戦略などの側面から多面的に考え、その内容を実務（政策立案・運営、企業戦略など）に活かすことを目指す。

【到達目標】

具体的に、日本経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地域経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は、実際の経済活動の中で関心のある事象を選び、地方経済再生との関係に基づいて分析を行い、発表を行う。また、グループディスカッションを行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。実際の内容については、受講者の人数や希望に応じてフレキシブルに対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン / online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	受講者の関心などを確認し、どのような観点か地方創生などに関する取り組みを議論すべきか、ディスカッションを行う。
第 2 回	地域経営と政策	教員またはゲスト講師からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策（マクロ、地方振興策など）の方向性、特徴を確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解する。
第 3 回	地域経営戦略のケーススタディ①	受講生のプレゼンテーションを基に、比較的成功していると考えられる地方創生のケーススタディを行う。その上で、グループディスカッションを行い、企業経営や地方自治体の採井に必要な取り組みなどを議論する。
第 4 回	地域経営戦略のケーススタディ②	受講生のプレゼンテーションを通して、企業経営に焦点を当て、地方に本拠地を置く企業がどのような状況にあるか、その中でどのような産業、企業が競争力を発揮していると考えられるかを確認する。また、グループディスカッションを行う。

第 5 回 地域経営戦略のケーススタディ③

受講生のプレゼンテーションより、近年わが国の地方経済に無視できない影響を与えている観光ビジネスの動向を理解する。さらに、グループディスカッションを行い、どのような取り組みが必要か、理解を深める。

第 6 回 地域経営戦略のケーススタディ④

受講生のプレゼンテーションを基に、経済政策の視点から、どのような政策プログラムが地方経営に必要なと考えられるか、グループディスカッションを行う。

第 7 回 まとめ

一連の講義を通して、地域地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地域経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発表・ディスカッションへの参加等）（おおむね 50 %）、プレゼンテーション（おおむね 50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション、グループディスカッションへの積極的な参加が重要

【その他の重要事項】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【Outline (in English)】

This lecture will consider the efforts necessary for local economic revitalization from the aspects of economic and industrial policy, corporate management strategy, etc., and utilize the contents in practice (policy planning / management, corporate strategy, etc.).
aim.

ARSI520R1

地域イノベーション論

橋本 正洋

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業において起こるイノベーションは、企業における各国の環境（ナショナルイノベーションシステム）に強く影響を受ける。これは、国によって異なる法制度、税制、知財制度や金融、支援組織などの成り立ちによる。地域でイノベーションを起こすためには、国レベルと地域レベルで適切なイノベーション政策を構築していく必要がある。本講義では、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策のうち重要なものを取り上げ、それらの歴史的背景と現在の課題について検討する。これに基づき、地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察する

【到達目標】

イノベーションとは何かを踏まえ、日本のイノベーション政策の大きな流れ、特に構造改革型政策を理解し、地域イノベーションとの関係を認識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

イノベーション創生のモデルを踏まえ、関係するイノベーション政策について概観したうえで、グループワークにより個別の政策、システムについて検討し、グループ及び全体で討議することにより本質的な理解を得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的、進め方について説明し、イノベーションに関する基本的概念とモデルを説明する。
2	イノベーション政策概観	日本のイノベーション政策を概観し、重要な事項について解説する。グループ分けを行い課題を選択する。
3	イノベーション政策 1	科学技術基本法制定、総合科学技術・イノベーション会議設置と日本のイノベーション政策
4	イノベーション政策 2	大学等技術移転促進法制定（TLO法）、99 年：産業活力再生特別措置法制定（日本版バドール）と大学技術移転、大学発ベンチャー
5	イノベーション政策 3	国立大学法人化・大学改革
6	イノベーション政策 4	産業クラスター・地域イノベーション政策
7	イノベーション政策 5	省庁再編・独法改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている産業経済活動や政策について関心を高め、それが国全体及び地方の産業社会と、どのような関係にあるかを常に考えることが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

講義の際に適宜資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループディスカッション、講義への貢献（およそ 50 %）及び最終課題（およそ 50 %）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度新規担当者につきなし。なお毎回講義後にアンケートによりフィードバックを行い、講義の内容を調整する。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。経済産業省における実経験とそのネットワークにより内容を構成します。

【Outline (in English)】

Innovation that occurs in a company is strongly influenced by the environment of each country (National Innovation System) in the company. This is due to the establishment of legal systems, tax systems, intellectual property systems, finance, and support organizations that differ from country to country. In order to bring about innovation in the region, it is necessary to establish appropriate innovation policies at the national and regional levels. In this lecture, we will take up important national and regional innovation policies necessary for regional economic revitalization strategies, and examine their historical background and current issues. Based on this, we will consider the ideal way of regional industrial policy to create regional innovation and the strategic theory for regional economic revitalization.

MAN520R1

非営利組織特論

今瀬 政司

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会貢献を第一に考え、公益活動あるいはビジネス・経済活動を行う「民間非営利組織」を理論的かつ実践的に学ぶ。民間非営利組織には、狭義の非営利組織（NPO法人、市民公益活動団体等）と広義の非営利組織（公益法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、生活協同組合、農協等）がある。「社会貢献とビジネスを両立する働き方」を目指して、NPO 法人や一般・公益社団法人などで就職や起業する人も増えている。こうした民間非営利組織について、全国各地の多数の具体的な事例も交えて理解するとともに、民間非営利組織を具体的に設立や運営を行うための実践的ノウハウも学ぶ。NPO と行政、企業等の協働事業や地域づくり、ならびに地縁型非営利組織による新たな地域自治システムについても学ぶ。

【到達目標】

民間非営利組織について、「非営利」の概念・特徴、企業や行政では担えない社会的存在意義、活動や政策の歴史的な経緯、現場の実態や課題などを理解すると共に、その公益・公共性の高い社会的役割と、ベンチャー以上のベンチャーとしてソーシャルビジネスや新たな産業・市場を創出する経済的役割を理論的かつ実践的に理解する。また、民間非営利組織を具体的に設立して運営を行ったり、政策的な対応などを行う上での実践的な知識・ノウハウを身につけ、自らの考え方を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員資料や参考書等を使いながら知識・ノウハウを学ぶ講義を進めるとともに、受講者の問題意識、研究テーマ、日々の取組みに関連した内容も取り上げながら、質疑応答や自由なディスカッション等にもできる限り時間をかける。実践的な学習に重点を置いて、具体的な団体・活動事例や日々の社会的な出来事も積極的に話題として取り上げ、現場の民間非営利組織や行政・企業等の視点からそれらの本質について討論する機会も設ける。特に、担当教員が実際に様々な非営利組織の活動に携わった事例、あるいは調査研究で関わった事例を主に取り上げることで、リアリティを持って理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと非営利組織の概論	受講者の問題意識・研究テーマ等の確認と授業の進め方などの説明を行う。その上で民間非営利組織の概論を学ぶ。
2	非営利組織の特徴と活動史・政策史	非営利組織の組織・運営形態、特徴、企業や行政では担えない社会的存在意義などを学ぶ。1980 年代後半から市民が切り拓いてきた狭義の非営利組織（NPO）の活動と政策の歴史を学ぶ。
3	狭義と広義の非営利組織	狭義の非営利組織（NPO法人、市民公益活動団体等）と広義の非営利組織（公益法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、生活協同組合、農協等）のそれぞれについて学ぶ。
4	公益と経済の担い手としての非営利組織	公益・公共概念の変化を踏まえた上で、狭義の非営利組織の「公益の担い手」としての社会的役割と実態・課題を学ぶ。また、「経済主体」としてソーシャルビジネスや新たな産業・市場を創出する役割と実態・課題を学ぶ。
5	NPO法人の概要と設立・運営ノウハウ	NPO法人（特定非営利活動法人）について、その組織運営形態、設立要件、法人化の長所・短所などを学ぶ。また、NPO法人を具体的に設立し運営するための必要書類や手続き等のノウハウを学ぶ。
6	協働による地域づくりと社会的課題の解決	NPOと行政の協働事業の概念と実態・課題について、従来型の地域づくり等との違いを踏まえながら学ぶ。また、NPOと企業の協働事業、企業のCSR、SDGs などの実態と課題を学ぶ。

7 地縁型非営利組織による地域自治システム

市町村合併の影響や地域自治組織・システムの再編などに伴って変わる住民自治と、「地縁型非営利組織」としての住民組織・地域自治組織やその関連政策の実態と課題を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業テーマに関する予習をしておき（各回 1 時間程度）、事後に授業での学びを整理して考察すること（各回 3 時間程度）。学んだことを実社会での出来事と照らし合わせるとともに、そこから自らの疑問や興味に応じて様々な手段で学びを深めて、自らの考え方を構築していくこと。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

今瀬政司（2011）『地域主権時代の新しい公共 希望を拓くNPOと自治・協働改革』学芸出版社（事前に読むことをお勧めします）

テーマに関連した参考文献や実践的な活動情報等を必要に応じて授業中に紹介する。

担当教員（今瀬）の Web 公開論文等も必要に応じて紹介する。

http://sicnp.jp/imase_profile.html

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 70 %、平常点 30 %

理解力・探究力・活用力・表現力等で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員資料や参考書等をより有効に活用しながら、質疑応答や自由な討論等にもできる限り時間をかけながら授業を進める。また、受講者のニーズに応じて、知識・ノウハウの理解と共に、より実践的な学習にも重点をおいて進める。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」担当教員（今瀬）は、シンクタンク企業や民間非営利組織 10 団体以上に所属して、様々な実践活動や国・自治体の政策形成にも携わってきていることから、その具体的な実務経験を紹介することで、リアリティを持って実践イメージを持てるようにする。

今瀬政司の実務実績・研究実績のホームページ

http://sicnp.jp/imase_profile.html

【Outline (in English)】

An increasing number of people are finding employment or starting a business in a private non-profit organization with the aim of "a work style that balances social contribution and business." In this class, you will learn theoretically and practically "private non-profit organizations" that carry out public interest activities or business / economic activities. Private non-profit organizations include non-profit organizations in a narrow sense (civil activity groups, etc.) and non-profit organizations in a broad sense (public interest corporations, etc.).

Learn about private non-profit organizations with a number of concrete examples:

(1)Organization / operation form and characteristics, (2)Social significance that cannot be done by companies or governments, (3)Historical history of activities and policies, (4)Actual conditions and issues in the field, (5)Practical know-how to specifically establish a private non-profit organization, (6)Collaboration business by NPO and government / company, community development, (7)A new regional autonomy system by a non-profit organization based on the territory.

Prepare for the lesson theme in advance (about 1 hour each time), and organize and consider what you learned in the lesson after the fact (about 3 hours each time). While comparing what you have learned with events in the real world, you will deepen your learning by various means according to your own doubts and interests, and build your own way of thinking.

Grades are 70% for report assignments and 30% for normal scores. Evaluation is based on comprehension, inquiry, utilization, and expressiveness.

MAN520R1

商店街活性化論

井上 善海

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人口減少、大型店の郊外進出、コンビニの出現・増加、ネット通販の拡大等、商店街を取り巻く経営環境は、それぞれの時代において大きく変化してきました。それに対し、政府は各種の中心市街地政策や商店街政策を講じてきましたが、これらの政策が目に見える効果を上げてきたかどうかは議論が分かれるところです。

本講義では、商店街が今後も地域コミュニティの担い手として期待される役割を発揮していくためには、どのような政策や取り組みが必要かについて考察していきます。

【到達目標】

- ①地域経済における商店街の役割について説明できる。
- ②ショッピングセンター等の商業集積とは異なった商店街の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、存続・成長を続けていくための商店街活性化策について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料をもとに進めます。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	流通革命と中小小売業	消費者サイドが市場を定義する主役となる第三次流通革命の進展と中小小売業の対応について。
2	商店街の現状と歴史	小売立地の構造的変化と商店街の衰退、規制緩和と競争激化、業種から業態への変化、ネットワーク化への対応といった中小小売業の経営危機について。
3	商業集積としての商店街	自然発生的な日本の商店街と計画形成的な米国発祥のショッピングセンターとの経営特性の違いについて。
4	地域経済における商店街の役割	地域コミュニティの核となる商店街の果たすべき社会的、公共的役割の向上を通じて、商店街に賑わいを創出し活性化を図ることについて。
5	商店街活性化政策① 「商店街活性化計画」	商店街のもつ限られた経営資源を効率良く活用するための「商店街活性化計画」について。
6	商店街活性化政策② 「空き店舗対策・個店の魅力アップ」	商店街は個店の集積であり、魅力ある個店が増えることで商店街が活性化することについて。
7	商店街活性化政策③ 「後継者育成」	若手・後継者などの内部人材を商店街の新たな担い手として発掘・育成することについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での平常点（講義内での発言・貢献度）40%、講義内で課す課題レポート60%により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The business environment surrounding shopping districts has changed dramatically in each era, such as population decrease, the expansion of large stores in the suburbs, the appearance and increase of convenience stores, and the expansion of online mail order. On the other hand, the government has taken various central city policies and shopping street policies, but it is a matter of argument whether these policies have made visible effects. In this lecture, we will consider what policies and initiatives are necessary for the shopping district to continue to demonstrate the role expected as a carrier of the local community.

MAN520R1

新産業創出論

井上 善海

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：経済・社会・雇用／

群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第4次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。第4次産業革命は、大企業だけでなく中小企業や地域経済へも大きな影響を与えています。

本講義では、第4次産業革命に対応した地域経済の発展と中小企業に焦点を当て、地域の産業資源を最大限に活用した新産業創出のあり方やそれを支援する政策について考察を行います。

【到達目標】

- ①第4次産業革命の地域経済や中小企業への影響について説明できる。
- ②新産業創出の外発的、内発的な政策について説明できる。
- ③新産業創出のための支援機関や自治体の独自政策の必要性について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

5回の授業は、外部からゲスト講師を招いて、多角的な視点から新産業の創出について考察を行います。また、授業の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、授業内容に関する質問は、授業中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第4次産業革命と新産業創出	第4次産業革命が新産業創出に及ぼす影響について。
2	多様なイノベーションの組み合わせによる新産業創出	宇宙産業と中小製造業のイノベーションについて。 【ゲスト講師：元大手電機メーカー経営企画担当】
3	オープンイノベーションによる新産業創出	イノベーションを加速化するためのオープンイノベーションシステムについて。 【ゲスト講師：大手飲料メーカー R&D 担当】
4	新産業創出支援機関の役割	中小機構の新事業創出支援の役割、商工会議所のビジネスサポートデスクの役割、事例 【ゲスト講師：中小機構チーフアドバイザー】
5	新産業創出と知的財産権	迅速かつ柔軟な新産業創出を可能とする知的財産戦略について。 【ゲスト講師：特許事務所長・弁理士】
6	IT投資による新産業創出	新産業創出におけるIT投資の重要性について。 【ゲスト講師：元マイクロソフト IT 担当】
7	産学連携による新産業創出	大学研究室と地域企業との連携による様々な製品開発や実用化研究について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での平常点（講義内での発言・貢献度）40%、講義内で課す課題レポート60%により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The 4th industrial revolution where new industries are born by IoT, big data, artificial intelligence (AI), technological innovation typified by robot is progressing with unexpected speed and impact. The Fourth Industrial Revolution has great influence not only on large enterprises but also on SMEs and regional economies. In this lecture, we focus on the development of regional economies that respond to the Fourth Industrial Revolution and focus on small and medium enterprises and consider how to create new industries that maximally utilize local industrial resources and policies that support them.

MAN520R1

イノベーション・マネジメント論

田中 克昌

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションは、企業経営にとどまらず、行政等の政策にも幅広く求められています。ただし、イノベーションが何であるか、さらに、それを実現するため、どのようなマネジメントが求められるのか、についての探求は尽きることがありません。本授業の目的は、イノベーションを「マネジメント」するという重要かつ、本来的に実現の困難なテーマについて学修し、考察することにあります。

【到達目標】

・イノベーションに関する多様な理論について習得し、活用できるようになる。
・大企業や中小企業等、イノベーション・マネジメントに関する幅広い事例を通じた学修により、自らの研究及び実務に応用し活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はテキストと講師が提供する資料をもとに行います。授業で学修した内容の定着と実践的な活用を図るため、グループディスカッション等により実践的に考察を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イノベーション・マネジメントとは	イノベーションに関する多様な研究者の理論について学修し、イノベーションとは何か、そのマネジメントとはどういうことなのか、について考察します。
2	第4次産業革命とイノベーション	産業界では DX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組みが活発になっています。製造業での IoT（Internet of Things）への取り組み等を中心に、イノベーションの視点から考察します。
3	オープン・イノベーションの進展とマネジメント	多様な企業が事業成長を目指し、オープン・イノベーションに取り組んでいます。授業では、その前提となるネットワーク効果やプラットフォームについて学修した上で、成長市場における企業の事例から、オープン・イノベーションの進展と、企業に求められるマネジメントについて考察します。
4	中小企業のイノベーション・マネジメント	中小企業はどのようにイノベーションに取り組むのでしょうか。中小製造業での取り組みを中心に、自社製品の創出により、下請体質からの脱却を図るイノベーションへの取り組みについて考察します。
5	既存企業に求められるイノベーション・マネジメント	既存企業は、現業の発展により事業成長を目指します。デジタル化の進展で、ユーザーが自らイノベーションを起こすようになり、多様な視点から競争優位性を確保する必要が生じています。この授業では、既存企業が競争優位を確保し、生存し続けるためのイノベーション・マネジメントについて考察します。
6	SDGs とイノベーション	SDGs の実現には、企業や行政を含むマルチセクターで取り組む必要があります。この授業では、セクターの境界を越え、相互に強みを持ち寄り、複雑かつ混沌とする社会課題の解決を目指すコレクティブ・インパクトというアプローチをもとに、イノベーションについて考察します。

7 ダイバーシティとイノベーション

COVID-19 を受けたネクストノーマルの到来や、デジタル化の進展は、今後、どのようなイノベーションをもたらすでしょうか。この授業では、「今後」求められるイノベーション・マネジメントについて考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の前後に、4 時間ほどかけて授業内容を理解することを目安とします。

【テキスト（教科書）】

田中克昌『戦略的イノベーション・マネジメント』中央経済社（2700 円＋税）。授業内容によっては、講師が資料を用意します。

【参考書】

適宜、授業の中で提示します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の総合的な成績は、以下の項目に基づいて決定します。期末レポート 40%、ショートレポート：30%、平常点 30%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

本授業は対面形式を予定しておりますが、COVID-19 の感染状況によってはオンライン授業となることも想定しています。その際には、各自 PC 環境を用意ください。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業：担当教員は約 20 年にわたる大手電機メーカー勤務経験を有し、経営戦略の策定と実行にも携わった経験がある。また、博士学位（経営学）とともに、経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士としても活動している。これらの経験を活かし、理論と実践を融合した観点からイノベーション・マネジメントについて学修機会を提供できる。

【Outline (in English)】

Innovation is required not only in corporate management but also in a wide range of government policies. However, there is a never-ending quest to understand what innovation is and what kind of management is required to realize it. The purpose of this course is to learn and reflect on the important and inherently challenging subject of "managing" innovation.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%

MAN520R1

経営戦略論

井上 善海

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経営戦略に関するこれまでの論点と研究成果を体系的に提示するとともに、その理論的枠組みを考察していくことをねらいとしています。このため、経営戦略の中でも事業戦略に焦点を当て、その策定・実行・評価のプロセスに従い、戦略の基礎理論とケーススタディを組み合わせ講義を進めます。これにより、伝統的理論からどのようにして現代の新しい戦略論が抽出・形成されてきたのかを理解していただきます。

【到達目標】

- ①経営戦略論の史の変遷を説明できる。
- ②経営戦略の策定・実行・評価のプロセスを説明できる。
- ③経営戦略の理論を实践（ケーススタディ）で検証できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営戦略とは ミッション	企業経営における経営戦略の役割と企業活動レベルごとの戦略の広がりについて。ミッションの明確化が戦略策定の最初の段階に位置付けられ、最も重要な戦略要素となることについて。
2	ドメイン 環境・資源分析	ドメインにコア・コンピタンスの考え方が深くかかわっていることについて。経営環境と経営資源をマトリックスで分析することについて。
3	成長ベクトル 多角化	製品と市場の組み合わせにより、企業の成長戦略を 4 つに分類できることについて。成長戦略のなかでもリスクの高い多角化について。
4	製品ポートフォリオ・マネジメント	2 次元マトリックスによる複数の事業や製品に対する資源配分決定について。
5	成長戦略の展開 業界の構造分析 競争の基本戦略	グローバル戦略、戦略提携について。5 つの競争要因分析について。競争の基本戦略の役割と競争地位ごとに採用する戦略の違いについて。
6	バリューチェーン 競争戦略の展開	バリューチェーンの構成とコーペティション戦略について。タイムベース戦略、デファクトスタンダード戦略、ブルーオーシャン戦略について。
7	経営戦略の実行と評価	戦略は計画的に策定され、創発的に形成されなければならないことについて。戦略評価について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上・大杉・森（2022）『経営戦略入門』中央経済社（2,200 円）

【参考書】

井上善海・佐久間信夫編（2008）『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房（2,500 円）
 その他、各回の講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（40%）、講義内で課す課題レポート（60%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

This lecture aims to systematically present past issues and research results on management strategy and to examine its theoretical framework. For this reason, we will focus on business strategy among management strategies, and pursue a lecture that combines the basic theory of strategy and case study according to the process of formulation, execution and evaluation. By doing this, you understand how the modern new strategy theory has been extracted and formed from traditional theory.

MAN520R1

ESG 投資と企業経営

小方 信幸

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、ESG 投資家と企業経営者が建設的な対話を行うことにより、企業は持続可能な成長を実現し、投資家は長期投資で高いリターンを実現することを理解する。その結果、社会の持続可能性が高まる仕組みを理解する。

【到達目標】

- (1) 投資の意思決定の際に、環境（Environment, E）、社会（Social, S）、ガバナンス（Governance, G）の3つの非財務要因（ESG 要因）を考慮する ESG 投資と、ESG 投資市場について理解できる。
- (2) ESG 投資が生まれた歴史的背景を理解できる。
- (3) ESG 投資家と企業経営者が ESG 要因について建設的な対話を行うことにより、持続可能な社会を実現できる論理を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では理論と事例についての講義を行い、後半では講義の内容に沿った内容でグループ討議と全体討議を行う。講義とグループ討議を通じ、ESG 投資と企業経営の関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) 講義の進め方 (2) 講義：ESG 投資の概要と歴史 (3) 欧米と日本の ESG 投資市場の概要
2	ESG 投資家の企業評価のポイント	(1) 企業評価の基礎 (2) 証券投資理論の基礎
3	ESG 投資市場におけるアセットオーナーの役割	(1) 講義：欧米と日本の年金基金の比較 (2) ケース：わが国の年金基金の課題
4	ESG 投資市場にけるアセットマネジャーの役割	ESG 投資を行うアセットマネジャーの具体的な取り組みを学ぶ
5	統合報告書	ESG 投資家と企業経営の建設的対話のツールである統合報告書について学ぶ
6	ESG 投資家によるエンゲージメント	欧米と日本の ESG 投資によるエンゲージメントの実例
7	インパクト投資	社会的インパクトの評価方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 配布資料を事前に読んで、授業で発言できるよう準備する。
 - (2) 授業を振り返り、論点を整理する。
- 本授業の準備学習および復習の時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

小方信幸（2016）『社会的責任投資の投資哲学とパフォーマンスー ESG 投資の本質を歴史からたどるー』同文館出版

アムンディ・ジャパン（2021）『社会を変える投資 ESG 入門（新版）』日本経済新聞出版
 その他の参考書は都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるとのフィードバックがあったので、本年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

In this class, students will understand that constructive dialogue between ESG investors and corporate management will enable companies to achieve sustainable growth and investors to realize higher returns on their long-term investments. As a result, they will understand how sustainability is enhanced.

MAN520R1

SDGs と企業経営

小方 信幸

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、国連が持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）を制定した歴史的背景を理解することを目的とする。併せて、SDGs の 17 目標について理解し、さらに、SDGs とサステナビリティ経営の関係を理解することも目的とする。

【到達目標】

- （１）国連が持続可能な開発目標（SDGs）を制定した歴史的背景を理解できる。
- （２）SDG s の 17 の目標を理解できる。
- （３）SDG s とサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループ討議を行う。講義とグループ討議を通じて、SDG s と企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	（１）国連の理念 （２）SDGs 誕生の歴史的背景 （３）企業が SDG s に取り組む理由
2	SDGs の人々 （People）に関する目標（１）	SDG s 目標 1-6 （１）人権についての基本的な理解を深める （２）ネスレの児童労働撲滅の取り組み
3	SDGs の人々 （People）に関する目標（２）	SDG s 目標 1-6 貧困問題に取り組むソーシャルビジネスの可能性を考える。
4	SDGs の繁栄 （Prosperity）に関する目標（１）	SDGs 目標 7-11 企業におけるジェンダーダイバーシティ
5	SDGs の繁栄 （Prosperity）に関する目標（２）	SDGs 目標 7-11 従業員の働き方改革
6	SDGs の地球 （Planet）に関する目標（１）	SDGs 目標 12-15 （１）気候変動 （２）脱炭素
7	SDGs の地球 （Planet）に関する目標（２）	SDGs 目標 12-15 （１）廃棄物 （２）生物多様性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるというフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を変更することもある。

【Outline (in English)】

The first objective of this class is to understand the historical background of the Sustainable Development Goals (SDGs) established by the United Nations. The next objective is to understand the 17 goals of the SDGs, and then to understand the relationship between the SDGs and sustainability management.

MAN520R1

ダイバーシティ経営

斎藤 悦子

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化による労働力人口の減少、人々の労働観の変化、消費者の多様化、グローバルな社会環境における企業競争の激化といった現象が、日本企業にダイバーシティ経営を求めている。本講義では、企業の社会的責任論の立場からダイバーシティ経営の必要性を ISO26000 の中核主題（特に人権、労働慣行、消費者課題、コミュニティへの参画・発展）に基づき検討し、議論する。

【到達目標】

ダイバーシティ経営の概念を理解する。概念の理解と同時に企業の社会的責任に関する最新の動向（人権と労働慣行、消費者課題、コミュニティの側面）からダイバーシティ経営の必要性を考察する。また、ダイバーシティ経営が、企業経営のみならず個人の生活のあり方や地域の持続可能性に大きな影響を与えていることを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、前半は講義を行い、後半は受講生の発表とディスカッションを行なう。最終回はケースを用いて、受講生がダイバーシティ経営に関わる場面を想定し、自らが考えた意思決定と実践方法を全員で共有し、議論により深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) ダイバーシティ経営の概要と本授業でとりあげる ISO26000 について
2	日本社会とダイバーシティ	(1) 講義：日本社会の現状 (2) ディスカッション：日本社会の現状と多様性について考える
3	生活におけるダイバーシティ	(1) 講義：生活時間から見たダイバーシティ (2) ディスカッション：生活のダイバーシティに企業はどうかかわるのか
4	ISO26000 を用いて一中核課題（人権・労働慣行）	(1) 講義：ISO26000 について (2) ディスカッション：人権・労働慣行とダイバーシティ
5	ISO26000 を用いて一中核課題（消費者課題）	1) 講義：現在の日本における消費者課題 (2) ディスカッション：消費者課題とダイバーシティ
6	ISO26000 を用いて一中核課題（コミュニティへの参画・発展）	(1) 講義：企業は地域コミュニティにいかに関わるのか (2) ディスカッション：グローバル企業と各国の文化
7	ダイバーシティ&インクルージョン	(1) 講義：ダイバーシティ&インクルージョンとは (2) ケースメソッド：「ケース ダイバーシティ部門の苦悩」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に国内外企業のダイバーシティ経営や CSR 活動に関心をもつように心掛けてほしい。毎回とりあげるテーマについて、準備学習として企業の事例を 1 社ほど検討して授業に参加する。また、復習として毎回のディスカッションで得られた知見を自分なりにまとめる、準備学習と復習には各 2 時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】

毎回、PPT を配布する。

【参考書】

山口一男著『ダイバーシティ（豊かな個性は価値創出の泉）— 一生を学ぶ物語』東洋経済新報社、2008 年
関正雄『ISO26000 を読む』日科技連、2011 年
E.H. シャイン『企業文化 改訂版：ダイバーシティと文化の仕組み』白桃書房、2016 年
尾崎俊哉著『ダイバーシティ・マネジメント入門 | 経営戦略としての多様性』ナカニシヤ出版、2017 年

【成績評価の方法と基準】

各回、企業の社会的責任に関する最新動向に基づきダイバーシティ経営のあり方を検討する。その際、担当者を決めて企業事例を報告してもらい、全員でディスカッションをするが、その報告とディスカッションへの貢献を評価全体のうちの 50 % とする。全体を通じて、最も関心のある分野を選び、その分野における優れた企業事例を報告する期末レポートの評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義について特に多くの意見があったのは、生活におけるダイバーシティに関してでした。ワーク・ライフ・バランスの現状を生活時間で示しながら説明しましたが、こうしたデータの存在について関心をもったという意見が多くありました。家庭での時間の過ごし方は、経営学の領域外なので新鮮に感じられたのだと思います。今後積極的に近接する学問分野の知見を加え、豊かなダイバーシティ経営論にしていきたいと考えています。

【Outline (in English)】

Japanese society is facing the declining workforce, changing people's value to work, diversifying consumption and intensifying corporate competition. Under the circumstances, diversity management is required for Japanese companies. This course deal with diversity management from the theory of social responsibility and ISO26000.

MAN520R1

コーポレートガバナンス

林 順一

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、コーポレートガバナンスの基礎と最新の動向について学習します。学習に際して、グローバルな視点や実務の観点を取り入れ、また事例を用いて理解を深めます。

【到達目標】

コーポレートガバナンスとは何か、どのような論点があるのかについて、具体的に理解し、自らの考えがまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では、講師作成のレジメに基づいた講義を行い、後半では、グループディスカッションなどの参加型授業を行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) 授業の進め方の説明とその確認 (2) 最近のコーポレートガバナンスに関するトピックスに関する議論
2	米国のコーポレートガバナンス	(1) 米国のコーポレートガバナンスの変遷（1930年代から現在まで、事例を含む）(2) 最近の動き（ビジネス・ラウンド・テーブルの「会社の目的」の変更とその意味など）
3	英国のコーポレートガバナンス	(1) 伝統的な英国のコーポレートガバナンスの仕組み（機関投資家の役割の重視など）(2) 最近の動き（コーポレートガバナンス・コードの改訂とその意義など）
4	わが国のコーポレートガバナンス	(1) 外国人機関投資家の圧力と日本企業の対応の歴史 (2) アベノミクスのガバナンス改革の概要と現在の課題
5	ドイツのコーポレートガバナンス	(1) ドイツのコーポレートガバナンスの特徴 (2) VW の事例分析など
6	フランスのコーポレートガバナンス	(1) フランスのコーポレートガバナンスの特徴 (2) ダノンの事例分析など
7	ESG 投資と SDGs、コンプライアンスとリスク管理	(1) ESG 投資と SDGs (2) コンプライアンスとリスク管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
(1) 事前配布資料がある場合には、事前に読んで、授業で発言できるように準備してください。(2) 授業を振り返り、論点を整理してください。(3) 期末レポートの作成があります。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布します。

【参考書】

都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

コーポレートガバナンスに馴染みのない受講生にも理解しやすいよう、丁寧な説明を心がけています。また受講生の要望に柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

該当ありません。

【その他の重要事項】

※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
実務家教員（非常勤）。銀行・証券業界 28 年、不動産・資産運用会社 10 年の実務経験（コーポレートガバナンス関連の実務経験を含む）を活かして、実務家の視点を踏まえた授業を行います。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundation of and recent trends in corporate governance to students. In order to better understand the global and practical perspectives, a case study will be introduced.

MAN520R1

企業活動と社会 I

小方 信幸

サブタイトル：

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：地域産業・企業／

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動において法令遵守は最低限の企業の社会的責任といえる。しかし、国内外を問わず非倫理的行為である企業不祥事は後を絶たない。そこで、当授業では、ケースメソッドを用い、企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき経営倫理のフレームワークを理解する。授業の前半は主に講義を行う。後半はケース・メソッドで授業を進め、さらにグループディスカッションを行う。

【到達目標】

- (1) 経営倫理のフレームワークを理解できる。
- (2) 現実のビジネスで企業が非倫理的行為を行う原因を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

当科目では最初に規範倫理学の基礎理論を学ぶ。そのうえでケースメソッドを用いて企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき経営倫理のフレームワークを理解する。授業前半は主に講義を行い、後半はケース・メソッドで授業を進める。グループ討議、全体討議を通じて、経営倫理についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 経営倫理の理論 (1) 功利主義と現代社会	(1) 講義：倫理的利己主義と功利主義 (2) ケース：フォード・ピントのケース
2	経営倫理の理論 (2) カント「義務論」	(1) 講義：カント「義務論」 (2) ケース：ブレント・スパーの処理を巡るケース
3	経営倫理の理論 (3) ロールズ「正義論」	(1) 講義：ロールズ「正義論」 (2) ケース：貧富の差について考える
4	経営倫理の実践 (1) ロールズ「正義論」の 視点で米国社会の現状 を考える。	経済的格差の是正に必要なことは何か。
5	経営倫理の実践 (2) 顧客関連の倫理	(1) 講義 (2) ケース：シアーズ自動車センター
6	経営倫理の実践 (3) 従業員関連の倫理	(1) 講義 (2) ケース：ソーラーブラインド
7	経営倫理の実践 (4) 国際経営の倫理	(1) 講義：児童労働 (2) ケース：ネスレの児童労働 廃絶への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 配布資料を事前に読み、授業で発言できるように準備する。
- (2) 授業を振り返り、論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

梅津光弘（2002）『ビジネスの倫理学』丸善出版、1,900 円＋税
 マイケル・サンデル（訳）鬼澤忍（2011）『これからの「正義」の話
 をしよう』早川書房（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）、900 円＋
 税 その他の参考書は都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40％、期末レポート 60％を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゲストスピーカーを招聘したところ、企業倫理に対する理解が深まったというフィードバックがあった。今年度もゲストスピーカー招聘を検討する。また、講義とグループ討議の組み合わせは理解を深めるとのフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】

ゲスト・スピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を一部変更することもある。

【Outline (in English)】

In corporate activities, compliance with laws and regulations is the minimum social responsibility of a company. However, there has been no end to the number of corporate scandals, both in Japan and abroad, involving unethical behavior. In this class, we will use the case method to examine unethical corporate behavior and understand the framework of corporate ethics as it should be. The first half of the class will consist mainly of lectures. In the second half of the class, the case method will be used and group discussions will be held.

ECN500R1

経済学

梅溪 健児

科目分類：導入科目（選択） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、これまで経済学を履修したことのない学生がミクロ経済学を中心として経済学の基本的な考え方を習得する。本研究科で研究を行うにあたって必須となる基本用語や経済社会における実例を取り上げ、討議を通じて理解を深めることが目的である。

【到達目標】

経済学の基本概念を現実の経済社会の中で理解し、経済学の手法が問題解決や政策立案に役立っていることを理解する。そして、経済学の分析を用いた専門論文が読み解けるようになることが目標である。数学の素養は求めない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

経済学の入門テキストに基づいて講義を行う。受講生の理解を促すため、①毎回の講義において輪読または質疑応答と意見交換を行う（必要な教材は1週間前に配布）、②毎回の講義後に復習テストを出題し次回講義にてフィードバックを行う。経済学が身近に感じられるように、講義資料には日常生活における経済学の適用事例を含める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経済学の枠組みと問題意識 消費者行動	需要と供給による市場の均衡を理解する。 需要曲線、無差別曲線、限界効用、効用の最大化、消費者余剰などを学ぶ。
2	企業行動	供給曲線、利潤の最大化、生産関数、限界費用、生産者余剰、余剰分析、労働需要などを学ぶ。
3	市場の均衡と市場の失敗	部分均衡と一般均衡、競争による資源配分の最適化、外部経済効果、規模の経済、公共財などを学ぶ。
4	情報の経済学とゲームの理論（基礎）	情報の非対称性、モラルハザード、逆選択、シグナリング、囚人のディレンマなどを学ぶ。
5	オークションとマッチング（ゲームの理論の応用）	マーケットデザイン、耐戦略性、勝者の呪い、受入れ保留アルゴリズムなどを学ぶ。 後半は全員参加の輪読を行う。
6	人口減少と経済成長	潜在成長率、成長会計、人的資本、労働の質、生産性向上、全要素生産性、イノベーションなどを学ぶ。
7	レポート発表・討議	共通課題に関するレポートを発表し討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から経済学の理論が問題説明や政策立案にどのように貢献しているのに関心を持つことを勧める。チケットのダイナミック・プライシング、交通渋滞に対処するピークロード・プライシング、ゲームの理論を用いたマッチングの最適化などが経済学の今日的な適用例である。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】

市村英彦・岡崎哲二他編（2020）『経済学を味わう』日本評論社
 伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第 2 版）日本経済新聞出版
 神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社
 坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書
 坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

復習テスト 6 回（60％）、グループワーク（10％）、レポート（30％）の合計

【学生の意見等からの気づき】

復習テストは最初は重荷に感じたが、回を重ねるごとに知識の習得に効果があったとの意見があったので継続する。身近な事例の紹介は経済学の理解にとっても役立つとの指摘があったので引き続き行う。講義内の意見交換が貴重だとの意見があったので、これまでよりもその機会を確保したい。昨年度までは第 6 回講義でマクロ経済学の概要を扱っていたが、内容が詰め込みになった反省から今年度は経済成長に関係する内容に焦点を絞ることにした。

【学生が準備すべき機器他】

各自作成した図表をレポート作成と発表に用いるので、それが可能となるパソコンが必要。

【その他の重要事項】

コロナ禍の状況によっては、対面とオンラインの併用授業またはオンラインのみの授業となることがある。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of economics aiming to encourage students who have not studied economics at university to acquire basic principles of economics. The goal of this course is to understand the intellectual contribution of the economics to the solution of social problems and the policy proposals among conflicting interests of people. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded according to the following scales: 6 take-home exams (60%), in-class discussion (10%) and the term paper (30%).

SOC500R1

社会学

須藤 廣

科目分類：導入科目（選択） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学とは、近代とは何か、そして近代生きる人間とは何かについて、人と人との繋がりを中心に、根源的に知る方法である。この授業では、受講生が、主に社会学史を追いながら、現代社会（近代及びポスト近代社会）を理解するために必要不可欠な社会学の両義的視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

この授業での到達目標は、学生が、①社会学が何を解明してこようとしたのかについて根本的に理解すること、②社会学が分析しようとしてきた人と人との繋がりの変容を知ること、③現代社会（特にポスト近代社会）が持っている問題点を多面的に知る方法を身につけること、④現代文化のとは何か、現代人の意識とは何かを的確に知る方法を身につけること、⑤現代社会（特にポスト近代社会）の問題点を解決する道を探る方法を身につけること、である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に、前半の授業では社会学の歴史とその基本的な考え方について講義する。

主に、後半の授業では、現代社会の諸現象について、各種資料、論文等を交えて議論する。議論のテーマは現代文化や社会意識等が中心となる。主に後半の授業では、前もって配布された資料、論文等を読んで意見を表明することが求められる。学生は与えられた資料を元に予習しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義 1	ガイダンス、講義「社会学のバースペクティブと社会学第 1 世代」	授業内容、授業の進め方について概略を案内する。そして、Covid-19 問題を議論しつつ、社会学のものの見方、バースペクティブについて考える。さらに、社会学がどのような観点を出発点としたのか、コント、スベンサー等社会学第一世代の考え方から考える。
講義 2	講義「社会学第 2 世代（デュルケムの社会学）」	主にデュルケムの『自殺論』について講義し、社会学における方法論の全体主義について考える。ここでは、主に社会の構造主義的把握の仕方を指す。
講義 3	講義「社会学第 2 世代（ウェーバーの社会学）」	主に『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』について講義し、社会学における方法論の個人主義について考える。ここでは主に、行為者に思われた意味と社会構造との関係について考える。
講義 4	講義「現代の社会学（ジンメル、ゴフマン、シュッツ、バーガー、パーソンズ、ギデンズ、ハバーマス、ルーマン）」	構築主義的 sociology を中心に現代の社会学の到達点を講義する。
講義 5	講義「現代文化の社会学（アーリ、ラッシュ、パウマン）」	ポストモダンティとポストモダニズム、グローバリゼーションについて主に議論する。アートプロジェクトの諸問題も議論する。
講義 6	講義「Covid-19 とリスクの社会学（ベックの「リスク社会論」を中心に）」	コロナ危機とは一体何だったのか、ベックの「リスク社会論」から考える
講義 7	議論「現代人の意識と現代文化（諸論文を使いながら）」	現代文化と現代人の意識について資料や論文を使いながら議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかでも参考書をいくつか紹介するので、これらの参考書のなかから数冊選び、授業準備や復習のために読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はこれといって使用しないが、指定された参考文献には目を通すこと。授業ごとに資料を配布する予定。

【参考書】

E・デュルケーム『自殺論』宮島 喬（訳）中央公論社（中公文庫）、2018 年

Kindle 版有

M. ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波書店（岩波文庫）

マックス（著）、大塚 久雄（訳）、1989 年

Kindle 版有

A・ギデンズ『近代とはいかなる時代か？—モダニティの帰結—』松尾精文、小幡正敏（訳）而立書房、1993 年

J・アーリ『オフショア化する世界——人・モノ・金が逃げ込む「闇の空間」とは何か?』

須藤 廣他（訳）明石書店、2018 年

【成績評価の方法と基準】

レポート（7 割）と、平常点（3 割）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

できる限り学生の意見を聞きながら、授業を進める。

【その他の重要事項】

不明の点、学習の進め方などわからない点は、メールで自由に問い合わせること。

【Outline (in English)】

Sociology is the way of understanding the characteristics of modern society and humanity. This course introduces the essence and the point of view in sociology. Students learn hidden institutions and ambiguous ways of life in modernity and postmodernity.

BSP500R1

レポートライティング

菅野 雅子

科目分類：導入科目（選択） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、論文執筆に必要な①事前準備の諸要素、②論文の骨格・構成、③細部のチェックポイント、についての理解を深めることを目的としている。

【到達目標】

学術論文の形式に関する知識をもとに、自ら設定したテーマに関する論文を書く力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回とも講義とグループワークの併用により進める。講義については論文執筆に必要な知識を主に扱い、グループワークで当研究科における過去の優秀論文を参照しながら、自身の研究の進め方や論文執筆の具体的なイメージを持てるように進める。また、レポート作成により実際に手を動かし知識を活用することを励行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の進め方及び参考書の紹介 ・過去の優秀論文のテーマ・概要を見てみよう ・自分の研究テーマや問題意識を整理してみよう
2	論文の基礎事項	・論文の構成 ・論証の方法 ・自分の研究の「問い」のフィールドを考えてみよう
3	序論の記述	・論文における序論の役割 ・問題提起と背景の説明 ・先行研究の記述とリサーチクエスチョンの設定
4	本論の記述	・序論から本論へ ・本論の役割と記述 ・様々な研究手法 ・調査結果の記述方法
5	結論の記述	・本論から結論へ ・結論の役割と記述 ・結果と結論の違い ・研究の限界と課題について
6	優秀論文から自分の研究へ	・優秀論文についてのまとめ ・改めて自分の研究のアウトラインを考えてみよう
7	まとめ	・読みやすい文章とは ・パラグラフ・ライティング ・授業全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後の課題、および最終レポートを作成し提出する。

【テキスト（教科書）】

授業時にレジュメを毎回配布する。

当研究科の優秀論文を扱う。

【参考書】

戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』NHK 出版 2012 年、吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（第 2 版）』ナカニシヤ出版 2017 年、

木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 1994 年、

ダン・レメニイほか著・小樽商科大学ビジネス創造センター訳『社会科学系大学院生のための研究の進め方 修士・博士論文を書く前に』同文館出版 2003 年
レスリー-ジェーン・イーグルズ-レイノルズ他著・楠見孝・田中優子訳『大学生のためのクリティカルシンキング—学びの基礎から教える実践へ』北大路書房 2019 年。

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

- ①平常点（授業への参加、グループワーク、課題）50 %
- ②最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

（対面授業の場合）受講者に常時の PC 機器の使用を求めることはないが、授業メモのために PC を使うことは構わない。
（オンライン授業の場合）スマホやタブレットではなく PC からの参加が望ましい。

【その他の重要事項】

課題および最終レポートは手書きでなく原則 Word により作成し、学習支援システムによる提出を求める。
オフィスアワーは授業後に設ける。

【Outline (in English)】

This class is intended to understand elements of the preinclination necessary for article making, the constitution of the article and a checkpoint for the article completion.

SOS500R1

英語論文文献講読

橋本 正洋

科目分類：導入科目（選択） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語文献収集や先行研究把握に必要な英文読解力を習得することが目的である。

【到達目標】

英語論文等から、筆者の問題設定と結論を効率的に把握するための慣れを身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は専門論文または海外公的機関が発行した報告書を教材とし、学習支援システムに掲載する。英単語や分析手法の細部にはこだわらず、読解力をつけることを優先する。
グループワーク、受講生の発表討論の機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イノベーションモデルを概観し、イノベーション学を俯瞰する
2	専門論文を読む 1	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
3	専門論文を読む 2	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
4	専門論文を読む 3	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。。
5	専門論文を読む 4	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
6	専門論文を読む 5	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
7	専門論文を読む 6	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題論文を事前に学習するための予習時間と講義後の復讐時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

講義の際に必要な応じ紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（おおむね 50 %）、課題発表の内容（おおむね 50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

今後聴取する。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance the English proficiency to find references and grasp existing literature in an efficient manner. In class students are encouraged to fast read papers that are selected in principle from quality journals with referees.

OTR600R1

プログラム演習

柿野 成美

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文、政策研究論文の完成に向けて、論文作成の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、論文作成の知識と研究スキルを身に付ける。

【到達目標】

研究スキルの習得及び修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いてのディスカッション、校外学習、参加者による発表及び討論などにより、各自の研究テーマを設定し深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて確認する
第 2 回	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
第 3 回	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
第 4 回	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
第 5 回	先行研究の検討	先行研究のサーベイ方法と記述方法を学ぶ。
第 6 回	先行研究の検討	各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
第 7 回	基本文献の精読	共通の基本文献を精読し、クリティカルリーディングを身に付ける。
第 8 回	基本文献の精読	共通の基本文献を精読し、クリティカルリーディングを身に付ける。
第 9 回	リサーチクエスションの検討	先行研究を踏まえ、リサーチクエスションを設定する方法を理解し、各自検討する。
第 10 回	質的調査の方法	質的調査の基本知識を理解し、研究への活用を討議する。
第 11 回	量的調査の方法	量的調査の基本知識を理解し、研究への活用を討議する。
第 12 回	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいかを討議する。
第 13 回	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
第 14 回	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の精読、発表に向けたプレゼンテーションの準備等、事前に十分な準備を行うこと。復習の具体的内容については、授業内に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【参考書】

ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加貢献（50 %）と個人発表内容（50 %）に基づき総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC を接続して画面をスクリーンに表示してプレゼンテーションを行う。受講生がネットに接続して情報検索できる環境が必要である。

【その他の重要事項】

校外学習、ゲストスピーカーの招聘を予定している。その場合、授業計画を変更することがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic papers, the method of a qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1

プログラム演習

柿野 成美

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文、政策研究論文の完成に向けて、論文作成の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、論文作成の知識と研究スキルを身に付ける。

【到達目標】

研究スキルの習得及び修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いてのディスカッション、校外学習、参加者による発表及び討論などにより、各自の研究テーマを深め、表現する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について確認する。夏休み期間の研究の進捗状況を報告する。
第 2 回	研究内容・方法の検討	各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて研究内容と方法の見直し・検討をする
第 3 回	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
第 4 回	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
第 5 回	ゲスト講師による講義・ディスカッション	執筆論文のテーマに関するゲスト講師を招聘し、論文作成への視座を獲得する。
第 6 回	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
第 7 回	中間レビュー	研究計画の発表・見直しを行う。
第 8 回	論文の記述方法の確認	序論・本論・結論の書き方や具体的な記述方法について確認する
第 9 回	ゲスト講師による講義・ディスカッション	執筆論文のテーマに関するゲスト講師を招聘し、論文作成への視座を獲得する。
第 10 回	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
第 11 回	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
第 12 回	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
第 13 回	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
第 14 回	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の精読、発表に向けたプレゼンテーションの準備等、事前に十分な準備を行うこと。復習の具体的内容については、授業内に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【参考書】

ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加貢献（50 %）と個人発表内容（50 %）に基づき総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC を接続して画面をスクリーンに表示してプレゼンテーションを行う。受講生がネットに接続して情報検索できる環境が必要である。

【その他の重要事項】

校外学習、ゲストスピーカーの招聘を予定している。また、ゼミ生の進捗状況によって授業計画を変更することがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic papers, the method of a qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1

プログラム演習

石山 恒貴

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究のできるようにする。そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

【到達目標】

「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3	研究テーマの調査方法（その1）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その1）
4	研究テーマの調査方法（その2）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その2）
5	研究テーマの調査方法（その3）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その3）
6	調査結果の分析方法（その1）	調査結果の分析手法の検討（その1）
7	調査結果の分析方法（その2）	調査結果の分析手法の検討（その2）
8	調査結果の分析方法（その3）	調査結果の分析手法の検討（その3）
9	調査結果から考察する方法（その1）	調査結果から考察する手法の検討（その1）
10	調査結果から考察する方法（その2）	調査結果から考察する手法の検討（その2）
11	調査結果から考察する方法（その3）	調査結果から考察をする手法の検討（その3）
12	提言の検証方法（その1）	提言を検証する方法の検討（その1）
13	提言の検証方法（その2）	提言を検証する方法の検討（その2）
14	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際には、通年で30数回の演習がなされるが、そのために

1. 自身の調査研究テーマの推進
2. ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
3. 各人に与えられた課題の処理
4. 合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

OTR600R1

プログラム演習

石山 恒貴

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究をできるようにする。そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

【到達目標】

「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3	研究テーマの調査方法（その1）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その1）
4	研究テーマの調査方法（その2）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その2）
5	研究テーマの調査方法（その3）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その3）
6	調査結果の分析方法（その1）	調査結果の分析手法の検討（その1）
7	調査結果の分析方法（その2）	調査結果の分析手法の検討（その2）
8	調査結果の分析方法（その3）	調査結果の分析手法の検討（その3）
9	調査結果から考察する方法（その1）	調査結果から考察する手法の検討（その1）
10	調査結果から考察する方法（その2）	調査結果から考察する手法の検討（その2）
11	調査結果から考察する方法（その3）	調査結果から考察をする手法の検討（その3）
12	提言の検証方法（その1）	提言を検証する方法の検討（その1）
13	提言の検証方法（その2）	提言を検証する方法の検討（その2）
14	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際には、通年で30数回の演習がなされるが、そのために

- 自身の調査研究テーマの推進
- ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
- 各人に与えられた課題の処理
- 合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

OTR600R1

プログラム演習

高尾 真紀子

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に付ける。

【到達目標】

修士論文の作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、現場視察、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて調整する
第 2～3 回	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
第 4 回	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
第 5～6 回	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関連する先行研究の発表と討議を行う。
第 7 回	リサーチクエスションの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスションを設定する
第 8～9 回	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
第 10 回	質的調査の方法	質的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する。
第 11 回	量的調査の方法	量的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する
第 12 回	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。
第 13～4 回	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表および討論のための十分な準備を行うこと。
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

秋吉貴雄『入門公共政策学-社会問題を解決する「新しい知」』2017 年、中公新書
伊藤修一郎『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』2011 年、東京大学出版会
上野千鶴子『情報生産者になる』2018 年、ちくま新書
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTA によるキャリア研究』2017 年、晃洋書房
佐藤郁哉『社会調査の考え方（上下）』2015 年、東京大学出版会
その他についてはその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加による。

【学生の意見等からの気づき】

研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようにディスカッションを活発化させる。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、P C を接続して画面をスクリーンに表示できる設備を使用。受講生がネットに接続して情報検索できる環境。

【その他の重要事項】

※講義概要は変更が起こりうる場合があります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1

プログラム演習

高尾 真紀子

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】

修士論文の作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、現場視察、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	質的調査の方法	半構造化インタビュー、参与観察など 質的調査の方法を学ぶ。
第 2～3 回	フィールドワーク	フィールドワークにより質的調査の方法を実践的に習得する。
第 4～5 回	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
第 6 回	フィールドワークの発表	フィールドワークの研究結果を発表する。
第 7 回	量的調査の方法	質問票の作り方等、量的調査の方法を学ぶ。
第 8～9 回	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
第 10～11 回	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
第 12 回	論文作成の方法	論文作成の方法について学ぶ。
第 13～14 回	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表および討論のための十分な準備を行うこと。
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

秋吉貴雄『入門公共政策学-社会問題を解決する「新しい知」』2017 年、中公新書
伊藤修一郎『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』2011 年、東京大学出版会
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTA によるキャリア研究』2017 年、晃洋書房

【成績評価の方法と基準】

演習への参加による。

【学生の意見等からの気づき】

研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようディスカッションを活発化させる。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC を接続して画面をスクリーンに表示できる設備を使用。受講生がネットに接続して情報検索できる環境。

【その他の重要事項】

※講義概要は変更が起こりうる場合があります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1

プログラム演習

増淵 敏之

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士 1 年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目標にする。

【到達目標】

学生が 2 年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献購読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならない、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
3-4	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
5-6	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
7-8	文献購読/Literature subscription	文献購読による発表、議論/Presentation and discussion by subscribing to literature
9-10	文献購読/Literature subscription	文献購読による発表、議論/Presentation and discussion by subscribing to literature
11-12	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13-14	まとめ/summary	まとめ/summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたし。

【テキスト（教科書）】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表による評価 50 %、平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎週月曜日 16 - 18 時、基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

OTR600R1

プログラム演習

増淵 敏之

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士 1 年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目標にする。

修士 2 年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標にする。

【到達目標】

修士 1 年次の学生は 2 年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

修士 2 年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献購読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならない、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士 2 年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
3	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
4	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法/Procedure and method of writing a dissertation
5	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
6	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
12	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer
14	まとめ/summary	本年度の振り返り/Looking back on this year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたし。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表による評価 50 %、平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは毎週月曜日 16 - 18 時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600R1

プログラム演習

上山 肇

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文作成に向けた演習

【到達目標】

各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
10	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
11	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表に向けた準備。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

【Learning Objectives】

Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation

[Learning activities outside of classroom]

Preparation for presentation.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600R1

プログラム演習

上山 肇

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文作成に向けた演習

【到達目標】

各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
10	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
11	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表に向けた準備。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

【Learning Objectives】

Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation

【Learning activities outside of classroom】

Preparation for presentation.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600R1

プログラム演習

須藤 廣

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。地域における産業、地域福祉・介護、コミュニティ等についての包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光である。

【到達目標】

論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義、受講者の研究発表・プレゼン、ディスカッションなどにより進める。また、個人の進度に応じた個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	演習の編成に関する方針とスケジュール
2 回目	論文作成に向けた演習	個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
3 回目	観光社会学についての書籍・論文の輪読① 『チョンキンマンションのボスは知っている』	それぞれが発表
4 回目	観光社会学についての書籍・論文の輪読② 『チョンキンマンションのボスは知っている』	それぞれが発表
5 回目	観光社会学についての書籍・論文の輪読③ 王寧（観光社会学者）の中国語論文 2 つ	それぞれが発表
6 回目	各々の研究テーマ	各々の研究テーマについて発表する
7 回目	夏休みの研究の準備	各々が夏休み中にどのような調査研究を行うのかを検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

小川さやか『チョンキンマンションのボスは知っている』春秋社、2019 年
Wang Ning(王寧) Tourism and Modernity: A social Analysis, Pergamon, 2000

その他、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

観光学、観光社会学の視点と調査方法をどの程度身につけたのかを評価する。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。

【Outline (in English)】

In this seminar, students master the knowledge and research skills for paper creation which deal with the tourism industries and culture.

OTR600R1

プログラム演習

須藤 廣

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文作成のための知識と研究スキルを習得する。地域における産業、地域福祉・介護、コミュニティ等についての包括的な知識を学習する。このゼミナールのテーマは観光である。

【到達目標】

論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

学生の発表を基本に進める。校外学習（フィールドワーク）も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス 夏休み中の研究についての結果発表	演習の編成に関する方針とスケジュール 受講生各々が研究発表を行う
2 回目	論文作成に向けた演習	受講生の個人発表とディスカッション、研究スキルの学習
3 回目	書籍・論文の輪読①『社会学で読み解く文化遺産—新しい研究の視点とフィールド』を考えている	書籍・論文の内容を受講生がまとめて発表
4 回目	書籍・論文の輪読②	書籍・論文の内容を受講生がまとめて発表
5 回目	修士論文構想	修士論文の構想を受講生各々が発表
6 回目	修士論文の進捗状況	修士論文に向けた研究の進捗状況について各々が報告する。
7 回目	修士論文内容発表	修士論文執筆者が修士論文の内容を発表する。論文の形式の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

木村至誠、森久聡（編著）『社会学で読み解く文化遺産—新しい研究の視点とフィールド』新曜社、2020 年
その他、各自の研究テーマにそって指示する。

【成績評価の方法と基準】

観光学、観光社会学の視点、その調査方法をどの程度身につけたのかを評価の基準とする。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン、タブレット等）を使用することがある。

【その他の重要事項】

ゼミへの積極的な参加を望む。

【Outline (in English)】

In this seminar, students master the knowledge and research skills for paper creation which deal with the tourism industries and culture.

OTR600R1

プログラム演習

橋本 正洋

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。

【到達目標】

- ①論文作成のための基礎的な知識を習得する
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得する
- ③調査分析結果の考察方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5	研究テーマの設定方法	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究計画書の作成方法	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究計画書の発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	先行研究レビューの方法	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	定性的調査の方法	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11	定量的調査の方法	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12	調査結果の分析手法	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13	調査分析結果の考察	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等を重視する。復習では目安となる水準を演習中に提示する。また、プレゼンテーションの実施によって、ロジカルに見解を伝えるスキルを習得することを目指す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の研究の進捗状況等に合わせて、必要な教材を紹介する。

【参考書】

各回の演習テーマごとに適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

本演習の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での 発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義と異なり、ゼミは、学生自らが運営するとの意識をもって望むことが必要。

【Outline (in English)】

The seminar will be run in order to accomplish master thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

OTR600R1

プログラム演習

橋本 正洋

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。

【到達目標】

- ①論文作成のための基礎的な知識を習得する
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得する
- ③調査分析結果の考察方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5	研究テーマの設定方法	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究計画書の作成方法	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究計画書の発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	先行研究レビューの方法	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	定性的調査の方法	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11	定量的調査の方法	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12	調査結果の分析手法	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13	調査分析結果の考察	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等を重視する。復習では目安となる水準を演習中に提示する。また、プレゼンテーションの実施によって、ロジカルに見解を伝えるスキルを習得することを目指す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の研究の進捗状況等に合わせて、必要な教材を紹介する。

【参考書】

各回の演習テーマごとに適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

本演習の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での 発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義と異なり、ゼミは、学生自らが運営するとの意識をもって望むことが必要。

【Outline (in English)】

The seminar will be run in order to accomplish master thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

OTR600R1

プログラム演習

井上 善海

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行います。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得していただきます。

【到達目標】

- ①論文作成のための基礎的な知識を習得できている。
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得できている。
- ③調査分析結果の考察方法を習得できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実させていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5	研究テーマの設定方法	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6	個人研究発表 研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等をしていただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】

各回の演習テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での 発言・貢献度（40%）、研究発表内容（60%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

We will conduct research guidance for preparing master thesis and policy research papers in a seminar (seminar) format. Students should acquire knowledge and research skills for preparing papers such as preparation of research plan, selection of research theme, review of prior research, survey analytical method (qualitative / quantitative), examination of survey results.

OTR600R1

プログラム演習

井上 善海

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文・政策研究論文の完成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行います。各自の論文執筆状況を報告してもらい、それを皆で討議することで、論文の完成度を高めていきます。

【到達目標】

- ①研究の方法論を理解したうえで、論文を完成させている。
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を踏まえたうえで論文を完成させている。
- ③調査分析結果を考察した論文を完成させている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が論文執筆状況を順次報告し、全員で議論することで研究内容を充実させていきます。また、論文執筆のための個別指導を授業以外でも随時行っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2	論文執筆状況の報告と討議①	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
3	論文執筆状況の報告と討議②	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
4	論文執筆状況の報告と討議③	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
5	論文執筆状況の報告と討議④	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
6	論文執筆状況の報告と討議⑤	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
7	論文執筆状況の中間報告	各自の論文執筆状況の中間報告を行う。
8	論文の見直し、修正①	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
9	論文の見直し、修正②	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
10	論文の見直し、修正③	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
11	完成論文の最終チェック①	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
12	完成論文の最終チェック②	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
13	完成論文の最終チェック③	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
14	まとめ	論文提出の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】

各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

We will conduct research guidance to complete master's thesis / policy research paper in a seminar (seminar) form. We will report the status of writing their own papers and discuss them with everyone to improve the completeness of the thesis.

OTR600R1

プログラム演習

小方 信幸

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の完成を目的とし、そのための指導を演習（ゼミ）形式で行う。ゼミは学生による発表を中心に行い、全員が意見を述べ討論することを基本とする。具体的には、文献調査の方法、論文の引用・研究倫理、先行研究レビュー、分析の対象、データ、方法（定性分析・定量分析）など論文作成の方法論を学ぶ。また、学生は定期的に自らの研究成果を発表することが求められる。

【到達目標】

- （１）研究の方法論を理解することができる。
- （２）修士論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」に資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。

授業内容は、学生による発表を中心としたゼミ形式で行う。発表者に対し全員が意見を述べ討論を行うことを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文を書くことの意義
2	論文の書き方 個人研究発表	（１）研究の進め方 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
3	論文の書き方 個人研究発表	（１）論文の構成 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
4	論文の書き方 個人研究発表	（１）論文の引用、研究倫理 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
5	論文の書き方 個人研究発表	（１）先行研究レビュー （２）研究計画、修士論文の進捗状況
6	論文の書き方 個人研究発表	（１）分析対象、データ、方法 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
7	論文の書き方 個人研究発表	（１）定性的方法論 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
8	論文の書き方 個人研究発表	（１）定量的方法論 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
9	文献講読 個人研究発表	（１）学生の研究テーマに沿った論文 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
10	文献講読 個人研究発表	（１）学生の研究テーマに沿った論文 （２）研究計画、修士論文の進捗状況

11	文献講読 個人研究発表	（１）学生の研究テーマに沿った論文 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
12	文献講読 個人研究発表	（１）学生の研究テーマに沿った論文 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
13	文献講読 個人研究発表	（１）学生の研究テーマに沿った論文 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
14	文献講読 個人研究発表	（１）学生の研究テーマに沿った論文 （２）研究計画、修士論文の進捗状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- （１）配布資料、指定する文献、論文等を事前に読み、ゼミで発言ができるよう準備する。
- （２）ゼミを振り返り論点を整理する。
- （３）常に自分の研究テーマに沿った文献、論文を読む時間を確保していただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、個人研究発表 50%、

【学生の意見等からの気づき】

学期初めからゼミで研究法を学んだことにより、学術論文に対する理解が深まったとの意見があった。今年度も学期初から研究方法について学ぶ。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を変更することがある。授業外でのゼミ合宿、企業訪問に加え、他ゼミの学生も参加することができる横断ゼミを検討する。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students complete master thesis. Students are required to understand the method of the literature survey, citation, research ethics, previous research reviewing, method of both qualitative of quantitative analysis. Students are also required to make presentations on their research results. Students are also required to make presentations on their research results, regularly.

OTR600R1

プログラム演習

小方 信幸

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の完成を目的とし、そのための指導を演習（ゼミ）形式で行う。ゼミは学生による発表を中心に行い、全員が意見を述べ討論することを基本とする。具体的には、文献調査の方法、論文の引用・研究倫理、先行研究レビュー、分析の対象、データ、方法（定性分析・定量分析）など論文作成の方法論を学ぶ。また、学生は定期的に自らの研究成果を発表することが求められる。

【到達目標】

- （１）研究の方法論を理解することができる。
- （２）修士論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

学生の発表を中心にゼミを行う。発表者に対し全員が意見を述べ討論を行うことを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 個人研究発表	（１）教員による授業の進め方 （２）研究計画、修士論文の進捗状況
2	個人研究発表	修士論文の進捗状況
3	個人研究発表	修士論文の進捗状況
4	個人研究発表	修士論文の進捗状況
5	個人研究発表	修士論文の進捗状況
6	個人研究発表	修士論文の進捗状況
7	個人研究発表	修士論文の進捗状況
8	個人研究発表	修士論文の進捗状況
9	個人研究発表	修士論文の進捗状況
10	個人研究発表	修士論文の進捗状況
11	個人研究発表	修士論文の進捗状況
12	個人研究発表	修士論文の進捗状況
13	個人研究発表	修士論文の進捗状況
14	個人研究発表	修士論文の進捗状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- （１）配布資料、指定文献・論文等を事前に読み、ゼミで発言できるよう準備する。
- （２）ゼミを振り返り、論点を整理する。
- （３）常に自分の研究テーマに沿った文献、論文を読む時間を確保する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、個人研究発表 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゲストスピーカー招聘の希望があるので、ゼミ生の研究に参考となる専門性の高い方の招聘を検討する。

【その他の重要事項】

ゲスト・スピーカー招聘を検討する。ゲスト・スピーカー招聘の場合、授業計画を変更することがある。授業外でのゼミ合宿、企業訪問に加え、他ゼミの学生も参加することができる横断ゼミを検討する。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students complete master thesis. Students are required to understand the method of the literature survey, citation, research ethics, previous research reviewing, method of both qualitative of quantitative analysis. Students are also required to make presentations on their research results. Students are also required to make presentations on their research results, regularly.

BSP580R1

研究法**石山 恒貴、増淵 敏之、須藤 廣、上山 肇、井上 善海、高尾 真紀子、小方 信幸、橋本 正洋**

科目分類：博士後期（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を執筆するために社会科学的研究及び政策研究の基礎について学習する。より円滑かつ的確に博士論文を執筆できるように博士論文の執筆過程をイメージしながら基礎的な事項を確認していく。

【到達目標】

- ・政策を研究する際或いは社会科学分野の研究を行う際に必要な知識、技術、勘所等について、基本的な水準に到達すること。
- ・各自の博士論文について、今後の作成計画や構想を具体的にイメージできるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

必要事項の講義、講義に基づく討論・グループ討論、課題についてのペーパーワーク等により進める。また、博士論文を執筆した先輩の経験談を聞く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究のプロセスおよびリサーチデザイン（石山）	博士論文を書くうえで、自身の研究領域および存在論・認識論の観点で、どのようなリサーチデザイン、分析を行うべきかを考える。また、研究のプロセスのあり方について考える。
第2回	博士論文における文献サーベイ（増淵） 博士論文の構成（須藤）	博士論文には独創性が求められる。先行研究のサーベイを通じてのテーマ設定及び着眼点について議論していく。典型的な博士論文を読み、その構成について考える。
第3回	質的調査（事例調査）の方法（井上）	過去の博士論文を参照しながら、特に事例調査の実施にあたっての留意点や分析手法について講義し、各自の問題意識に沿って議論する。
第4回	計量経済学的手法の活用（小方）	計量経済学的手法を用いた査読論文を教材とし、査読プロセスを踏まえた上で、データ・分析手法・結論の導出などの特徴について議論する。
第5回	量的調査（質問紙調査）の方法（高尾）	過去の博士論文を参照しながら、特に質問紙調査の実施にあたっての留意点や分析手法について講義し、各自の問題意識に沿って議論する。
第6回	「研究方法」「論文執筆」等に関する再確認（上山）	この時期だからこそ再度、研究の基本に立ち返る。「研究とは」「論文執筆の注意点」「査読論文」等について考える。
第7回	社会人博士の取り方（橋本）	社会人経験を有する学生を中心として、学位取得に向けた自身の経験を踏まえたガイダンスを行うとともにディスカッションを通して、研究テーマ、研究の進め方など論文執筆に有益な機会とすることを目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 授業と並行して自分の博士論文の作成計画及び構想を練る。
- 2 論文作成法などの本を読む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。各回ごとに参考文献を挙げる。

【参考書】

野村康『社会科学の考え方 認識論、リサーチ・デザイン、手法』2017年、名古屋大学出版会

自分の研究領域の優れたモノグラフが一番の参考文献となる。一般的には社会科学系の論文作成法の本は参考となる。研究法については、その都度、本や文献等を指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回のレポート、授業への貢献等の総合点を合計して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

博士号取得者の経験は役に立つとの声が多いため、講義にも取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンによる提出物作成は必須。

【その他の重要事項】

一般的な研究法の知識等を概説するととどまるので、実際の展開は各人が指導教員と相談しながら進めていただきたい。

授業後に質問等を受け付ける。

【Outline (in English)】

This course introduce the basics of social science research and policy research to write a doctoral thesis. Students are required to confirm fundamental skills while imagining the writing process of doctoral thesis.

SOS580R1

外国語文献講読

橋本 正洋

科目分類：博士後期（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位論文作成に必要な英語文献収集や先行研究把握に力を習得することが目的である。

【到達目標】

英語論文から、研究の方向性、結論、考察等を俯瞰的、網羅的かつ効率的に把握するための力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は専門論文または海外公的機関が発行した報告書を教材とし、学習支援システムに掲載する。英単語や分析手法の細部にはこだわらず、読解力をつけることを優先する。

グループワーク、受講生の発表討論の機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション イノベーション学を俯瞰する	イノベーションモデルを概観し、そのもとになる原著を紹介する。英語のレベルチェックを行う。
2	専門論文を読む 1	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
3	専門論文を読む 2	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
4	専門論文を読む 3	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
5	専門論文を読む 4	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
6	専門論文を読む 5	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
7	専門論文を読む 6	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題論文を事前に学習するための予習時間と講義後の復讐時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

講義の際に必要な応じ紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（平常点。おおむね 50 %）、課題発表の内容（おおむね 50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

今後聴取する。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance the English proficiency to find references and grasp existing literature in an efficient manner. In class students are encouraged to fast read papers that are selected in principle from quality journals with referees.

OTR580R1

合同ゼミ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、学生全員での議論の場を設けたい。とくに他領域での学生の発言が研究の奥行きと広がりにつながることを期待している。学会での発表に結び付けることを到達目標とした。

【到達目標】

投稿論文の掲載を到達目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1 回につき 1 名の学生の発表とする。ひとりにつき発表時間は 40 分、議論 60 分とする。レジュメは当日、配布、書式は基本的に自由だが、P・P は使用しないことを基本とする。発表の順番、司会進行は学生が行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発表の順番決め、進行についての調整作業/Guidance, ordering of presentations, coordination work on progress	ガイダンス、発表の順番決め、進行についての調整作業/Guidance, ordering of presentations, coordination work on progress
2-5	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments
6-7	ゲスト講師の講義/Lecture by guest lecturer	博士論文の執筆について/About writing a doctoral dissertation
8	中間取り纏め/Intermediate summary	意見交換、進捗状況確認/Exchange opinions and check progress
9-12	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments
13	ゲスト講師の講義/Lecture by guest lecturer	博士論文の執筆について/About writing a doctoral dissertation
14	纏め/Summary	意見交換、進捗状況確認/Exchange opinions and check progress

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

都度学生と相談して進め方を決めていく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

学生の人数によって授業の実施方法を工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

自分の発表の回には配布用資料を用意のこと。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー毎週月曜日 16 - 18 時。

【Outline (in English)】

As doctoral students will increase their expertise, we want to set up a forum for discussion among all students. In particular, I hope that the remarks of the students in other areas will lead to the depth and spread of the research. I would like to make my goal to be connected with presentations at academic societies.

ECN700R1

経済政策特殊研究 I

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程の初年度にあたり、博士論文執筆に向けた知識・スキルの習得が目的である。

【到達目標】

同一研究テーマの先行研究を把握した上で、研究の独自性、エビデンスの収集と加工、頑健な論理の構築などを確認しながら、論文執筆の確実な準備を整えることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導により、個人ごとの進行予定表を作成し、論文執筆の準備ステップを確実に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	年間予定の確認	博士論文の執筆に向けた予定表を作成する。
2~27	論文執筆に向けた基盤の構築	個人ごとの予定表に従い、着実に準備を進める。
28	初年度の総括	基盤構築の進捗状況を総括し、次年度の課題を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。内外の先行研究を掌握するとともに、計量経済学の分析手法をマスターすることが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

個別に提示する。

【成績評価の方法と基準】

各人の年間予定表の進捗状況を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究予定を着実に進めることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

データの加工と分析に用いるパソコンと計量分析パッケージ。

【その他の重要事項】

執筆する博士論文の研究分野を対象とする学会に所属し、学会ジャーナルを通読すると同時に、学会に出席することが重要である。

【Outline (in English)】

The first-year students in the Doctor's course should acquire the knowledge and skills of each research field that would be required to write a doctoral thesis.

ECN710R1

経済政策特殊研究Ⅱ

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程の二年度にあたり、研究分野の知識とスキルを深めながら、論文のコアとなる実証分析を進め政策メッセージの可能性を確実に固めることが目的である。

【到達目標】

エビデンスの収集、とりわけ統計データの入手を早期に終え、暫定的な分析結果を得たうえで、幅広い観点から検討を加え、多様なコメントを得ながら有効な解釈を積み重ねることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導により、個人ごとの進行予定表を作成し、論文のコア部分の形成を確実に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	年間予定の確認	博士論文の執筆に向けた予定表を作成する。
2～27	エビデンスの収集と加工	各人の予定表に従い、着実に準備を進める。 論文のコアとなる分析の完成度を客観的に評価し、最終年度への課題を整理する。中間発表会の準備を確認する。
28	二年度の総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。エビデンスの収集と加工には幅広い研究交流がきわめて有効であり、学内外の研究者とネットワークを積極的に深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

個別に提示する。

【成績評価の方法と基準】

各人の年間予定表の進捗状況を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究予定を着実に進めることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

データの加工と分析に用いるパソコンと計量分析パッケージ。

【その他の重要事項】

執筆する博士論文の研究分野が属する学会のメンバーと積極的に交流し、意見交換することが重要である。

【Outline (in English)】

The second-year students in the Doctor's course should deepen the knowledge and skills of each research field and examine the possibility of policy conclusions while engaging in empirical researches.

ECN720R1

経済政策特殊研究Ⅲ

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程の最終年度として、博士論文を完成させることが目的である。

【到達目標】

執筆する論文が、学会発表や査読ジャーナルでの採用が可能となるレベルに到達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導により、個人ごとの進行予定表を作成し、論文を確実に完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	年間予定の確認	最終年度の予定表を作成する。
2～27	年間予定表に従った論文執筆	論文の完成に向けて着実に取り組む。
28	最終年度の総括	執筆論文に関する総括を行い、これからの方針を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。学会発表や論文投稿などの学外の研究機会を積極的に活用することが重要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

個別に提示する。

【成績評価の方法と基準】

各人の年間予定表の進捗状況を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究予定を着実に進めることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

データの加工と分析に用いるパソコンと計量分析パッケージ。

【Outline (in English)】

The third-year students in the Doctor's course are recommended to complete a doctoral thesis.

MAN700R1

雇用政策特殊研究Ⅰ

石山 恒貴

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

博士後期課程の初年度に該当し、最終的な博士論文の完成を可能とするための知識・スキルの習得を重点的に行う。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士後期課程の初年度として、学会発表、査読論文執筆などを十分に進めることができるレベルへの到達を目指す。

At the end of the course, students are expected to reach a level where students can adequately present their work at conferences and write peer-reviewed papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をととして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-28 回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

MAN710R1

雇用政策特殊研究Ⅱ

石山 恒貴

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

博士後期課程の中間の年度となることから、博士論文に着手できる条件をすべて整えるための内容を重点的に行う。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士論文に着手できる条件を整えるために、特に査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を重視する。

At the end of the course, students are expected to reach a level where students can adequately present their work at conferences and write peer-reviewed papers. Emphasis will be placed on reaching a level that will enable students to write peer-reviewed papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をととして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-28 回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

MAN720R1

雇用政策特殊研究Ⅲ

石山 恒貴

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

特に博士後期課程の集大成として、博士論文の完成に関連する内容を重点的に実施する。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

本授業は博士後期課程の集大成となることから、博士論文そのものの完成に該当するレベルへの到達を目指す。

At the end of the course, students are expected to reach a level corresponding to the completion of the doctoral dissertation itself.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-28 回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

ARSI700R1

文化政策特殊研究Ⅰ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】

1 年次はテーマ設定、修士論文の再検討から学会発表、投稿論文執筆へと進めていき、投稿、掲載に結びつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-28 回	研究についての個別指導/Individual guidance	研究についての個別指導/Individual guidance on research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた文献及び関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSI710R1

文化政策特殊研究Ⅱ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】

2年次では学会発表、論文投稿をメインにするが、調査を積極的に行わなければならないので、フィールドワークの手法を会得することに力点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究についての個別指導/Individual guidance on research	研究についての個別指導/Individual guidance on research
2	同上	同上
3	同上	同上
4	同上	同上
5	同上	同上
6	同上	同上
7	同上	同上
8	同上	同上
9	同上	同上
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	同上	同上
14	同上	同上
15	研究についての個別指導/Individual guidance on research	研究についての個別指導/Individual guidance on research
16	同上	同上
17	同上	同上
18	同上	同上
19	同上	同上
20	同上	同上
21	同上	同上
22	同上	同上
23	同上	同上
24	同上	同上
25	同上	同上
26	同上	同上
27	同上	同上
28	同上	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた文献及び関連文献の購読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【Outline (in English)】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSI720R1

文化政策特殊研究Ⅲ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】

2年次では学会発表、論文投稿をメインにするが、調査を積極的に行わなければならないので、フィールドワークの手法を会得することに力点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究についての個別指導/Individual guidance on research	研究についての個別指導/Individual guidance on research
2	同上	同上
3	同上	同上
4	同上	同上
5	同上	同上
6	同上	同上
7	同上	同上
8	同上	同上
9	同上	同上
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	同上	同上
14	同上	同上
15	研究についての個別指導	研究についての個別指導
16	同上	同上
17	同上	同上
18	同上	同上
19	同上	同上
20	同上	同上
21	同上	同上
22	同上	同上
23	同上	同上
24	同上	同上
25	同上	同上
26	同上	同上
27	同上	同上
28	同上	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた文献及び関連文献の購読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【Outline (in English)】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSx700R1

都市政策特殊研究Ⅰ

上山 肇

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】
論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
第 2 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 3 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 4 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 5 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 6 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 7 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 8 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 9 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 10 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 11 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 12 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 13 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 14 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 15 回	前半のまとめ	発表及びディスカッション
第 16 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 17 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 18 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 19 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 20 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 21 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 22 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 23 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 24 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 25 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 26 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 27 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 28 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の講読。

【テキスト（教科書）】
適宜示します。

【参考書】
適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis of urban policy to students taking this course.
[到達目標 (Learning Objectives)]
Preparation of papers and presentation at academic conferences, etc.
[Learning activities outside of classroom]
Reading related literature.
[Grading Criteria / Policy]
Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

ARSx710R1

都市政策特殊研究Ⅱ

上山 肇

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】
論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
第 2 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 3 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 4 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 5 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 6 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 7 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 8 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 9 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 10 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 11 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 12 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 13 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 14 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 15 回	前半のまとめ	発表及びディスカッション
第 16 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 17 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 18 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 19 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 20 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 21 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 22 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 23 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 24 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 25 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 26 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 27 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第 28 回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜示します。

【参考書】
適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course introduces about writing method of a thesis of urban policy to students taking this course.

ARSx720R1

都市政策特殊研究Ⅲ

上山 肇

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】

論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
第2回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第3回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第4回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第5回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第6回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第7回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第8回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第9回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第10回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第11回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第12回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第13回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第14回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第15回	前半のまとめ	発表及びディスカッション
第16回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第17回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第18回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第19回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第20回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第21回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第22回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第23回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第24回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第25回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第26回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第27回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
第28回	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜示します。

【参考書】

適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces about writing method of a thesis of urban policy to students taking this course.

MAN700R1

産業政策特殊研究Ⅰ

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。受講生の要望に応じて、行動経済、行動ファイナンス、マクロ・ミクロ経済学、金融工学、モダンポートフォリオセオリー、マーケティング、産業・経済政策などの観点から、どのように研究を進めるか、指導を行う。

【到達目標】

- ①博士論文作成のための基礎的な知識を習得する
- ②研究に必要な理論、先行研究レビューや調査分析手法を習得する
- ③調査分析結果の考察方法（定量・定性分析など）を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。特に、博士課程で研究対象とする分野、テーマなどの確認を行う。
2	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文献研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14	まとめ	これまでのゼミでの議論、報告などを基に疑問点、必要な分析手法の確認などを行い、博士論文執筆に向けたサポートを行う。
15-28	学会発表、論文の執筆など	これまでの講義を基に、博士論文執筆に向けた学会発表、査読付き論文の執筆を進める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ収集、国内外の先行研究の把握など。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

個人発表、論文の執筆状況など総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline (in English)】

The seminar will be run in order to accomplish doctoral thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

MAN710R1

産業政策特殊研究Ⅱ

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。受講生の要望に応じて、行動経済、行動ファイナンス、マクロ・ミクロ経済学、金融工学、モダンポートフォリオセオリー、マーケティング、産業・経済政策などの観点から、どのように研究を進めるか、指導を行う。

【到達目標】

- ①博士論文作成のための基礎的な知識を習得する
- ②研究に必要な理論、先行研究レビューや調査分析手法を習得する
- ③調査分析結果の考察方法（定量・定性分析など）を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。特に、博士課程で研究対象とする分野、テーマなどの確認を行う。
2	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文献研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14	まとめ	これまでのゼミでの議論、報告などを基に疑問点、必要な分析手法の確認などを行い、博士論文執筆に向けたサポートを行う。
15-28	学会発表、論文の執筆など	これまでの講義を基に、博士論文執筆に向けた学会発表、査読付き論文の執筆を進める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ収集、国内外の先行研究の把握など。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

個人発表、論文の執筆状況など総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline (in English)】

The seminar will be run in order to accomplish doctoral thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

MAN720R1

産業政策特殊研究Ⅲ

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。受講生の要望に応じて、行動経済、行動ファイナンス、マクロ・ミクロ経済学、金融工学、モダンポートフォリオセオリー、マーケティング、産業・経済政策などの観点から、どのように研究を進めるか、指導を行う。

【到達目標】

- ①博士論文作成のための基礎的な知識を習得する
- ②研究に必要な理論、先行研究レビューや調査分析手法を習得する
- ③調査分析結果の考察方法（定量・定性分析など）を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。特に、博士課程で研究対象とする分野、テーマなどの確認を行う。
2	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文献研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14	まとめ	これまでのゼミでの議論、報告などを基に疑問点、必要な分析手法の確認などを行い、博士論文執筆に向けたサポートを行う。
15-28	学会発表、論文の執筆など	これまでの講義を基に、博士論文執筆に向けた学会発表、査読付き論文の執筆を進める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ収集、国内外の先行研究の把握など

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

個人発表、論文の執筆状況など総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline (in English)】

The seminar will be run in order to accomplish doctoral thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

MAN700R1

企業経営特殊研究 I

井上 善海

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次は、博士論文執筆に必要な知識・スキルの習得を目指します。具体的には、博士論文の全体構成を組み立て、先行研究レビューを行い、その限界と批判を示していただきます。また、修士論文をベースとした学会発表、投稿論文執筆に取り組んでいただきます。

【到達目標】

- ①博士論文執筆に必要な知識・スキルを習得できている。
- ②博士論文の全体構成を組み立て、先行研究レビューを行い、その限界と批判を示すことができている。
- ③修士論文をベースとした学会発表、論文投稿ができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心に進めていきますが、他のメンバーとの議論を行うことによって、研究内容を高めるとともに、情報共有を行います。また、研究内容と関連する学会への出席、研究報告、論文投稿も積極的に行っていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前半演習ガイダンス	前半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2	博士論文全体構成① 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
3	博士論文全体構成② 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自が関心を持つ研究内容に関する発表と討議を行う。
4	博士論文全体構成③ 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自が関心を持つ研究内容に関する発表と討議を行う。
5	博士論文全体構成④ 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自が関心を持つ研究内容に関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの設定① 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究テーマの設定② 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究テーマの設定③ 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	研究テーマの設定④ 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	先行研究レビュー① 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
11	先行研究レビュー② 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
12	先行研究レビュー③ 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
13	先行研究レビュー④ 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
14	前半まとめ	前半の演習の中間まとめを行う。到達目標の進捗状況を確認し、後半の演習の準備を行う。
15	後半演習ガイダンス	後半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
16	先行研究の限界と批判① 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。
17	先行研究の限界と批判② 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。

18	先行研究の限界と批判③ 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。
19	先行研究の限界と批判④ 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。
20	学会研究報告準備① 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
21	学会研究報告準備② 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
22	学会研究報告準備③ 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
23	学会研究報告準備④ 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
24	投稿論文準備① 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
25	投稿論文準備② 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
26	投稿論文準備③ 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
27	投稿論文準備④ 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
28	後半まとめ	到達目標の達成状況の確認を行い、2年次への準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】

各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（40%）、研究発表内容（60%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The first year aims to acquire knowledge and skills necessary for writing a doctoral thesis. Specifically, we will assemble the overall composition of the doctoral dissertation, conduct a prior research review, and show its limitations and criticism. In addition, we will work on writing conference presentations based on master's thesis and writing submitted manuscripts.

MAN710R1

企業経営特殊研究Ⅱ

井上 善海

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年次は、博士論文執筆に本格的に取り組んでいただきます。具体的には、博士論文の仮説の設定、定量調査、定性調査、フィールドワークなどを行います。また、学会発表、投稿論文も積み重ねていきます。

【到達目標】

①博士論文の仮説設定、定量調査、定性調査、フィールドワークなどができている。

②複数の学会での発表、投稿論文ができている。

③博士論文の草稿ができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心に進めていきますが、他のメンバーとの議論を行うことによって、研究内容を高めるとともに、情報共有を行います。また、研究内容と関連する学会への出席、研究報告、論文投稿も積極的に行っていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前半演習ガイダンス	前半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2	仮説の設定① 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
3	仮説の設定② 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
4	仮説の設定③ 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
5	仮説の設定④ 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
6	定量調査① 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
7	定量調査② 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
8	定量調査③ 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
9	定量調査④ 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
10	定性調査① 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
11	定性調査② 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
12	定性調査③ 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
13	定性調査④ 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
14	前半まとめ	前半の演習の中間まとめを行う。到達目標の進捗状況を確認し、後半の演習の準備を行う。
15	後半演習ガイダンス	後半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
16	フィールドワーク① 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。
17	フィールドワーク② 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。

18	フィールドワーク③ 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。
19	フィールドワーク④ 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。
20	調査分析① 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
21	調査分析② 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
22	調査分析③ 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
23	調査分析④ 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
24	考察① 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
25	考察② 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
26	考察③ 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
27	考察④ 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
28	後半まとめ	到達目標の達成状況の確認を行い、3年次への準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】

各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（40%）、研究発表内容（60%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

In the second year, you will be making full efforts to write the doctoral dissertation. Specifically, we set up hypotheses of doctor thesis, quantitative survey, qualitative survey, field work etc. We will also hold congress presentations and contributed papers.

MAN720R1

企業経営特殊研究Ⅲ

井上 善海

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年次は、博士論文の完成を目指します。具体的には、博士論文の完成度を高めるため、学会発表、投稿論文を積み重ねていきます。

【到達目標】

- ①博士論文の全体構成のバランスがとれている。
- ②複数の学会での発表、論文投稿ができています。
- ③博士論文が完成している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心に進めていきますが、他のメンバーとの議論を行うことによって、研究内容を高めるとともに、情報共有を行います。また、研究内容と関連する学会への出席、研究報告、論文投稿も積極的に行っていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前半演習ガイダンス	前半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2	博士論文執筆指導① 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
3	博士論文執筆指導② 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
4	博士論文執筆指導③ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
5	博士論文執筆指導④ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
6	博士論文執筆指導⑤ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
7	博士論文執筆指導⑥ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
8	博士論文執筆指導⑦ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
9	博士論文執筆指導⑧ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
10	博士論文執筆指導⑨ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
11	博士論文執筆指導⑩ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
12	博士論文執筆指導⑪ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
13	博士論文執筆指導⑫ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
14	前半まとめ	前半の演習の中間まとめを行う。到達目標の進捗状況を確認し、後半の演習の準備を行う。
15	後半演習ガイダンス	後半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
16	博士論文完成度向上① 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
17	博士論文完成度向上② 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
18	博士論文完成度向上③ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。

19	博士論文完成度向上④ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
20	博士論文完成度向上⑤ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
21	博士論文完成度向上⑥ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
22	博士論文完成度向上⑦ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
23	博士論文完成度向上⑧ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
24	博士論文完成度向上⑨ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
25	博士論文完成度向上⑩ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
26	博士論文完成度向上⑪ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
27	博士論文完成度向上⑫ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
28	後半まとめ	到達目標の達成状況の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】

各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The third year aims to complete the doctoral thesis. Specifically, in order to raise the degree of completion of the doctoral thesis, I will accumulate academic presentations and submitted papers.

MAN700R1

CSR 特殊研究 I

小方 信幸

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目の目的は博士論文執筆に必要な知識とスキルを身に付けることである。その知識とスキルは、研究方法に関する文献からの学びと、先行研究を批判的にレビューすることにより習得が可能となる。また、先行研究レビューを通じ、博士論文の全体構成（リサーチ・デザイン）を構築し、学会発表と投稿論文の準備を開始することが求められる。

【到達目標】

- （1）博論執筆に必要な知識とスキルを習得することができる。
- （2）先行研究を批判的にレビューすることができる。
- （3）リサーチ・デザインを構築することができる。
- （4）学会発表および学術誌への投稿の準備を開始することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心とする。また、博士課程在籍者との情報共有を行うよう指導する。さらに、修士課程在籍者の指導を通じて、自らの研究テーマの理解を深め、研究の質を高めることを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究指導	（1）博士論文の全体像 （2）先行研究レビューの進め方
1 - 14	研究指導 個人研究発表	（1）博士論文の構成 （2）先行研究レビュー
15 - 28	研究指導 個人研究発表	（1）学会発表、投稿論文の準備 （2）先行研究レビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究に必要な資料を毎回配布する。

【参考書】

個人別に研究内容にあったものを都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標（1）から（4）を基準に進捗状況をみて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況についての発表機会を前年度以上に増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help doctoral students acquire the knowledge and skills necessary for writing a doctoral dissertation. Those knowledge and skills could be acquired by learning from the literature on research methods and critically reviewing previous research. Students are also required to establish the research design of the doctoral dissertation and start preparations for presentation at the conference and for submission papers to academic journals.

MAN710R1

CSR 特殊研究Ⅱ

小方 信幸

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目では、学生が研究計画に沿って調査・分析を行い、学会発表と学術誌への投稿を行うことを目的とする。また、論文執筆と並行して先行研究の批判的なレビューも求められる。

【到達目標】

- （１）学会発表および学術誌への投稿ができる。
- （２）先行研究を批判的にレビューすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心とする。また、博士課程在籍者との情報共有を行うよう指導する。さらに、修士課程在籍者の指導を通じて、自らの研究テーマの理解を深め、研究の質を高めることを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 - 14	個人発表および研究指導	（１）研究テーマの調査・分析 （２）学会発表の準備 （３）先行研究レビュー
15 - 28	個人発表および研究指導	（１）研究テーマの調査・分析 （２）学会発表および投稿論文の準備 （３）先行研究レビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究に必要な資料を毎回配布する。

【参考書】

個人別に研究内容にあったものを都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標（１）および（２）を基準に進捗状況をみて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況についての発表機会を前年度以上に設ける。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help doctoral students to conduct surveys and analyzes according to the research plan, to make presentations at academic conferences and to submit papers to academic journals. Critical review of prior research is also required in parallel with writing the submission papers.

MAN720R1

CSR 特殊研究Ⅲ

小方 信幸

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目の目的は学生が博士論文を完成することである。

【到達目標】

- （１）学術誌に査読付きで採用される論文を書くことができる。
- （２）先行研究を批判的にレビューすることができる。
- （３）博士論文を完成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心とする。また、博士課程在籍者との情報共有を行うよう指導する。さらに、修士課程在籍者の指導を通じて、自らの研究テーマの理解を深め、研究の質を高めることを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 - 14	個人発表および研究指導	（１）博士論文の進捗状況 （２）学会発表および投稿論文 （３）先行研究レビュー
15 - 28	個人発表および研究指導	（１）博士論文の進捗状況 （２）先行研究レビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究に必要な資料を毎回配布する。

【参考書】

個人別に研究内容にあったものを都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標（１）～（３）を基準に進捗状況をみて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況についての発表機会を前年度以上に設ける。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help doctoral students submit their doctoral dissertation.

ARSI700R1

地域社会政策特殊研究 I

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、査読論文の作成を目指す。

【到達目標】

地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、論文執筆のスキルを習得する。修士論文の再検討と査読論文の執筆を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
第 2 回	論文作成に向けた個別指導 研究テーマ	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 3 回	論文作成に向けた個別指導 研究テーマ	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 4 回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 5 回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 6 回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 7 回	論文作成に向けた個別指導 RQ の設定	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 8 回	論文作成に向けた個別指導 RQ の設定	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 9 回	論文作成に向けた個別指導 分析手法の検討	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 10 回	論文作成に向けた個別指導 分析手法の検討	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 11 回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 12 回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 13 回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 14 回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各自の研究テーマに合わせて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ARSI710R1

地域社会政策特殊研究Ⅱ

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、博士論文の作成を目指す。

【到達目標】

地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、査読論文の投稿及び掲載を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
第 2 回以降	論文作成に向けた個別指導 文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 3 回	論文作成に向けた個別指導 文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 4 回	論文作成に向けた個別指導 統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 5 回	論文作成に向けた個別指導 統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 6 回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 7 回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 8 回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 9 回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 10 回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 11 回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 12 回	論文作成に向けた個別指導 結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 13 回	論文作成に向けた個別指導 結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
第 14 回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各自の研究テーマに合わせて指定する

【成績評価の方法と基準】

授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

査読論文執筆に向けた具体的な指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ARSI720R1

地域社会政策特殊研究Ⅲ

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、博士論文の作成を目指す。

【到達目標】

地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、査読論文を基に博士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
第 2 回	論文作成に向けた個別指導 博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 3 回	論文作成に向けた個別指導 博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 4 回	論文作成に向けた個別指導 博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 5 回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 6 回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 7 回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 8 回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 9 回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 10 回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 11 回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 12 回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 13 回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
第 14 回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各自の研究テーマに合わせて指定する

【成績評価の方法と基準】

授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ECN590R1

経済政策特殊講義（実証分析入門）

柿野 成美

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイント把握するための読解力を養成することが目的である。

【到達目標】

1. 実証研究論文の構成と作法を理解すること、2. 先行研究の分析結果の読み方を習得すること、3. 各自が今後執筆する論文に関わる実証研究の先行研究を読み進められるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実証分析を行っている査読論文を選び、グループで論文のポイントとなる分析手法や結論の読み方を紐解き、論点を明確にする。授業で扱う論文を事前に配布するので、受講者は目を通してから講義に臨むこと。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 実証分析の基礎	実証分析の基本的な考え方について理解する。
2	人材育成・教育に関する実証分析論文の検討	人材育成・教育に関する論文を用いて、分析手法及び内容の検討を行う。
3	福祉に関する実証分析論文の検討	福祉に関する論文を用いて、分析手法及び内容の検討を行う。
4	生活経済に関する実証分析論文の検討	生活経済に関する論文を用いて、分析手法及び内容の検討を行う。
5	消費生活に関する実証分析論文の検討	消費生活に関する論文を用いて、分析手法及び内容の検討を行う。
6	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。
7	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究分野に関する雑誌（査読論文が望ましい）にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧める。

【テキスト（教科書）】

教科書はなく、教材を毎回配布する。教材は優れた実証分析で構成された学術論文を予定している。

【参考書】

大湾秀雄（2017）『日本の人事を科学する』日本経済新聞出版社
中室牧子、津川友介（2017）『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社
森田果（2014）『実証分析入門』日本評論社
山口慎太郎（2019）『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書

山本勲（2015）『実証分析のための計量経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %

期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学術雑誌にアクセスし論文検索ができるパソコン。

【その他の重要事項】

教材で取り上げる論文は、回帰分析、個票分析、プロビット分析などの量的分析手法を用いる研究が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical research on human resources, education, welfare, living economy, and consumer life.

ARSI590R1

経済政策特殊講義（消費者政策論）**柿野 成美**

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、公正で持続可能な社会に向けた今後の在り方について検討する。

【到達目標】

身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解できるようになる。また、残された課題について議論し、今後の在り方について検討することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義ではゲストスピーカーによる講義や現地調査を取り入れる。授業の後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2	消費者政策の基本的な法制度と消費生活相談	消費者政策の基本的な法制度と消費生活相談の具体事例を学ぶ。
3	地方消費者行政の実態	東京都消費生活総合センター（飯田橋）を訪れ、消費者行政の現状と課題について学ぶ。
4	消費者の自立支援	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
5	消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
6	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連ある諸課題に関心を持つようにすること。

【テキスト（教科書）】

『日本の消費者政策—公正で健全な市場をめざして—』樋口一清・井内正敏、創成社、2020 年、2500 円

【参考書】

『くらしの豆知識 2021』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合

『消費者事件 歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015 年

『消費者教育の未来—分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019 年

【成績評価の方法と基準】

レポート課題：50 %、平常点：50 %
毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】**【Outline (in English)】**

This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

ARSI590R1

経済政策特殊講義（生活政策論）

柿野 成美

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では消費者の立場から生活政策を捉え、公正で持続可能な社会の形成に向けた生活政策の実現に資する基本的な理論について学ぶと共に、具体事例を通じて地域政策の在り方について議論することを目的とする。

【到達目標】

消費者の視点から生活政策を捉え、連携・協働によって実現した地域政策について理解することができる。また、自らの足元から課題を捉え、それを解決するための道筋について検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義では具体的事例を紹介し、ゲストスピーカーによる講義も取り入れる。授業の後半では、各自で生活に関わる諸政策について課題を設定し、その解決の方向性について発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	公正で持続可能な社会の実現に向けた生活政策が求められる背景や、その課題について理解する。
第 2 回	課題の発見と解決策へのアプローチ	本講義の主要な概念として、連携・協働、コーディネーター、実践コミュニティ等の考え方等について理解する。
第 3 回	事例 1：企業と消費者の共創	地域企業と小学生の親子を対象としたプログラム「SDGs 調査隊」を事例として、企業と消費者の共創の在り方について検討する。
第 4 回	事例 2：子供や若者の自立支援（消費者教育）	教育行政との連携を目的とした「消費者教育コーディネーター」を事例として、分断を乗り越える方策について議論する。
第 5 回	事例 3：市民協働によるエシカル・サステナブルな地域づくり	地域でエシカル・サステナブルに取り組むゲストスピーカーの講義を聞き、課題解決の方法について議論する。
第 6 回	発表・討議	生活政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
第 7 回	発表・討議・まとめ	生活政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。「生活に関する政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し発表する。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

○政府の白書
内閣府「高齢社会白書」「少子社会対策白書」「子供・若者白書」「障害者白書」「経済財政白書」
厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」
環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」
消費者庁「消費者白書」等
○『消費者教育の未来—分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019 年

【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加度（50 %）、最終レポート（50 %）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the basic concepts that contribute to the realization of livelihood policies for the formation of a fair and sustainable society and to discuss the state of regional policies through specific examples.

MAN590R1

雇用政策特殊講義（雇用政策研究（マクロ））

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般（マクロ）について検討する。少子高齢化、グローバル化、知識基盤社会化のなかで、雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または、これらに興味のある人を念頭に、雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する。ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも、雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本の雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義を進めたのち、関連した課題をめぐる、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	ーそもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前だと思っている雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探索。
2	日本の雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本の雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか？
3	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？さらに、労働市場の基本構造を考える
4	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発とながら違うのか？環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える
5	非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍兼業・副業など柔軟な働き方	非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える
6	兼業・副業と雇用によらない働き方	兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。
7	ミドル・シニアの働き方とまとめ	日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。

1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しないが、以下に掲げる 7 冊から 1 冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）。このほか別途に挙げる主な参考書、授業でその都度、必要に応じて紹介する文献などを参照していただく。また、毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定。

1. ビーター・キャベリ（若山由美訳）『雇用の未来』日本経済新聞社, 2001 年
2. 清家篤『雇用再生—持続可能な働き方を考える』NHK 出版, 2013 年
3. 山田久『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会, 2016 年
4. 永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社, 2017 年
5. 玄田有史『30 代の働く地図』岩波書店, 2018 年
6. 山田久『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社, 2020 年
7. 川上淳之『副業の研究』慶応義塾大学出版会, 2021 年

【参考書】

- ・労働経済白書
- ・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、② 2500 字以上の長さの科目レポートの得点（65 点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する。ただし、これ以外に、必須の小レポートとして、書評レポートを課す。終了時に提出を求める科目レポートは、授業内容を自分なりに消化し、できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい。

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 65%, in class contribution: 35%

【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出しか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.

MAN590R1

雇用政策特殊講義（人的資源管理論）

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本の雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本の雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
第 2 回	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
第 3 回	日本の雇用と職務	変化しつつある日本の雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。
第 4 回	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。
第 5 回	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
第 6 回	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
第 7 回	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけでなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的に読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】

石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社,2020 年

石山恒貴『組織内専門人材のキャリアと学習』生産性労働情報センター 2013 年

石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版,2018 年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回あたり 5 点満点で計 35 点満点）、②受講者による事例発表の得点（65 点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にしていただくべく、豊富な事例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなど PC を使うことがある。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.

MAN590R1

雇用政策特殊講義（人材育成論）**石山 恒貴**

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ、日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4	実践共同体と越境の学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
6	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】

労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016 年

石山恒貴『越境の学習のメカニズム』福村出版、2018 年

石山恒貴『パラレルキャリアを始めよう』ダイヤモンド社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、②各自が分担する事例発表の得点（65 点満点）で、両者を足した総得点による。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

MAN590R1

雇用政策特殊講義（地域雇用政策事例研究）**石山 恒貴**

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJ ターンを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3	地域のサードブレイスと関係人口	ゲスト講師の可能性もある。地域においては、その活性化においてサードブレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 2）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 3） 地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1. いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実際に調べることに（その成果を授業中に発表していただく）
2. 地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

1. 松永桂子 『創造的地域社会』 新評論 2012 年
2. 伊藤実ほか 『地域における雇用創造』 雇用開発センター 2008 年
3. 玉沖仁美 『地域をプロデュースする仕事』 英治出版 2012 年
4. 石山恒貴『パラレルキャリアを始めよう』 ダイアモンド社 2015 年
5. 石山恒貴編『地域とゆるくつながろう－サードブレイスと関係人口の時代』静岡新聞社 2019 年

【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65 点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジュメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Regional Employment Policy.

ARSI590R1

地域社会政策特殊講義（ウェルビーイング論）

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングな状態で生活し、働くために地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

【到達目標】

ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、EBPM（根拠に基づく政策形成）に資する政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、地域や企業における実践についてワークショップや討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
第 2 回	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング（幸福）に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
第 3 回	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策を学び、政策のあり方について議論する。
第 4 回	お金とウェルビーイング（ワークショップ）	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
第 5 回	企業におけるウェルビーイング	健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
第 6 回	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。
第 7 回	課題発表	各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策（方策）について発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ウェルビーイング（幸福、健康）は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

内田由紀子『これからの幸福について 文化的幸福観のすすめ』2020 年、新曜社
 大竹文雄、白石小百合、筒井義郎『日本の幸福度 格差・労働・家族』2010 年、日本評論社
 小塩隆士『「幸せ」の決まり方 主観的厚生と経済学』2014 年、日本経済新聞社
 キャロル・グラハム（多田洋介訳）『幸福の経済学』2013 年、日本経済新聞出版社
 経済協力開発機構『OECD 幸福度白書 2—より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015 年、明石書店
 島井哲志『幸福の構造—持続する幸福感と幸せな社会づくり あなたの幸せは何に左右されているか？』2015 年、有斐閣
 橋本俊詔『「幸せ」の経済学』2013 年、岩波書店
 友原章典『会社ではネガティブな人を活かさない』2021 年、集英社新書
 ブルーノ・S・フライ（白石小百合訳）『幸福度をはかる経済学』2012 年、NTT 出版

デレック・ボック（土屋 直樹、茶野 努、宮川 修子 訳）『幸福の研究—ハーバード元学長が教える幸福な社会』2011 年、東洋経済新報社
 前野隆司『幸せのメカニズム—実践・幸福学入門』2013 年、講談社現代新書
 矢野和男『文庫 データの見えざる手 ウェアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018 年、草思社文庫
 矢野和男『予測不能の時代 データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』2021 年、草思社
 山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019 年、光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加・貢献）（30 %）、各回の課題（20 %）、最終レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新設科目のため該当しない

【Outline (in English)】

In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being, taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

ARSI590R1

地域社会政策特殊講義（少子高齢化と社会保障）

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の人口減少、少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっている。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の背景と経済、社会、地域への影響、財政悪化の最大の要因となっている社会保障費の増加にどのように対応すればよいのか等について議論し、政策提言に必要な知識及び視点を得る。

【到達目標】

日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解するとともに、社会保障の基本的な考え方と年金、医療、介護等の現状について基礎的な知識を習得し、政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

日本及び各国の少子高齢化と社会保障の現状と課題について、できるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、課題解決の方法について討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人口構造の変化と将来展望	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。アジア地域の少子高齢化についても議論する。
第 2 回	少子化の背景と子育て支援策	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
第 3 回	人口構造の変化と社会保障	日本の高齢化の現状と経済への影響及び社会保障の基本的な考え方について議論する。生活保護、ベーシックインカムについても議論する。
第 4 回	人口構造の変化と年金制度	日本の年金制度創設の背景、制度改革の内容、各国の年金制度の比較等を提示し、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
第 5 回	高齢化と医療政策	日本の医療の特徴、制度改革の内容、各国の医療の比較等を提示し、どのような医療政策が望ましいのか、議論する。
第 6 回	高齢化と介護政策	公的介護保険創設の背景と介護の現状及び課題について提示し、どのような介護政策が望ましいか、議論する。
第 7 回	課題発表	各自の関心あるテーマについて発表と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少子高齢化、社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくことに役立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

○政府の白書等
内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」厚生労働省「厚生労働白書」
○その他
エスビノー アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
阿部彩『子どもの貧困』岩波新書
池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫
大竹文雄・平井啓（編著）『医療現場の行動経済学 すれちがう医者と患者』東洋経済新報社
大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書
小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社
河野稠果『人口学への招待』中公新書
小峰隆夫『人口負荷社会』日経プレミアシリーズ
柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房
友原章典『移民の経済学』中公新書

永吉希久子『移民と日本社会』中公新書

山口慎太郎『子育て支援の経済学』日本評論社

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書

山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』中公新書

吉川洋『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加）（30 %）、各回の課題（20 %）、最終レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディベート形式のディスカッションを取り入れ、学生の多様な意見を授業に活かす。

【Outline (in English)】

This course deals with the problems of Japan's declining birthrate and aging population, population decline, we discuss its background and its impact on economy and society. Students will discuss what policies are desirable for social security such as pension, medical care, nursing care etc.

ARSI590R1

地域社会政策特殊講義（地域活性化システム論）

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師（内閣府をはじめとした関係省庁の政策担当者、民間専門家）が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学外講師（関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家）とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は Zoom によるオンラインと対面を併用して実施する。毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカッションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム（RESAS）を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。

地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している（2017 年度：多様な人材の活躍、2018 年度：世界とつながる、2019 年度：人を育てる、2020 年度：都市と地方、2021 年度：地域のウェルビーイング）。2022 年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。

参考までに、以下に 2021 年度の内容を記す（講師の肩書きは講義時のもの）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義 受講生によるディスカッション 1 担当教員によるまとめ	「地方創生の推進について」 内閣府地方創生推進室 参事官補佐 野村雅之氏
2	講義 受講生によるディスカッション 2 担当教員によるまとめ	「地方創生と RESAS（地域経済分析システム）」株式会社価値総合研究所 執行役員 パブリックコンサルティン グ第一事業部部長 主席研究員 鴨志田武史氏
3	講義 受講生によるディスカッション 3 担当教員によるまとめ	特定非営利法人 土佐山アカデミー事務局長 吉富慎作氏 「遊びと学びの境界をなくす 地域資源を活かした学び」
4	講義 受講生によるディスカッション 4 担当教員によるまとめ	叡啓大学 ソーシャルシステムデザイン学部学部長 教授 保井俊之氏 「地域の幸せ（ウェルビーイング）とソーシャルデザイン」
5	講義 受講生によるディスカッション 5 担当教員によるまとめ	明治大学客員教授 農業ジャーナリスト 榊田みどり氏 「農村と都市のウェルビーイングにむけて」
6	講義及び対談 受講生によるディスカッション 6 担当教員によるまとめ	「日本ワインと地域の力」 信州大学特任教授 フード&ワインジャーナリスト 鹿取みゆき氏 明治大学客員教授 農業ジャーナリスト 榊田みどり氏 「コロナ禍から考える日本の農業の現状とこれから」
7	受講生による発表 担当教員によるまとめ	各自が対象地域を設定し、分析に基づく地域活性化の方策について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

前野隆司編著『システム × デザイン思考で世界を変える』日経 BP 社
木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (1/3)、授業への貢献 (1/3)、発表の内容 (1/3) を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

Zoom のブレイクアウト・セッションの利用による講師とのディスカッションが好評だったため、地方在住の講師を招いてディスカッションできるよう、オンラインと対面を併用した講義とする。

【学生が準備すべき機器他】

PC を接続して画面をスクリーンに表示できる設備

DVD の動画番組をスクリーンに表示できる設備

【その他の重要事項】

※オンライン授業の受講方法は学習支援システムに表示します。

※講義概要は講師の都合等により変更がある場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

ARSx590R1

都市政策特殊講義（地域社会論）

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会とまちづくり：地域まちづくりの観点から地域社会を考えます。

【到達目標】

地域社会を形成している諸要素（計画、ルール、コミュニティ、住民参加等）を認識しつつ、良好な地域社会が具体的にできあがるまでのシステムとプロセスを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

地域社会学のポイントを押さえながら、特に「まちづくり」の観点から具体的な事例を通して実践的な視点を養います。授業の一部に替えて視察を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	はじめに	本授業で取り扱う範囲及び地域社会学の概論（理論と方法）について話します。
2.	都市と農村	「都市と農村」の分野の中から、特に「都市」における「混住地域」などをテーマに授業を進めます。事例研究 (1)
3.	空間と場所	人が「都市」という場・空間でどのように生きているのかということについて、「サステナブル・シティ」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (2)
4.	リージョンとコミュニティ	地域社会学における基本理念である「リージョンとコミュニティ」の分野の中から「地域社会とまちづくり」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (3)
5.	分権と自治	地域社会形成を考える上で重要なテーマである「分権と自治」について、自治体研究を行い、同時に「地方分権権」や「参加」、「ルール」等について考えます。事例研究 (4)
6.	開発と福祉	「開発と福祉」というテーマは、地域社会学の研究の中でも応用的な研究になりますが、特に「再開発」や「福祉のまちづくり」といったことに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (5)
7.	土地と環境	論点幅広い「土地と環境」の中でも、特に「都市計画」や「景観」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (6)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、発言 20%、レポート 30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が一層活発に議論が展開できるような内容の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

皆さんがこれから進めていく研究や論文を書くためのヒントを少しでも多く与えられればと考えています。受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces local community and community development to students taking this course.

【Learning Objectives】

1. Recognize the elements that make up the community (plans, rule communities, community participation, etc.).

2. Understand the systems and processes that lead to the concrete formation of a good community.

[Learning activities outside of classroom]

Please read the materials to be distributed.

[Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSx590R1

都市政策特殊講義（都市空間論）

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市空間の成立条件（構成要素、計画、ルール、プロセス等）について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

【到達目標】

都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践（実務）の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	(1) 地域社会における都市空間 (2) 都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1)「まちづくり」とは (2) 都市化と都市問題
2	(1) 都市空間の構成要素 (2) 都市空間を実現するための手段	(1) 建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2) 計画、ルール、事業 等
3	(1) 都市空間の形成プロセス (2) 都市空間の規制手法1	(1) 市民参加と合意形成 等 (2) ゾーニングの歴史と理論
4	(1) 都市空間の規制手法2 (2) 都市空間における景観	(1) ゾーニングと地区まちづくり (2) 景観コントロール
5	(1) 都市空間の開発手法 (2) 都市空間の再生	(1) 都市再開発の仕組み 等 (2) 中心市街地の活性化
6	(1) 都市空間の評価手法 (2) 事例研究1（事業）	(1) 評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2) 土地区画整理事業、再開発事業、密集事業 等
7	(1) 事例研究2（制度） (2) 事例研究3（テーマ型）	(1) 地域地区、地区計画 等 (2) 水辺空間の再生（国内・海外事例）等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料を読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、事例紹介が学生にとって有効であるため、今年度もできるだけ多くの事例（現地視察を含む）を授業に取り入れたいと考えています。

【その他の重要事項】

受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】**[Course Outline]**

In this course, you will learn about the conditions for establishing urban space (components, plans, rules, processes, etc.) and develop the ability to form urban space.

[Learning Objectives]

This course will help you understand the basics of urban space needed for urban policymaking.

[Learning activities outside of classroom]

Please read the materials to be distributed.

[Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSx590R1

都市政策特殊講義（比較都市事例研究）

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の都市（地域、地区）を取り上げ、相互比較しながら都市の現状と都市が抱えるさまざまな課題等について考察します。

【到達目標】

都市分析の多角的な視点を獲得すると同時に、比較研究の基本を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回事例研究を行うとともに、学生による発表を行います。その後、特定テーマに関してディカッションを全員で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと講義	都市比較の要点
第 2 回	事例研究1：事例紹介と作業（対象地域に関する資料収集）	事例紹介、質疑応答とディスカッション、対象地域に関する資料収集
第 3 回	事例研究2：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）作成
第 4 回	中間発表	作成途中の作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）について学生による中間発表、質疑応答、ディスカッション
第 5 回	事例研究3：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）作成
第 6 回	事例研究4：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）の説明（発表）、質疑応答、ディスカッション、講評
第 7 回	最終発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査対象地に関する資料収集とフィールドワーク

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、発言 20%、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター製作）30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生が作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）製作に時間がさけるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】**[Course Outline]**

This course introduces the present condition and issues of cities by comparing cities (regions and districts).

[Learning Objectives]

At the same time as acquiring a multifaceted perspective on urban analysis, you will acquire the basics of comparative research.

[Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Work production(30%).

ARSI590R1

文化政策特殊講義（都市文化論）

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

【到達目標】

都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では 1960 年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に上げていく。文化面が強調されていくのは 1980 年代以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテキスト分析型の都市論、そして 1990 年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置（劇場、映画館、カフェなど）にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	ガイダンスと都市論の系譜/Genealogy of guidance and urban studies	都市文化に関する基礎知識/Basic knowledge about urban culture
3,4	近代においての都市形成と博覧会の果たした役割/The role played by urban formation and expositions in modern times	都市形成とイベント/City formation and events
5,6	「考現学入門」解説とカフェ論/Deciphering "Introduction to Thinking and Learning" and Cafe Theory	フィールドワークの事例紹介と都市文化装置としてのカフェ/Case study of fieldwork and cafe as an urban cultural device
7,8	百貨店論、東京への文化的装置の集中/Department store theory, concentration of cultural equipment in Tokyo	都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程/Department store as an urban cultural device, the process of concentrating cultural devices in Tokyo
9,10	東京への文化的装置の集中、映画や小説の中の東京/Concentration of cultural equipment in Tokyo, Tokyo in movies and novels	文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容/The process of concentration of cultural equipment in Tokyo, the transformation of Tokyo seen in movies and novels
11,12	アジアの諸都市/Asian cities	アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ/Look at the cultural transformations of Asian cities, eg Bangkok, Manila
13,14	都市と異文化受容、都市というメディア/The media of cities, cross-cultural acceptance, and cities	異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ/Transformation of urban culture by accepting different cultures, approach to seeing cities as media

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用

【参考書】

授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】

PC/DVD の使用もある。

【その他の重要事項】

多少、内容等が変わる可能性もある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 - 18 時。

【Outline (in English)】

Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinarily, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

ARSI590R1

文化政策特殊講義（コンテンツツーリズム論）

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来のいえば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンがコンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方でもできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特にコンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

観光文脈でのコンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。またコンテンツ作品そのものの紹介も行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	ガイダンス、コンテンツ・ツーリズム概要/Guidance and Content Tourism Overview	ガイダンス、コンテンツツーリズムの定義/Guidance, Content-Definition of Rhythm
3,4	コンテンツ・ツーリズムの歴史、『北の国から』の魅力/History of content tourism, the charm of "From the North Country"	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯、テレビドラマによる観光創出の事例紹介/Introducing the history of content tourism and examples of tourism creation through TV dramas
5,6	大河ドラマの魅力、韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/The charm of the taiga drama, the charm of the Korean drama "Winter Sonata"	テレビドラマによる観光創出の事例紹介、韓流ブーム/Introducing examples of tourism creation through TV dramas, Korean cultural boom
7,8	「水木しげるロード」ができた理由、『らき☆すた』現象/The reason why "Mizuki Shigeru Road" was created, the "LuckiStar" phenomenon	マンガ、アニメによる観光創出、アニメツーリズム/Tourism creation through manga and anime, anime tourism
9,10	司馬遼太郎と藤沢周平、コンテンツがつくるイメージ/Ryotaro Shiba and Shuhei Fujisawa, the image created by the content	歴史小説及びその映像化による観光創出の事例紹介、イメージの形成について/Introducing examples of tourism creation through historical novels and their visualization, and forming images
11,12	ご当地ソング考、『鬼滅の刃』を巡る/Around the local song, "Kimetsu no Yaiba"	ご当地ソングによる観光創出、小説のツーリズム具体例/Tourism creation by local songs, concrete examples of novel tourism
13,14	新海誠作品を巡る、長井龍雪作品を巡る/Makoto Shinkai's work, Ryusetsu Nagai's work	現在のアニメツーリズムの動向、インバウンド観光への影響/Current trends in anime tourism, impact on inbound tourism

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之、彩流社

「物語を旅するひとびと 2」増淵敏之、彩流社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】

多少、内容が変わることもある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 - 18 時。

【Outline (in English)】

Currently, content tourism is attracting attention. Conventionally speaking, "pilgrimage to the Holy Land" will be to be understood, but fans are interested in content works and go through the stage. In this way it will be possible to think that it is not a novelty, but it is important that current content tourism is not only related to the tourism context but also to the revitalization and revitalization of the region. In this lecture, we focus on domestic cases and discuss the development process, the way of capturing the future of the country and the creation of new schemes in the range.

ARSI590R1

文化政策特殊講義（文化地理学）

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行っていく。

【到達目標】

到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的になっている現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効用をもたらしているのかを理解し、説明することができるまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主にして進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	人文地理学と現代社会・人文地理学と地域/ Human Geography and Modern Society・Human Geography and Region	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について/About the position of geography in modern society and the concept of region
3,4	文化地理学入門/Introduction to Cultural Geography	文化地理学のこれまでの流れを説明/Explaining the history of cultural geography
5,6	食文化の地理学/Geography of food culture	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、バウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る/See cultural differences through food culture such as rice balls, Inari sushi, Taiyaki, and Baumkuchen
7,8	文化的地域差についての議論/Discussion of cultural regional differences1	テーマを設定し、学生間での議論を行う/Set a theme and have discussions among students
9,10	言語の地域性と景観の地域性/Regionality of language and regionality of landscape	言語地理学について学び、その後、景観論に言及する/Learn about linguistic geography and then mention landscape theory
11,12	習慣の文化的差異と文化的差異を形成する要因/Cultural differences in customs and the factors that form them	儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について/Cultural differences due to differences in rituals, customs, and customs, and factors that influence cultural differences
13,14	ポピュラーカルチャーの地理学/Geography of popular culture	これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介/Introducing research on popular culture in the field of geography so far

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしていくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

「文化地理学ガイダンス」中川 正、神田 孝治、森 正人、ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことをこころがける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：金 16 - 18 時

【Outline (in English)】

When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARSI590R1

文化政策特殊講義 (文化基盤形成論)

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域にはそれぞれに文化を育てる基盤がある。それは歴史が作ってきたものであり、また他からの文化の流入に注目する必要があるだろう。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。本授業でとくに注目するのはひとつひとつのネットワークである。毎回、事例を用いることによって、各地域の文化基盤形成のメカニズムを明らかにしていきたい。

【到達目標】

学習到達点としては現在、地域の文化基盤形成のプロセス、また文化基盤活用の実践の事例についても理解を促進し、また文化のアーカイブ化の重要性についても言及していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ハードパワーからソフトパワーへの転換が注目され、文化の重要性の認識が高まっている。また地域創生の観点からすれば、地域個々の文化が住民のアイデンティティ創出や集客事業においても注目されている。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。具体的には絵画、映画、小説、マンガ、音楽などのコンテンツに注目し、それらを文化資源と捉え、その萌芽の基盤となるネットワーク形成やコミュニティ形成に注目していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1/2	文化基盤についての歴史地理学的なアプローチの検討/Examining a historical geographic approach to cultural infrastructure	文化基盤の説明と時間と空間の組み合わせでみる文化基盤形成/Explanation of cultural infrastructure and formation of cultural infrastructure by combining time and space
3/4	文士村、芸術家村、学者村/Scholar Village, Yunshujia Village, Scholar Village	田端、馬込、阿佐ヶ谷等、作家の集住による文化基盤形成 to 池袋モンパルナス、法政大学村などの集住による文化基盤形成について/With the formation of a cultural foundation by the settlement of Tabata, Magome, Asagaya, and writers About the formation of cultural foundation by the settlement of Ikebukuro Montparnasse and Hosei University village
5/6	サロンという場とストリートという場/A place called a salon and a place called a street	サロンの形成、その事例紹介/ストリートにおけるコミュニケーション/Salon formation, case studies / street communication
7/8	札幌における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Sapporo	札幌農学校を軸にした文化基盤形成/産業創出への展開/Development of cultural infrastructure formation / industry creation centered on Sapporo Agricultural College
10/11	福岡における文化基盤形成のプロセスと大連における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Fukuoka and the process of forming a cultural foundation in Dalian	ポップミュージックを軸にした文化基盤形成/戦前期大連における日本人の文化ネットワーク/Forming a cultural foundation centered on pop music / Japanese cultural network in prewar Dalian
11/12	海外での文化基盤形成の事例/Examples of cultural infrastructure formation overseas	ロンドン・チェルシー、ニューヨーク・グリニッジビレッジ、ミュンヘン・シュワビング等の紹介/Introducing London Chelsea, New York Greenwich Village, Munich Schwabing, etc.

13/14 履修学生の出身地における文化基盤形成の事例の発表/Presentation of examples of cultural foundation formation in the hometown of students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。13/14 回目に履修学生の発表を行ってもらう。その発表をもとに各自レポート作成、提出のこと。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

今橋映子『異都憧憬 日本人のバリ』平凡社
増淵敏之『湘南の誕生 音楽とポップ・カルチャーが果たした役割』リットーミュージック

【成績評価の方法と基準】

平常点（発表含む）30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

より具体例を挙げ、実務的な視点からも興味の持てる内容にする。適宜、タイムリーな話題提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

新しいアプローチの領域なので、履修学生とともに知見を共有、蓄積していきたい。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 - 18 時。

【Outline (in English)】

Each region has its own culture-growing base. It is a history that has been created, and it will be necessary to pay attention to the influx of culture from others. Of particular interest in this class is the network of people. I would like to clarify the mechanism of cultural base formation in each region by using examples every time.

	TRS590R1 観光政策特殊講義（観光社会学） 須藤 廣 科目分類：博士後期（選択必修） 単位：2 単位 実務教員：						1990 年以降、観光による社会的アイデンティティづくりを重要な手段とするまちづくり運動が各地で行われるようになった。このような運動は 1987 年に施行された「リゾート法」以降の日本の観光のあり方への批判とセットとなっている。こういった「観光まちづくり運動」とは何だったのかを問う。由布院の例を解説する。また、まんがアニメツーリズム、アートツーリズム、ダークツーリズムと観光地の表象について考える。 これまでの講義の結論部分である。受講生と共に社会における観光の「可能性」や「限界」について議論する。最後には、アフターコロナ時代の観光について考える。
第 6 回	ポストモダン社会における観光と参加する観光地住民						
第 7 回	観光は人々を統合するのか、それとも分断するのか？ 現代観光の両義的側面についてー観光における文化創造、観光と権力、政治の両義性						

TRS590R1

観光政策特殊講義（フィールドワーク論）

須藤 廣

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、フィールドワーク（現地調査）の考え方と基本技術を身に付けることを目的とする。基本的に質的調査に軸足を置く。

【到達目標】

フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれをどう生かすかについて学んでもらう。前半は講師のこれまでの研究実績を基にして、座学にて行い、後半は各自の研究テーマに沿った形で実際にフィールドワークを行ってもらい報告してもらい。また、新型コロナ感染の状況次第であるが、合同でフィールドワークも実践する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンスフィールドワークの基本	授業の目的 フィールドワークを資料を用いて理解してもらい理解
2 回目	質的調査と量的調査の考え方と方法	社会調査の事例をみながら、質的と量的調査の基礎的な考え方と位置づけ、それぞれの分析手法を理解する。その上で、調査の全体構成の中で、量的と質的をどのように位置づけていくかについて学ぶ
3 回目	質的調査の実際	質的調査の手順と手法
4 回目	参与観察とは何か	参与観察の実例から学ぶ
5 回目	調査の事前準備 調査論文の実例から学ぶ (学外のゲストスピーカーを呼ぶ予定)	各自調査の事前準備状況を報告 調査論文、報告書の書き方を身につける 特に、観光関係の書籍、論文から、調査の実際について学ぶ
6 回目	各自調査の発表	それぞれが調査結果についてプレゼンテーションを行う
7 回目	まとめー質的調査とは何か	調査の困難な点、問題点について討議をし、解決法を見いだす

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者に座学及び実践を通じてフィールドワークの考え方及び技術を習得してもらうことを目的にするため、事前準備の重要性が極めて重要であることから、授業時間以外に様々な知識や情報を得る努力をしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠藤英樹（編著）（須藤廣が一部著）『フィールドワークの現代思想』ナカニシヤ出版、2022 年。

【参考書】

佐藤郁也（2008）『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社
須藤廣（2008）『観光化する社会—観光社会学の理論と応用』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、レポート 70%

【学生の意見等からの気づき】

学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim to acquire the concept and basic skills of field work (field survey). Basically we focus on qualitative research.

TRS590R1

観光政策特殊講義（ニューツーリズム論）

須藤 廣

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における観光の様態、変動の方向について確かな視点を持つことを先ずこの授業の目標とする。そこから観光のあり方の変容の背後に存在する、国家のレジャー政策、観光産業、文化産業の戦略等を多方面から学修する。観光におけるマスツーリズムからニューツーリズムへの道筋を批判的に捉える力を身につける。

【到達目標】

先進国における観光のあり方はマスツーリズムからニューツーリズム（ポスト・マスツーリズム）へと変化したのであるが、戦後の歴史を見れば、このことはフォーディズム型観光からポストフォーディズム型観光への変化として捉えることができる。そのなかで現代観光の特徴は観光対象が「名所」「旧跡」「名勝」といった固定的なものから、観光客や地元住民が「参加」しつつ、創作するものへと変化してきたことである。また、現代における観光資源の創造は、近代化遺産のような歴史や文化の保護・保全といったものと、テーマパークやコンテンツ・ツーリズム等人工的なものの創造（捏造）の 2 つのタイプに分けられる。しかし、この 2 つは融合しつつ様々なパターンを形成しつつある。これらがどのような意味を持つものなのかを、現代における観光の様々な形態から解き明かしてゆく。また学生には、現代における国内外の「観光政策」の文脈を捉えつつ、それらが正負の価値を持つものとして「両義的」なものとして見る視座を創り上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各授業は 1 回目は講義のみ、2 回目からは各講義の前半部分は講義型を中心に、後半においては学生の発表も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション マスツーリズムから ニューツーリズム（ポスト・マスツーリズム）へ の変化の背景	授業の全容の紹介及び、 フォーディズム体制における国家とレジャーについて、そしてポストフォーディズム体制における観光の変容について講義。
第 2 回	英国の近代とレジャーの 発生、及び観光政策、観 光産業発展史	観光のフォーディズムとポストフォーディズム、前半：マスツーリズム、ニューツーリズムの発生についての講義 後半：老川慶喜『鉄道と観光の近現代史』を読む。
第 3 回	戦前の日本における近代 観光の発展と国家の観光 政策	前半：明治から第 2 次大戦までの観光政策と観光産業の歴史を講義。 後半：平山昇『鉄道が変えた社寺参詣—初詣は鉄道とともに生まれ育った』を読む。
第 4 回	戦後の日本における大衆 消費型マスツーリズムの 形成	前半：東京オリンピック、大阪万博以降、特に「ディズカバージャパン」政策について講義 後半：森彰英『ディズカバージャパンの時代—新しい旅を創造した、史上最大のキャンペーン』を読む。
第 5 回	リゾート（総合保養地域 整備）法と観光パブル 観光における虚構の進展	前半：1980 年代～1990 年代までリゾート法が作った観光パブルとその反省について、及び全国総合開発計画（全総）と観光との関係について講義。 後半：佐藤誠『リゾート列島』、能登路雅子『ディズニールランドという聖地』を読む。
第 6 回	ポストモダン社会におけ る観光が向かう方向につ いて	アートツーリズム、ダークツーリズム、リアリティツーリズム、まんがアニメツーリズムの可能性と限界について考える
第 7 回	ポスト・マスツーリズム 時代における、観光文化 の可能性とその限界につ いて考える	映画「僕たちは世界を変えることができない」「ザ・ビーチ」等から、観光がどの程度コスモポリタンな連帯や自己変革に寄与できるのか、できないのかについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず講義後半で扱う書籍、論文を読んで参加すること

【テキスト（教科書）】

イントロダクションで、受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

須藤廣（2012）『ツーリズムとポストモダン社会—後期近代における観光の両義性』明石書店
その他、授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・ディスカッション等平常点（50％）、レポート（50％）とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【その他の重要事項】

講座の進め方等について初回授業で解説すると同時に、履修者の希望等をヒアリングする。そのため、初回授業は要出席。講義内容は、受講者の関心等に沿って変更することも可能とする。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is for the students to have a clear view point to the changing mode of contemporary tourism. Then students investigate the policies of leisure, tourism, and culture made by national and regional government. This lecture depicts the critical or alternative ways of the tourism which changes from mass-tourism to new-tourism or post mass-tourism.

MAN590R1

産業政策特殊講義（地域産業論）

橋本 正洋

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを目指すために、どのような政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深めることを目指す。具体的には、ケーススタディなどのプレゼンテーションやグループディスカッションなどを通して、あるべき地域産業政策の内容などを議論する。

【到達目標】

わが国地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ゲスト講師のほか、受講者からのプレゼンテーション報告を行う。報告内容を基に、グループディスカッションを行い、討議から得られた内容を発表する。講義に関しては、受講者の能動的かつ積極的な参加を求める。取り上げるテーマは、受講生の希望、ゲスト講師の選定などにより柔軟に検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	受講者の関心、問題意識などを確認し、講義の進め方などを確認する。
第 2 回	日本経済の状況	受講者からのプレゼンテーションを基に、マクロの観点からわが国経済、産業動向などがどうなっているか、どのような政策が重視されているかを理解する。
第 3 回	地域経済の状況①	受講者からのプレゼンテーションを基に、各地域の経済動向、産業上の強みなどを理解する。その上で、政策の効果などを評価する。
第 4 回	地域経済の状況②	第 3 回の講義内容を基に、地域における産業育成、その強化に必要な取り組みに関するプレゼンテーション、およびグループディスカッションを行う。
第 5 回	地域産業に関する政策	受講者からのプレゼンテーションにより、政府、地方自治体が進める政策内容を確認する。どのような政策が必要と考えられるか、グループディスカッションを行う。
第 6 回	地域産業の動向	受講者からのプレゼンテーションにより、地域での企業の経営状況、業績動向などを把握する。地域における企業の育成、競争力向上などのためにどのような取り組みが必要か、グループディスカッションを行う。

第7回 まとめ

これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントを抑える。また、受講者からの発表などを通して、疑問点などを確認し、更なる理解を深める機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発表・ディスカッションへの参加等）（おおむね50%）、プレゼンテーション（おおむね50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【Outline (in English)】

"Lectures on Regional Industry" is designed to understand business activities in regions of Japan. Based on the discussions in the class (mainly, group discussion), students will be required to present policy proposals to economic development in the region.

MAN590R1

産業政策特殊講義（地域経営戦略論）

橋本 正洋

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方経済再生に必要な取り組みを経済産業政策、企業経営戦略などの側面から多面的に考え、その内容を実務（政策立案・運営、企業戦略など）に活かすことを目指す。

【到達目標】

具体的に、日本経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地域経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は、実際の経済活動の中で関心のある事象を選び、地方経済再生との関係に基づいて分析を行い、発表を行う。また、グループディスカッションを行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。実際の内容については、受講者の人数や希望に応じてフレキシブルに対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	受講者の関心などを確認し、どのような観点か地方創生などに関する取り組みを議論すべきか、ディスカッションを行う。
第2回	地域経営と政策	教員またはゲスト講師からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策（マクロ、地方振興策など）の方向性、特徴を確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解する。
第3回	地域経営戦略のケーススタディ①	受講生のプレゼンテーションを基に、比較的成功していると考えられる地方創生のケーススタディを行う。その上で、グループディスカッションを行い、企業経営や地方自治体の采井に必要な取り組みなどを議論する。
第4回	地域経営戦略のケーススタディ②	受講生のプレゼンテーションを通して、企業経営に焦点を当て、地方に本拠地を置く企業がどのような状況にあるか、その中でどのような産業、企業が競争力を発揮していると考えられるかを確認する。また、グループディスカッションを行う。

第 5 回	地域経営戦略のケース スタディ③	受講生のプレゼンテーションより、近年わが国の地方経済に無視できない影響を与えている観光ビジネスの動向を理解する。さらに、グループディスカッションを行い、どのような取り組みが必要が、理解を深める。
第 6 回	地域経営戦略のケース スタディ④	受講生のプレゼンテーションを基に、経済政策の視点から、どのような政策プログラムが地方経営に必要と考えられるか、グループディスカッションを行う。
第 7 回	まとめ	一連の講義を通して、地域地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地域経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発表・ディスカッションへの参加等）（おおむね 50 %）、プレゼンテーション（おおむね 50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション、グループディスカッションへの積極的参加が重要

【その他の重要事項】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとした。

【Outline (in English)】

This lecture will consider the efforts necessary for local economic revitalization from the aspects of economic and industrial policy, corporate management strategy, etc., and utilize the contents in practice (policy planning / management, corporate strategy, etc.).
aim.

MAN590R1

産業政策特殊講義（地域イノベーション論）

橋本 正洋

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業において起こるイノベーションは、企業における各国の環境（ナショナルイノベーションシステム）に強く影響を受ける。これは、国によって異なる法制度、税制、知財制度や金融、支援組織などの成り立ちによる。地域でイノベーションを起こすためには、国レベルと地域レベルで適切なイノベーション政策を構築していく必要がある。本講義では、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策のうち重要なものを取り上げ、それらの歴史的背景と現在の課題について検討する。これに基づき、地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察する

【到達目標】

イノベーションとは何かを踏まえ、日本のイノベーション政策の大きな流れ、特に構造改革型政策を理解し、地域イノベーションとの関係を認識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

イノベーション創生のモデルを踏まえ、関係するイノベーション政策について概観したうえで、グループワークにより個別の政策、システムについて検討し、グループ及び全体で討議することにより本質的な理解を得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的、進め方について説明し、イノベーションに関する基本的概念とモデルを説明する。
2	イノベーション政策概観	日本のイノベーション政策を概観し、重要な事項について解説する。グループ分けを行い課題を選択する。
3	イノベーション政策 1	科学技術基本法制定、総合科学技術・イノベーション会議設置と日本のイノベーション政策
4	イノベーション政策 2	大学等技術移転促進法制定（TLO 法）、99 年：産業活力再生特別措置法制定（日本版バドール）と大学技術移転、大学発ベンチャー
5	イノベーション政策 3	国立大学法人化・大学改革
6	イノベーション政策 4	産業クラスター・地域イノベーション政策
7	イノベーション政策 5	省庁再編・独法改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている産業経済活動や政策について関心を高め、それが国全体及び地方の産業社会と、どのような関係にあるかを常に考えることが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

講義の際に適宜資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループディスカッション、講義への貢献（およそ 50 %）及び最終課題（およそ 50 %）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度新規担当者につきなし。なお毎回講義後にアンケートによりフィードバックを行い、講義の内容を調整する。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。経済産業省における実経験とそのネットワークにより内容を構成します。

【Outline (in English)】

Innovation that occurs in a company is strongly influenced by the environment of each country (National Innovation System) in the company. This is due to the establishment of legal systems, tax systems, intellectual property systems, finance, and support organizations that differ from country to country. In order to bring about innovation in the region, it is necessary to establish appropriate innovation policies at the national and regional levels. In this lecture, we will take up important national and regional innovation policies necessary for regional economic revitalization strategies, and examine their historical background and current issues. Based on this, we will consider the ideal way of regional industrial policy to create regional innovation and the strategic theory for regional economic revitalization.

MAN590R1

企業経営特殊講義（中小企業論）

井上 善海

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

【到達目標】

- ①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
- ②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。
4	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。
5	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や他地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上善海編著（2022）『中小企業経営入門』中央経済社（2,300 円）

【参考書】

井上善海編（2009）『中小企業の戦略』同友館（2,800 円）
 中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
 その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（40％）、講義内で課す課題レポート（60％）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

MAN590R1

企業経営特殊講義（経営戦略論）

井上 善海

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経営戦略に関するこれまでの論点と研究成果を体系的に提示するとともに、その理論的枠組みを考察していくことをねらいとしています。このため、経営戦略の中でも事業戦略に焦点を当て、その策定・実行・評価のプロセスに従い、戦略の基礎理論とケーススタディを組み合わせ講義を進めます。これにより、伝統的理論からどのようにして現代の新しい戦略論が抽出・形成されてきたのかを理解していただきます。

【到達目標】

- ①経営戦略論の史的要因を説明できる。
- ②経営戦略の策定・実行・評価のプロセスを説明できる。
- ③経営戦略の理論を実践（ケーススタディ）で検証できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営戦略とは ミッション	企業経営における経営戦略の役割と企業活動レベルごとの戦略の広がりについて。ミッションの明確化が戦略策定の最初の段階に位置付けられ、最も重要な戦略要素となることについて。
2	ドメイン 環境・資源分析	ドメインにコア・コンピタンスの考え方が深くかかわっていることについて。経営環境と経営資源をマトリックスで分析することについて。
3	成長ベクトル 多角化	製品と市場の組み合わせにより、企業の成長戦略を4つに分類できることについて。成長戦略のなかでもリスクの高い多角化について。
4	製品ポートフォリオ・マネジメント	2次元マトリックスによる複数の事業や製品に対する資源配分決定について。
5	成長戦略の展開 業界の構造分析 競争の基本戦略	グローバル戦略、戦略提携について。5つの競争要因分析について。競争の基本戦略の役割と競争地位ごとに採用する戦略の違いについて。
6	バリューチェーン 競争戦略の展開	バリューチェーンの構成とコアベティション戦略について。タイムベース戦略、ディファクトスタンダード戦略、ブルーオーシャン戦略について。
7	経営戦略の実行と評価	戦略は計画的に策定され、創発的に形成されなければならないことについて。戦略評価について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上・大杉・森（2022）『経営戦略入門』中央経済社（2,200 円）

【参考書】

井上善海・佐久間信夫編（2008）『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房（2,500 円）
 その他、各回の講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（40％）、講義内で課す課題レポート（60％）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

This lecture aims to systematically present past issues and research results on management strategy and to examine its theoretical framework. For this reason, we will focus on business strategy among management strategies, and pursue a lecture that combines the basic theory of strategy and case study according to the process of formulation, execution and evaluation. By doing this, you understand how the modern new strategy theory has been extracted and formed from traditional theory.

MAN590R1

企業経営特殊講義（新産業創出論）

井上 善海

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第4次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。第4次産業革命は、大企業だけでなく中小企業や地域経済へも大きな影響を与えています。

本講義では、第4次産業革命に対応した地域経済の発展と中小企業に焦点を当て、地域の産業資源を最大限に活用した新産業創出のあり方やそれを支援する政策について考察を行います。

【到達目標】

- ①第4次産業革命の地域経済や中小企業への影響について説明できる。
- ②新産業創出の外発的、内発的な政策について説明できる。
- ③新産業創出のための支援機関や自治体の独自政策の必要性について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

5回の授業は、外部からゲスト講師を招いて、多角的な視点から新産業の創出について考察を行います。また、授業の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、授業内容に関する質問は、授業中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第4次産業革命と新産業創出	第4次産業革命が新産業創出に及ぼす影響について。
2	多様なイノベーションの組み合わせによる新産業創出	宇宙産業と中小製造業のイノベーションについて。 【ゲスト講師：元大手電機メーカー経営企画担当】
3	オープンイノベーションによる新産業創出	イノベーションを加速化するためのオープンイノベーションシステムについて。 【ゲスト講師：大手飲料メーカー R&D 担当】
4	新産業創出支援機関の役割	中小機構の新事業創出支援の役割、商工会議所のビジネスサポートデスクの役割、事例 【ゲスト講師：中小機構チーフアドバイザー】
5	新産業創出と知的財産権	迅速かつ柔軟な新産業創出を可能とする知的財産戦略について。 【ゲスト講師：特許事務所長・弁理士】
6	IT 投資による新産業創出	新産業創出における IT 投資の重要性について。 【ゲスト講師：元マイクロソフト IT 担当】
7	産学連携による新産業創出	大学研究室と地域企業との連携による様々な製品開発や実用化研究について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での平常点（講義内での発言・貢献度）40%、講義内で課す課題レポート60%により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The 4th industrial revolution where new industries are born by IoT, big data, artificial intelligence (AI), technological innovation typified by robot is progressing with unexpected speed and impact. The Fourth Industrial Revolution has great influence not only on large enterprises but also on SMEs and regional economies. In this lecture, we focus on the development of regional economies that respond to the Fourth Industrial Revolution and focus on small and medium enterprises and consider how to create new industries that maximally utilize local industrial resources and policies that support them.

MAN590R1

企業経営特殊講義（商店街活性化論）

井上 善海

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人口減少、大型店の郊外進出、コンビニの出現・増加、ネット通販の拡大等、商店街を取り巻く経営環境は、それぞれの時代において大きく変化してきました。それに対し、政府は各種の中心市街地政策や商店街政策を講じてきましたが、これらの政策が目に見える効果を上げてきたかどうかは議論が分かれるところではあります。

本講義では、商店街が今後も地域コミュニティの担い手として期待される役割を発揮していくためには、どのような政策や取り組みが必要かについて考察していきます。

【到達目標】

- ①地域経済における商店街の役割について説明できる。
- ②ショッピングセンター等の商業集積とは異なった商店街の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、存続・成長を続けていくための商店街活性化策について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料をもとに進めます。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	流通革命と中小小売業	消費者サイドが市場を定義する主役となる第三次流通革命の進展と中小小売業の対応について。
2	商店街の現状と歴史	小売立地の構造的変化と商店街の衰退、規制緩和と競争激化、業種から業態への変化、ネットワーク化への対応といった中小小売業の経営危機について。
3	商業集積としての商店街	自然発生的な日本の商店街と計画形成的な米国発祥のショッピングセンターとの経営特性の違いについて。
4	地域経済における商店街の役割	地域コミュニティの核となる商店街の果たすべき社会的、公共的役割の向上を通じて、商店街に賑わいを創出し活性化を図ることについて。
5	商店街活性化政策① 「商店街活性化計画」	商店街のもつ限られた経営資源を効率良く活用するための「商店街活性化計画」について。
6	商店街活性化政策② 「空き店舗対策・個店の魅力アップ」	商店街は個店の集積であり、魅力ある個店が増えることで商店街が活性化することについて。
7	商店街活性化政策③ 「後継者育成」	若手・後継者などの内部人材を商店街の新たな担い手として発掘・育成することについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での 平常点（講義内での 発言・貢献度） 4 0 %、講義内で課す課題レポート 6 0 % により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The business environment surrounding shopping districts has changed dramatically in each era, such as population decrease, the expansion of large stores in the suburbs, the appearance and increase of convenience stores, and the expansion of online mail order. On the other hand, the government has taken various central city policies and shopping street policies, but it is a matter of argument whether these policies have made visible effects. In this lecture, we will consider what policies and initiatives are necessary for the shopping district to continue to demonstrate the role expected as a carrier of the local community.

MAN590R1

CSR 特殊講義 (CSR 論)

小方 信幸

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、CSR を本業を通じ社会的価値と経済的価値を創造する CSV (Creating Shared Value, 共通価値の創造) と定義する。授業の前半では講義を行い、後半はグループディスカッションを行う。講義とグループ討議および全体討議を通じ、企業が CSV を実現する経路を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

受講生は、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造する「共通価値の創造」について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」に授業資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。

原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループ及び全体討議を行う。CSV を実践している企業のケースを通じて、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造する経路を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) 歴史から学ぶ CSR 概念の形成と変遷
2	共通価値の創造 (CSV)	(1) M. ポーター他「共通価値の創造」戦略 (2) ケース：ネスレの CSV 戦略
3	サステナビリティ経営	ケース：ユニリーバのサステナビリティ経営
4	クレド経営	ケース：ジョンソン・エンド・ジョンソンの我が信条 (Our Credo)
5	長期志向経営	ケース：ノボ・ノルディスク
6	日本の中小企業におけるサステナビリティ経営	ケース：サラヤ株式会社
7	日本の中小企業における CSV 戦略	ケース：石坂産業株式会社ア社

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 配布資料を事前に読んで、グループ討議で発言できるように準備する。
(2) 授業を振り返り論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加・授業貢献 (40%)、期末レポート (60%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 学生から評価されたグループ討議を今年度も継続し、学生間で議論し考える時間を適切に確保する。また、教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。

(2) 企業のサステナビリティ・CSR 部門の責任者をゲストスピーカーとして招聘したところ、受講生全員から CSR および CSV についての理解が深まったとの感想が寄せられた。2022 年度も授業の目的に合った方をゲストスピーカーとして招聘する考えである。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカーを招く場合は、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

In this class, CSR is defined as creating shared value (CSV), which is the realization of social and economic value through the core business. The first half of the class will consist of lectures and the second half will consist of group discussions. The purpose of the lecture and group discussion is to learn the pathway for companies to realize CSV.

MAN590R1

CSR 特殊講義（企業活動と社会 I）

小方 信幸

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動において法令遵守は最低限の企業の社会的責任という。しかし、国内外を問わず非倫理的行為である企業不祥事は後を絶たない。そこで、当授業では、ケースメソッドを用い、企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき経営倫理のフレームワークを理解する。授業の前半は主に講義を行う。後半はケース・メソッドで授業を進め、さらにグループディスカッションを行う。

【到達目標】

- (1) 経営倫理のフレームワークを理解できる。
- (2) 現実のビジネスで企業が非倫理的行為を行う原因を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

当科目では最初に規範倫理学の基礎理論を学ぶ。そのうえでケースメソッドを用いて企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき経営倫理のフレームワークを理解する。授業前半は主に講義を行い、後半はケース・メソッドで授業を進める。グループ討議、全体討議を通じて、経営倫理についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 経営倫理の理論（1） 功利主義と現代社会	（1）講義：倫理的利己主義と功利主義 （2）ケース：フォード・ピントのケース
2	経営倫理の理論（2） カント「義務論」	（1）講義：カント「義務論」 （2）ケース：ブレント・スパーの処理を巡るケース
3	経営倫理の理論（3） ロールズ「正義論」	（1）講義：ロールズ「正義論」 （2）ケース：貧富の差について考える
4	経営倫理の実践（1） 視点で米国社会の現状 を考える。	経済的格差の是正に必要なことは何か。
5	経営倫理の実践（2） 顧客関連の倫理	（1）講義 （2）ケース：シアーズ自動車センター
6	経営倫理の実践（3） 従業員関連の倫理	（1）講義 （2）ケース：ソーラーブラインド
7	経営倫理の実践（4） 国際経営の倫理	（1）講義：児童労働 （2）ケース：ネスレの児童労働廃絶への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 配布資料を事前に読み、授業で発言できるように準備する。
- (2) 授業を振り返り、論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

梅津光弘（2002）『ビジネスの倫理学』丸善出版、1,900 円＋税

マイケル・サンデル（訳）鬼澤忍（2011）『これからの「正義」の話
をしよう』早川書房（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）、900 円＋
税 その他の参考書は都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60% を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゲストスピーカーを招聘したところ、企業倫理に対する理解が深まったというフィードバックがあった。今年度もゲストスピーカー招聘を検討する。また、講義とグループ討議の組み合わせは理解を深めるとのフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】

ゲスト・スピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を一部変更することもある。

【Outline (in English)】

In corporate activities, compliance with laws and regulations is the minimum social responsibility of a company. However, there has been no end to the number of corporate scandals, both in Japan and abroad, involving unethical behavior. In this class, we will use the case method to examine unethical corporate behavior and understand the framework of corporate ethics as it should be. The first half of the class will consist mainly of lectures. In the second half of the class, the case method will be used and group discussions will be held.

MAN590R1

CSR 特殊講義（ESG 投資と企業経営）

小方 信幸

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、国連が持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）を制定した歴史的背景を理解することを目的とする。併せて、SDGs の 17 目標について理解し、さらに、SDGs とサステナビリティ経営の関係を理解することも目的とする。

【到達目標】

- （1）国連が持続可能な開発目標（SDGs）を制定した歴史的背景を理解できる。
- （2）SDGs の 17 の目標を理解できる。
- （3）SDGs とサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループ討議を行う。講義とグループ討議を通じて、SDGs と企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	（1）国連の理念 （2）SDGs 誕生の歴史的背景 （3）企業が SDGs に取り組む理由
2	SDGs の人々 （People）に関する目標（1）	SDGs 目標 1-6 （1）人権についての基本的な理解を深める （2）ネスレの児童労働撲滅の取り組み
3	SDGs の人々 （People）に関する目標（2）	SDGs 目標 1-6 貧困問題に取り組むソーシャルビジネスの可能性を考える。
4	SDGs の繁栄 （Prosperity）に関する目標（1）	SDGs 目標 7-11 企業におけるジェンダーダイバーシティ
5	SDGs の繁栄 （Prosperity）に関する目標（2）	SDGs 目標 7-11 従業員の働き方改革
6	SDGs の地球 （Planet）に関する目標（1）	SDGs 目標 12-15 （1）気候変動 （2）脱炭素
7	SDGs の地球 （Planet）に関する目標（2）	SDGs 目標 12-15 （1）廃棄物 （2）生物多様性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるというフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を変更することもある。

【Outline (in English)】

The first objective of this class is to understand the historical background of the Sustainable Development Goals (SDGs) established by the United Nations. The next objective is to understand the 17 goals of the SDGs, and then to understand the relationship between the SDGs and sustainability management.

MAN590R1

CSR 特殊講義 (SDGs と企業経営)

小方 信幸

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、国連が持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）を制定した歴史的背景を理解することを最初の目的とする。つぎに、SDGs の 17 目標について理解し、さらに、SDGs とサステナビリティ経営の関係を理解することを目的とする。

【到達目標】

- （1）国連が持続可能な開発目標（SDGs）を制定した歴史的背景を理解できる。
- （2）SDG s の 17 の目標を理解できる。
- （3）SDG s とサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループ討議を行う。講義とグループ討議を通じて、SDG s と企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	（1）SDGs 誕生の歴史的背景 （2）17 目標の全体像
2	SDG s の概念整理	（1）SDGS を 5 つの P で理解する。 （2）SDGs と CSV,CSR, ESG 投資との関係。
3	SDGs の人々（People）に関する目標（1）	貧困、飢餓、健康と福祉に関する目標（SDGs Goal 1,2,3）と企業経営。
4	SDGs の人々（People）に関する目標（2）	教育、ジェンダー平等、安全な水とトイレに関する目標（SDGs Goal 4,5,6）と企業経営。
5	SDGs の繁栄（Prosperity）に関する目標（1）	クリーンエネルギー、働きがい、技術革新に関する目標（SDGs Goal 7,8,9）と企業経営
6	SDGs の繁栄（Prosperity）に関する目標（2）	人や国の不平等、街づくりに関する目標（SDGs Goal 10,11）と企業経営
7	SDGs の地球（Planet）に関する目標	つくる責任つかう責任、気候変動、海の豊かさ、陸の豊かさに関する目標（SDGs Goal 12,13,14,15）と企業経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるというフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を変更することもある。

【Outline (in English)】

The first objective of this class is to understand the historical background of the Sustainable Development Goals (SDGs) established by the United Nations. The next objective is to understand the 17 goals of the SDGs, and then to understand the relationship between the SDGs and sustainability management.

